

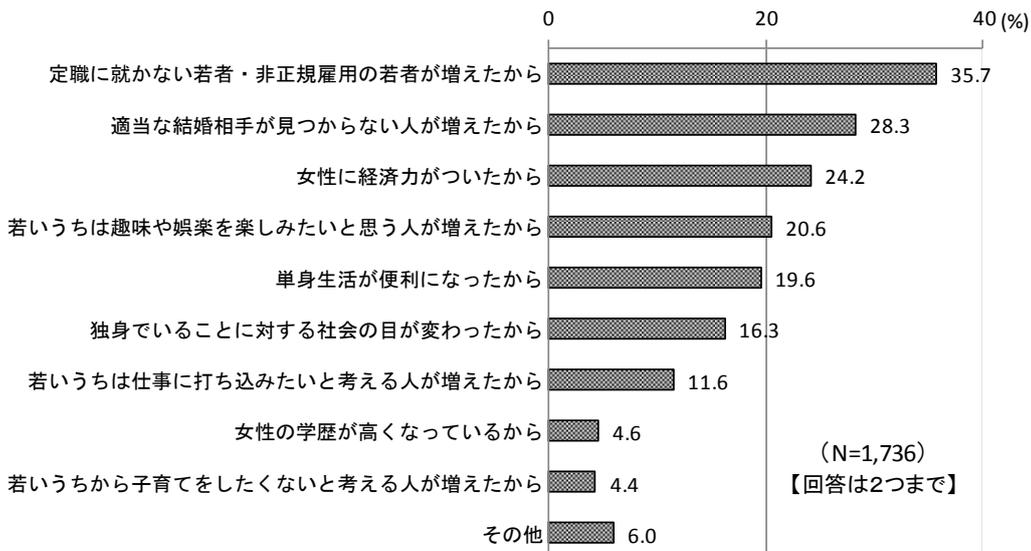
第 2 章 子育てしやすいまちづくり

2-1 結婚、妊娠・出産

(1) 結婚する年齢が高くなっている原因

「定職に就かない若者・非正規雇用の若者が増えたから」が 35.7%で 1 位。

問 11 最近、結婚する年齢が高くなっていますが、あなたはその原因は何だと思えますか。次の中から 2 つまで (1 つでもかまいません) 選び、番号に○印をつけてください。



◆属性別特徴

【性別】

- ・男女ともに「定職に就かない若者・非正規雇用の若者が増えたから」が3割半ばで最も高い。
- ・女性は「女性に経済力がついたから」が男性より高く、男性は「若いうちは趣味や娯楽を楽しみたいと思う人が増えたから」が女性より高くなっている。

【性別・年齢別】

- ・70歳以上男性と40歳代女性は「定職に就かない若者・非正規雇用の若者が増えたから」が4割台で、他の年齢層より高い。
- ・20歳代では男女ともに「若いうちは趣味や娯楽を楽しみたいと思う人が増えたから」が最も高い。
- ・30歳代女性では「適当な結婚相手が見つからない人が増えたから」が3割台で最も高い。

【職業別】 農林漁業では「独身でいることに対する社会の目が変わったから」が、学生では「若いうちは趣味や娯楽を楽しみたいと思う人が増えたから」と「適当な結婚相手が見つからない人が増えたから」が同率で最も高い。

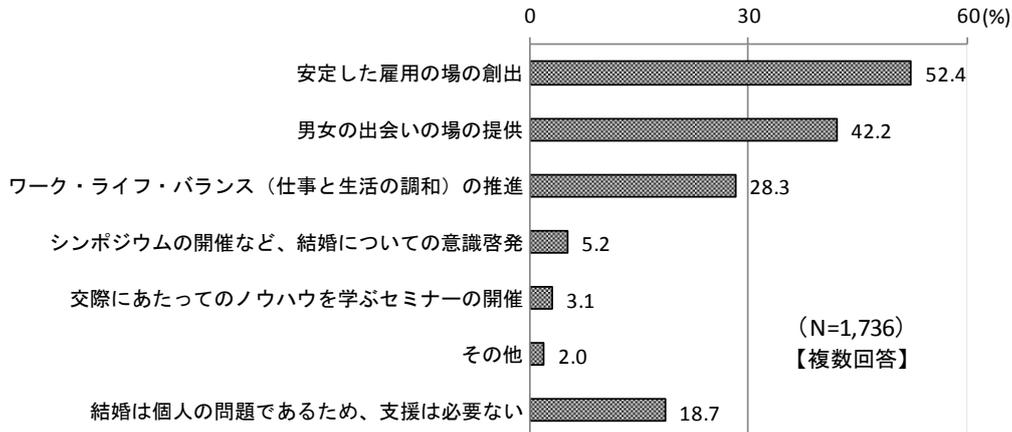
【配偶関係別】 結婚していない人は「若いうちは趣味や娯楽を楽しみたいと思う人が増えたから」「若いうちは仕事に打ち込みたいと考える人が増えたから」が結婚している人より高く、「定職に就かない若者・非正規雇用の若者が増えたから」は結婚している人の方が高くなっている。また、「女性に経済力がついた」は配偶者と離別・死別した人で31.4%と他の配偶関係より高くなっている。

	標本数(票)	結婚する年齢が高くなっている原因 (%)															
		が増えたいから	若いうちから楽しむ趣味や人	増えたいから	若いうちから仕事に打ち込む	増えたいから	若いうちから子育てをする	かんな結婚相手が見つからない	適当な結婚相手が見つからない	女性の学歴が高くなっているから	女性に経済力がついたから	社会の目が変わってきたから	単身生活が便利になっ	えたら	非正規雇用の若者が増	定職に就かない若者	その他
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,736)	20.6 (357)	11.6 (202)	4.4 (76)	28.3 (492)	4.6 (79)	24.2 (420)	16.3 (283)	19.6 (340)	35.7 (620)	6.0 (104)	2.9 (50)					
性別																	
男性	792	23.4	10.0	6.1	26.4	2.9	20.7	15.5	19.9	36.0	7.3	3.4					
女性	944	18.2	13.0	3.0	30.0	5.9	27.1	16.9	19.3	35.5	4.9	2.4					
性別×年齢別																	
男性:20歳代	103	42.7	17.5	3.9	29.1	1.9	16.5	9.7	16.5	28.2	7.8	1.0					
男性:30歳代	145	29.7	10.3	5.5	26.2	-	13.8	12.4	17.2	33.1	13.1	2.8					
男性:40歳代	126	26.2	10.3	5.6	18.3	3.2	21.4	21.4	22.2	34.9	9.5	2.4					
男性:50歳代	151	17.9	7.3	7.3	33.8	4.0	21.2	18.5	20.5	37.7	4.6	3.3					
男性:60歳代	179	15.1	10.6	5.6	22.9	3.4	27.4	16.2	22.9	36.3	4.5	5.6					
男性:70歳以上	88	12.5	3.4	9.1	29.5	5.7	21.6	12.5	18.2	47.7	4.5	4.5					
女性:20歳代	103	36.9	27.2	5.8	28.2	2.9	21.4	13.6	9.7	26.2	4.9	1.9					
女性:30歳代	134	22.4	19.4	3.0	33.6	4.5	24.6	14.2	16.4	32.8	9.0	0.7					
女性:40歳代	172	16.3	12.2	1.2	28.5	5.8	29.1	14.0	20.9	40.7	7.6	2.9					
女性:50歳代	180	18.3	10.6	2.8	30.6	3.9	26.1	20.6	18.3	38.9	4.4	2.8					
女性:60歳代	220	10.5	9.5	1.4	28.6	9.1	26.4	22.3	22.7	37.7	2.3	2.3					
女性:70歳以上	135	14.8	5.9	5.9	31.1	7.4	34.1	12.6	23.0	30.4	2.2	3.7					
職業別																	
農林漁業	44	11.4	6.8	4.5	29.5	9.1	25.0	31.8	25.0	29.5	4.5	2.3					
自営業	169	19.5	10.1	4.1	29.6	5.3	26.0	15.4	20.1	32.5	4.7	4.1					
給与所得者(常勤)	635	23.9	12.3	4.4	26.9	3.8	24.4	18.0	20.2	33.2	6.8	3.0					
パート・アルバイト (学生は除く)	288	21.5	9.0	1.0	28.8	4.5	22.6	15.3	17.4	42.4	7.3	2.8					
学生	40	32.5	27.5	5.0	32.5	2.5	25.0	12.5	15.0	22.5	7.5	-					
家事に専念	203	15.8	16.7	3.0	35.0	4.9	25.6	16.7	17.7	36.0	5.9	1.5					
無職	318	16.7	8.5	7.5	24.8	5.3	23.3	13.5	21.4	39.3	3.5	2.8					
その他	19	-	15.8	10.5	26.3	-	10.5	-	31.6	36.8	15.8	10.5					
無回答	20	35.0	15.0	10.0	35.0	5.0	35.0	15.0	5.0	25.0	5.0	5.0					
配偶関係別																	
結婚している	1,135	18.7	10.0	4.3	29.0	4.3	24.9	16.5	20.4	38.2	6.3	2.6					
配偶者(パートナー)と 離別・死別	194	17.0	10.8	5.2	23.2	8.8	31.4	17.0	20.1	33.5	2.6	4.1					
結婚していない	397	28.2	16.1	4.0	29.2	3.0	18.4	15.4	17.4	29.7	6.8	2.8					
無回答	10	-	30.0	10.0	20.0	10.0	30.0	20.0	-	30.0	-	20.0					

(2) 結婚を希望する人に対する支援

「安定した雇用の場の創出」(52.4%) や「男女の出会いの場の提供」(42.2%) などの支援が必要とされている。

問 12 あなたは、結婚を希望する人に対して、どのような支援があればよいと思いますか。
(あてはまる番号にいくつでも○印)



◆属性別特徴

【性別】男女とも「安定した雇用の場の創出」が5割台で最も高く、男性の方が女性よりも 3.9 ポイント高くなっている。

【性別・年齢別】

- ・50 歳代男性と 70 歳以上男性は「安定した雇用の場の創出」が6割台、50 歳代女性でも 59.4%と女性のなかでは最も高い。
- ・30 歳代男性と 70 歳以上女性で「男女の出会いの場の提供」が最も高い。
- ・女性は「ワーク・ライフ・バランスの推進」で年齢が下がるほど割合が高くなる傾向があり、20 歳代で 44.7%となっている。

【職業別】農林漁業では「男女の出会いの場の提供」、学生は「ワーク・ライフ・バランスの推進」が最も高い。

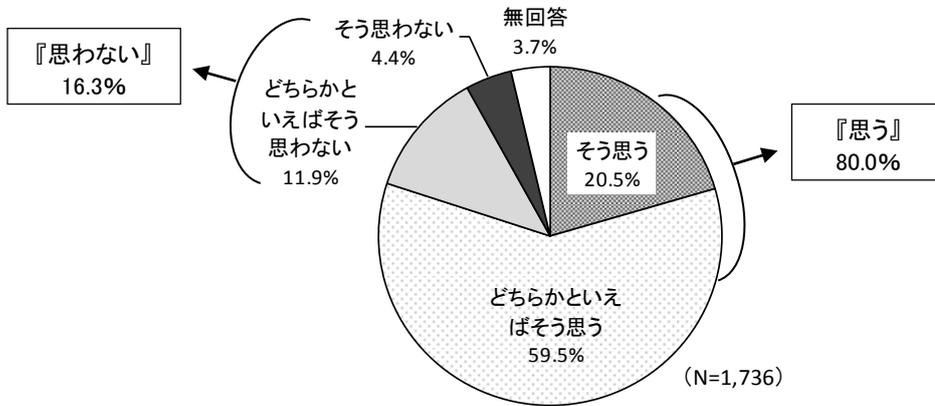
【配偶関係別】結婚していない人は「ワーク・ライフ・バランスの推進」「結婚は個人の問題であるため、支援は必要ない」が結婚している人よりも高く、結婚している人は「安定した雇用の場の創出」「男女の出会いの場の提供」が他の配偶関係よりも高くなっている。

	標本数(票)	結婚を希望する人に対して必要な支援 (%)												
		の意識啓発など、結婚について	シンポジウムの開催	ノウハウの提供	交際にあつての場	男女の出会いの場の提供	の調和(仕事と生活)	ワーク・ライフ・生活	創出した雇用の場の	安定した雇用の場の	その他	要らない	あは個人の問題は	結婚のため、支援は
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,736)	5.2 (90)	3.1 (54)	42.2 (732)	28.3 (491)	52.4 (910)	2.0 (34)	18.7 (324)	3.3 (58)					
性別														
男性	792	6.9	3.4	42.4	26.4	54.5	2.7	17.9	3.7					
女性	944	3.7	2.9	41.9	29.9	50.6	1.4	19.3	3.1					
性別×年齢別														
男性:20歳代	103	6.8	3.9	41.7	37.9	52.4	2.9	15.5	1.9					
男性:30歳代	145	3.4	2.1	44.8	17.9	42.8	4.8	24.1	3.4					
男性:40歳代	126	4.8	2.4	38.9	28.6	52.4	1.6	21.4	3.2					
男性:50歳代	151	6.0	2.6	47.7	25.8	62.9	3.3	12.6	4.0					
男性:60歳代	179	8.9	5.0	40.8	24.0	54.7	1.7	19.0	5.0					
男性:70歳以上	88	13.6	4.5	38.6	29.5	64.8	1.1	12.5	3.4					
女性:20歳代	103	3.9	1.0	36.9	44.7	48.5	1.0	16.5	1.9					
女性:30歳代	134	2.2	0.7	41.0	34.3	43.3	0.7	31.3	0.7					
女性:40歳代	172	2.9	1.7	41.9	34.9	52.9	3.5	18.6	2.3					
女性:50歳代	180	3.3	2.8	46.1	27.8	59.4	1.7	12.2	2.2					
女性:60歳代	220	5.5	3.6	39.1	26.4	50.9	0.9	20.0	4.1					
女性:70歳以上	135	3.7	6.7	45.9	16.3	44.4	-	18.5	6.7					
職業別														
農林漁業	44	9.1	4.5	47.7	20.5	43.2	4.5	13.6	2.3					
自営業	169	4.7	3.0	38.5	18.3	46.2	1.8	23.7	4.1					
給与所得者(常勤)	635	4.1	2.5	44.6	32.9	53.1	2.4	16.7	3.3					
パート・アルバイト (学生は除く)	288	2.8	1.7	36.5	25.7	52.8	1.4	25.0	1.7					
学生	40	15.0	7.5	37.5	67.5	50.0	5.0	5.0	2.5					
家事に専念	203	6.4	4.4	49.8	29.1	58.1	1.0	13.3	3.0					
無職	318	6.6	3.8	38.1	22.6	52.2	1.3	21.4	4.4					
その他	19	15.8	5.3	47.4	31.6	63.2	10.5	5.3	5.3					
無回答	20	5.0	5.0	60.0	20.0	40.0	-	10.0	10.0					
配偶関係別														
結婚している	1,135	5.5	3.2	44.9	27.7	55.0	1.8	17.3	2.9					
配偶者(パートナー)と 離別・死別	194	4.1	3.1	41.2	24.2	49.0	1.5	19.1	5.7					
結婚していない	397	5.0	3.0	34.8	32.0	46.9	2.8	22.4	3.3					
無回答	10	-	-	40.0	30.0	50.0	-	20.0	10.0					

(3) 安心して妊娠・出産できる環境

久留米市は安心して妊娠・出産できる環境が整っていると『思う』人は8割。

問 13 あなたは、久留米市は安心して妊娠・出産できる環境が整っていると思いますか。
 (あてはまる番号に1つだけ○印)



◆属性別特徴

【性別】女性は「どちらかといえば思う」が男性より5.2ポイント高いが、『思う』割合では男女の差はあまりみられない。

【性別・年齢別】

- ・30歳代男性で『思う』が73.1%と他の年齢層よりも低くなっている。
- ・40歳代男性と30歳代女性では「そう思う」が他の年齢層よりもやや高くなっている。

【子どもの状況別】中学生以下の子どもがいる世帯では『思う』が8割台となっている。

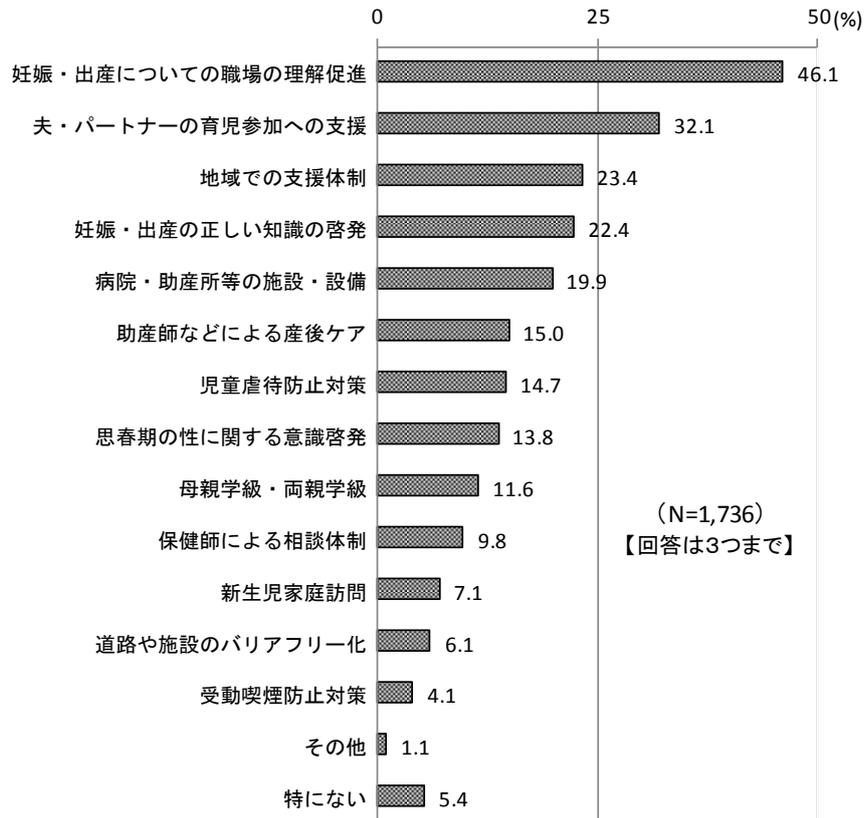
【住みやすさ別】住みやすいと思う人ほど『思う』が高くなる傾向があり、住みにくいと思う人との『思う』の割合の差が35.9ポイントと大きい。

		標本数 (票)	安心して妊娠・出産できる環境 (%)						『思う』	『思わない』
			そう思う	えどち ばそう かと思 うい	ない えどち ばそう かと思 わい	えどち ばそう かと思 わい	そう 思わ ない	無 回 答		
全体 (カッコ内は標本数)		100.0 (1,736)	20.5 (356)	59.5 (1,033)	11.9 (207)	4.4 (76)	3.7 (64)	80.0 (1,389)	16.3 (283)	
性別	男性	792	22.2	56.7	12.1	4.8	4.2	78.9	16.9	
	女性	944	19.1	61.9	11.8	4.0	3.3	81.0	15.8	
性別× 年齢別	男性:20歳代	103	19.4	63.1	9.7	5.8	1.9	82.5	15.5	
	男性:30歳代	145	19.3	53.8	14.5	8.3	4.1	73.1	22.8	
	男性:40歳代	126	27.8	54.8	11.9	2.4	3.2	82.6	14.3	
	男性:50歳代	151	21.9	57.6	12.6	2.6	5.3	79.5	15.2	
	男性:60歳代	179	21.8	57.0	10.6	5.6	5.0	78.8	16.2	
	男性:70歳以上	88	23.9	54.5	13.6	3.4	4.5	78.4	17.0	
	女性:20歳代	103	18.4	59.2	17.5	2.9	1.9	77.6	20.4	
	女性:30歳代	134	24.6	56.7	11.2	6.0	1.5	81.3	17.2	
	女性:40歳代	172	18.0	62.8	11.0	5.2	2.9	80.8	16.2	
	女性:50歳代	180	13.3	69.4	8.9	5.6	2.8	82.7	14.5	
女性:60歳代	220	20.9	60.0	11.4	2.3	5.5	80.9	13.7		
女性:70歳以上	135	20.0	60.7	13.3	2.2	3.7	80.7	15.5		
子ども の状 況別	世帯の中に就学前の子どもがいる	212	30.2	54.2	9.9	5.2	0.5	84.4	15.1	
	世帯の中に小学生がいる	199	25.1	58.8	10.6	4.5	1.0	83.9	15.1	
	世帯の中に中学生がいる	132	20.5	59.8	12.1	6.1	1.5	80.3	18.2	
	世帯の中に上記以外の18歳未満の 子どもがいる	174	21.3	54.6	16.7	4.6	2.9	75.9	21.3	
	上記にあてはまる人はいない 無回答	1,192 17	18.1 35.3	60.7 35.3	11.9 17.6	4.5 5.9	4.7 5.9	78.8 70.6	16.4 23.5	
住 み やす い や す い な い	住みやすい	1,426	22.6	62.4	9.6	2.5	2.9	85.0	12.1	
	どちらでもない	184	10.3	48.9	22.8	9.8	8.2	59.2	32.6	
	住みにくい	110	10.9	38.2	24.5	20.0	6.4	49.1	44.5	
	無回答	16	18.8	68.8	6.3	6.3	-	87.6	12.6	

(4) 安全・安心な妊娠・出産のための環境整備

「妊娠・出産についての職場の理解促進」(46.1%)、「夫・パートナーの育児参加への支援」(32.1%)が上位2項目。

問 14 あなたは、安全・安心な妊娠・出産のためには、どのようなことを充実することが重要だと思いますか。次の中から3つまで（2つ以内でもかまいません）選び、番号に○印をつけてください。



◆属性別特徴

【性別】男女ともに「妊娠・出産についての職場の理解促進」が最も高く、女性では50.5%と9.7ポイント男性よりも高い。また、女性は「夫・パートナーの育児参加への支援」「助産師などによる産後ケア」などが男性より高く、男性は「地域での支援体制」「病院・助産所等の施設・設備」が女性より高くなっている。

【性別・年齢別】

- ・男女ともにどの年齢層でも「妊娠・出産についての職場の理解促進」が最も高く、特に女性の20～50歳代では5割を超えている。
- ・20・30歳代では「夫・パートナーの育児参加への支援」で、30歳代では「助産師などによる産後ケア」で女性が男性より10ポイントほど割合が高くなっている。

【子どもの状況別】就学前の子どもがいる世帯では「妊娠・出産の正しい知識の啓発」「助産師などによる産後ケア」が他の世帯よりも高い。

【安心して妊娠・出産できる環境別】

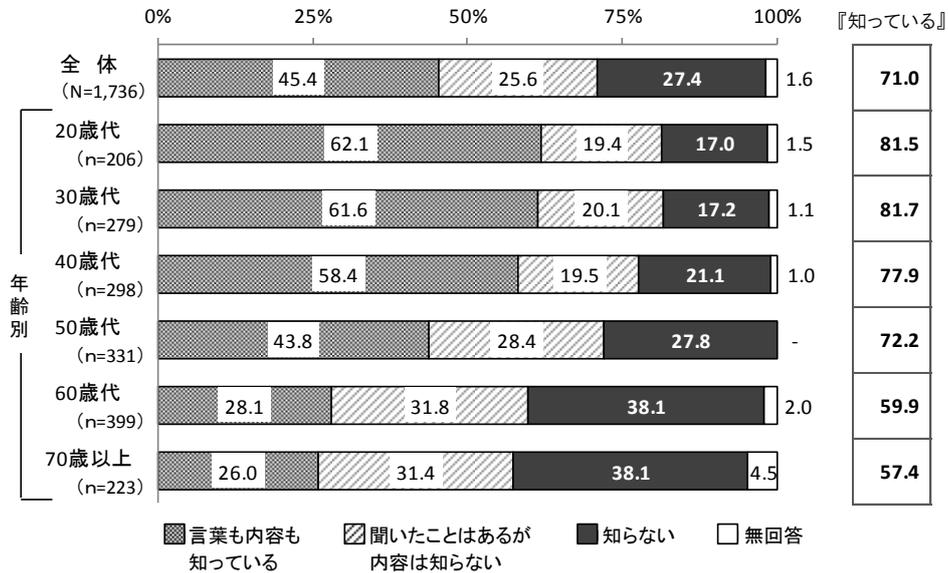
- ・思う人、思わない人ともに「妊娠・出産についての職場の理解促進」が最も高く、思わない人では51.9%と思う人より6.1ポイント高くなっている。
- ・思わない人は「地域での支援体制」「病院・助産所等の施設・設備」などが思う人より高く、思う人では「妊娠・出産の正しい知識の啓発」が思わない人より高くなっている。

		標本数 (票)	安全・安心な妊娠・出産のために充実してほしいこと (%)															
			知識の啓発	妊娠・出産の正しい	意思啓発	意思啓発の性に関する	母親学級・両親学級	保健師による相談体	後助産師などによる産	新生児家庭訪問	夫・パートナーの育児	の妊娠・出産についての	地域での支援体制	病院・助産所等の施設・設備	受動喫煙防止対策	道路や施設のバリア	児童虐待防止対策	その他
全体 (カッコ内は標本数)		100.0 (1,736)	22.4 (388)	13.8 (240)	11.6 (201)	9.8 (170)	15.0 (261)	7.1 (124)	32.1 (557)	46.1 (800)	23.4 (406)	19.9 (346)	4.1 (72)	6.1 (106)	14.7 (256)	1.1 (19)	5.4 (94)	2.6 (45)
性別	男性	792	24.4	13.3	9.5	9.5	11.6	5.4	27.8	40.8	26.1	23.0	4.4	6.8	13.3	1.1	7.2	2.9
	女性	944	20.7	14.3	13.3	10.1	17.9	8.6	35.7	50.5	21.1	17.4	3.9	5.5	16.0	1.1	3.9	2.3
性別×年齢別	男性:20歳代	103	30.1	14.6	8.7	8.7	14.6	1.0	27.2	41.7	21.4	28.2	7.8	7.8	8.7	1.0	8.7	1.0
	男性:30歳代	145	31.7	12.4	9.0	10.3	12.4	4.8	26.9	39.3	17.9	20.0	4.8	6.9	12.4	2.1	7.6	2.8
	男性:40歳代	126	16.7	12.7	6.3	13.5	18.3	6.3	30.2	34.1	29.4	21.4	10.3	7.9	11.9	1.6	7.1	3.2
	男性:50歳代	151	19.2	12.6	13.2	7.3	11.3	6.0	30.5	41.7	38.4	23.2	1.3	6.0	17.9	1.3	6.0	0.7
	男性:60歳代	179	25.1	14.5	7.8	10.1	6.7	6.7	26.3	43.0	24.6	21.2	2.2	6.7	12.8	-	8.4	4.5
	男性:70歳以上	88	23.9	12.5	12.5	5.7	8.0	6.8	25.0	45.5	22.7	27.3	1.1	5.7	14.8	1.1	4.5	5.7
	女性:20歳代	103	27.2	5.8	16.5	6.8	18.4	3.9	40.8	56.3	26.2	24.3	7.8	3.9	17.5	1.0	1.0	1.9
	女性:30歳代	134	17.2	9.7	13.4	10.4	24.6	8.2	37.3	56.0	26.1	27.6	3.7	6.0	11.9	1.5	1.5	-
	女性:40歳代	172	14.0	19.8	11.6	9.3	18.6	7.6	39.5	57.0	25.6	16.3	3.5	6.4	16.3	2.3	2.9	-
	女性:50歳代	180	18.9	17.8	12.2	15.6	20.6	10.0	36.7	52.2	21.7	15.0	3.3	2.8	16.1	1.7	1.7	1.1
女性:60歳代	220	25.9	14.1	14.1	8.6	15.9	10.9	35.0	45.0	15.0	14.5	2.7	6.8	15.9	-	6.8	4.1	
女性:70歳以上	135	21.5	14.1	13.3	8.1	9.6	8.1	25.2	39.3	15.6	11.1	4.4	6.7	18.5	-	8.1	6.7	
子どもの状況別	世帯の中に就学前の子どもがいる	212	26.9	12.3	12.3	10.4	21.2	6.6	33.5	49.1	25.0	20.3	5.2	7.5	12.3	1.9	2.4	2.4
	世帯の中に小学生がいる	199	18.6	15.1	12.6	7.5	16.1	9.5	36.7	47.2	25.1	18.6	4.0	8.0	17.1	2.5	3.5	1.0
	世帯の中に中学生がいる	132	21.2	18.2	7.6	9.1	15.9	8.3	25.8	51.5	26.5	14.4	7.6	7.6	19.7	3.0	5.3	0.8
	世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	174	16.7	16.1	12.1	9.8	12.1	6.3	33.9	49.4	28.7	19.0	7.5	5.7	14.4	1.1	4.0	1.1
	上記にあてはまる人はいない	1,192	22.8	13.5	11.7	9.6	13.3	7.0	31.2	45.2	22.4	20.4	3.4	5.5	15.1	0.7	6.5	3.0
無回答	17	35.3	-	5.9	17.6	29.4	-	11.8	35.3	35.3	11.8	5.9	11.8	17.6	-	5.9	5.9	
環境で安心して 妊娠・出産できる	思う	1,389	24.7	14.3	12.6	10.4	15.9	7.6	33.0	45.8	22.8	19.4	3.8	5.8	14.5	0.7	5.0	2.1
	思わない	283	13.1	11.7	7.8	5.7	12.4	4.9	30.7	51.9	28.6	25.1	6.0	7.8	14.1	2.8	4.9	1.4
	無回答	64	12.5	12.5	6.3	14.1	7.8	6.3	17.2	26.6	12.5	7.8	3.1	4.7	23.4	1.6	15.6	18.8

(5) マタニティマークの認知

マタニティマークを知っている人は 71.0%、20・30 歳代では 8 割を超えている。

問 15 あなたは、マタニティマークを知っていますか（あてはまる番号に 1 つだけ○印）



◆属性別特徴

【性別】 女性で「言葉も内容も知っている」が 54.7%と半数を超えており、男性よりも 20.2 ポイント高い。

【性別・年齢別】

- ・男女ともに若い世代ほど『知っている』は高い傾向がみられ、特に 20・30 歳代女性では 9 割を超えている。
- ・60 歳代以下で「言葉も内容も知っている」は女性の方が男性よりも割合が高く、特に 30 歳代で 39.3 ポイント、20 歳代で 31.1 ポイントと女性の方が男性よりも高くなっている。

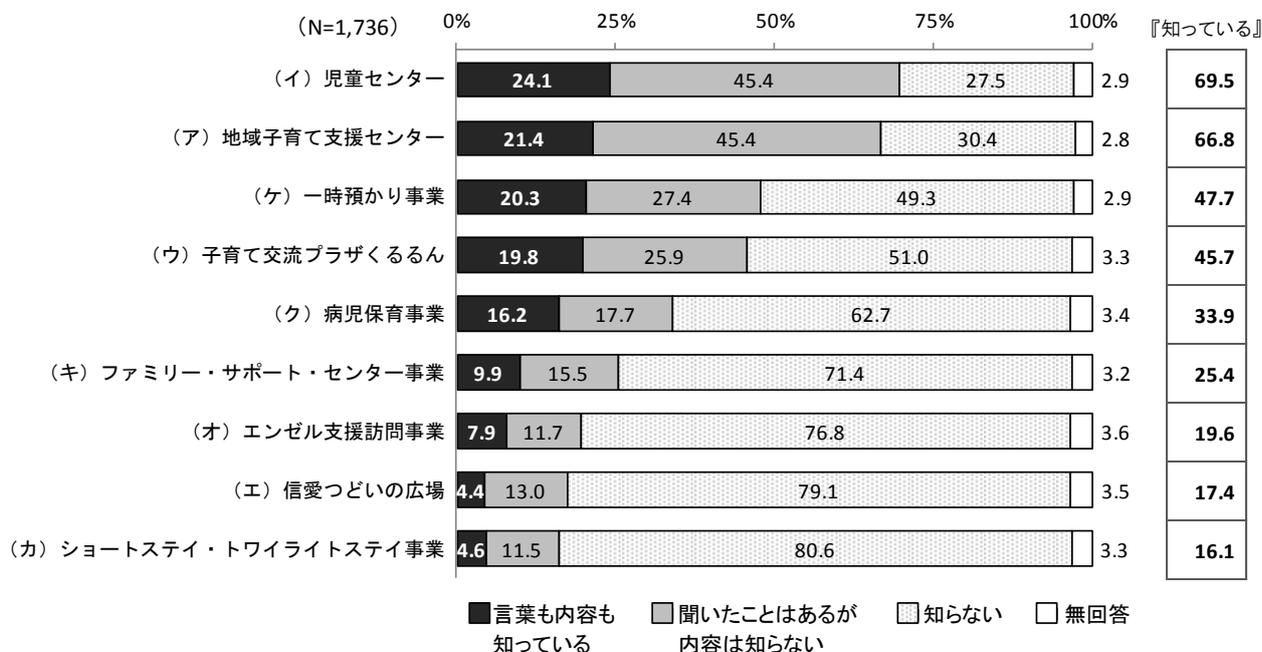
【子どもの状況別】 就学前・小学生がいる世帯で『知っている』は 8 割台と他の世帯よりも高くなっている。

		標本数 (票)	マタニティマークの認知 (%)				『知っている』 (%)
			言葉も内容も知っている	聞いたことはないが内容は知らない	知らない	無回答	
全体 (カッコ内は標本数)		100.0 (1,736)	45.4 (789)	25.6 (445)	27.4 (475)	1.6 (27)	71.0 (1,234)
性別	男性	792	34.5	30.2	34.5	0.9	64.7
	女性	944	54.7	21.8	21.4	2.1	76.5
性別 × 年齢別	男性:20歳代	103	46.6	26.2	26.2	1.0	72.8
	男性:30歳代	145	42.8	29.7	26.9	0.7	72.5
	男性:40歳代	126	46.8	19.0	32.5	1.6	65.8
	男性:50歳代	151	30.5	34.4	35.1	-	64.9
	男性:60歳代	179	19.6	35.8	43.6	1.1	55.4
	男性:70歳以上	88	26.1	33.0	39.8	1.1	59.1
	女性:20歳代	103	77.7	12.6	7.8	1.9	90.3
	女性:30歳代	134	82.1	9.7	6.7	1.5	91.8
	女性:40歳代	172	66.9	19.8	12.8	0.6	86.7
	女性:50歳代	180	55.0	23.3	21.7	-	78.3
子どもの状況別	世帯の中に就学前の子どもがいる	212	77.8	11.3	9.0	1.9	89.1
	世帯の中に小学生がいる	199	69.3	16.1	14.1	0.5	85.4
	世帯の中に中学生がいる	132	43.2	28.8	27.3	0.8	72.0
	世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	174	45.4	24.7	29.3	0.6	70.1
	上記にあてはまる人はいない	1,192	38.3	29.0	30.9	1.8	67.3
	無回答	17	47.1	11.8	35.3	5.9	58.9

(2) 子育て支援事業の認知

児童センター（69.5%）、地域子育て支援センター（66.8%）の認知度が高い。

問 17 あなたは、久留米市の子育て支援事業について知っていますか。次の(ア)~(ケ)のそれぞれについて、あてはまるものを1つずつ選び、番号に○印をつけてください。



◆属性別特徴

【性別】

- ・すべての事業で女性の方が男性より『知っている』が高い。
- ・男女ともに信愛つどいの広場、ショートステイ・トワイライトステイ事業を『知っている』が1割台と低い。

【年齢別】

- ・地域子育て支援センター、児童センターは、どの年代でも『知っている』が5割を超えている。
- ・子育て交流プラザくるんは、30～50歳代で『知っている』が5割台と他の年齢層より高くなっている。
- ・ほとんどの事業で30・40歳代は「言葉も内容も知っている」割合が他の年齢層より高い。

【子どもの状況別】 就学前・小学生がいる世帯では『知っている』がすべての事業で他の世帯より高くなっている。

【久留米市での子育てのしやすさ別】 そう思う人で『知っている』がすべての事業で思わない人より高くなっており、児童センターではそう思う人と思わない人との差が30.8ポイントと大きい。

(%)

	標本数 (票)	(ア)地域子育て支援センター					(イ)児童センター					(ウ)子育て交流プラザくるん					
		知言葉も 知っている	知らない 内容も	聞いた 内容は	知らない	無回答	『知っている』	知言葉も 知っている	知らない 内容も	聞いた 内容は	知らない	無回答	『知っている』	知言葉も 知っている	知らない 内容も	聞いた 内容は	知らない
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,736)	21.4 (371)	45.4 (789)	30.4 (527)	2.8 (49)	66.8 (1,160)	24.1 (419)	45.4 (789)	27.5 (478)	2.9 (50)	69.5 (1,208)	19.8 (344)	25.9 (449)	51.0 (885)	3.3 (58)	45.7 (793)	
性別																	
男性	792	16.3	43.4	38.0	2.3	59.7	19.3	44.7	33.3	2.7	64.0	12.4	22.9	62.0	2.8	35.3	
女性	944	25.6	47.1	23.9	3.3	72.7	28.2	46.1	22.7	3.1	74.3	26.1	28.4	41.7	3.8	54.5	
年齢別																	
20歳代	206	18.0	40.8	39.8	1.5	58.8	19.4	39.8	39.3	1.5	59.2	13.6	19.4	66.0	1.0	33.0	
30歳代	279	29.7	39.4	29.4	1.4	69.1	25.4	45.5	27.6	1.4	70.9	34.1	17.2	47.3	1.4	51.3	
40歳代	298	28.9	44.3	24.5	2.3	73.2	30.2	45.6	22.5	1.7	75.8	31.2	27.5	39.9	1.3	58.7	
50歳代	331	19.0	51.4	29.3	0.3	70.4	28.4	48.0	22.7	0.9	76.4	17.2	35.6	45.9	1.2	52.8	
60歳代	399	16.8	48.1	31.3	3.8	64.9	21.1	46.4	28.3	4.3	67.5	13.3	25.1	56.6	5.0	38.4	
70歳以上	223	15.7	45.3	30.5	8.5	61.0	17.9	44.8	29.1	8.1	62.7	8.1	27.4	53.8	10.8	35.5	
子どもの状況別																	
世帯の中に就学前の子どもがいる	212	50.0	38.7	10.4	0.9	88.7	36.8	47.6	14.6	0.9	84.4	52.8	18.9	27.4	0.9	71.7	
世帯の中に小学生がいる	199	41.2	45.2	12.6	1.0	86.4	40.2	46.7	12.1	1.0	86.9	50.8	21.6	26.1	1.5	72.4	
世帯の中に中学生がいる	132	30.3	44.7	22.7	2.3	75.0	32.6	46.2	19.7	1.5	78.8	30.3	31.1	36.4	2.3	61.4	
世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	174	25.3	48.3	24.1	2.3	73.6	31.6	46.0	21.3	1.1	77.6	23.6	33.9	41.4	1.1	57.5	
上記にあてはまる人はいない	1,192	14.7	46.2	35.8	3.3	60.9	19.8	45.0	31.8	3.4	64.8	11.0	25.4	59.5	4.1	36.4	
無回答	17	17.6	35.3	35.3	11.8	52.9	11.8	35.3	29.4	23.5	47.1	17.6	35.3	29.4	17.6	52.9	
しやすさ別																	
そう思う	282	35.1	40.4	21.3	3.2	75.5	35.1	40.8	20.9	3.2	75.9	35.5	20.2	40.8	3.5	55.7	
どちらかといえばそう思う	1,085	19.3	48.7	30.5	1.6	68.0	23.9	47.7	26.8	1.6	71.6	18.2	27.8	51.9	2.0	46.0	
どちらかといえばそう思わない	224	19.2	42.9	36.2	1.8	62.1	18.8	47.8	32.1	1.3	66.6	12.9	27.7	58.0	1.3	40.6	
そう思わない	71	15.5	31.0	53.5	-	46.5	15.5	29.6	54.9	-	45.1	12.7	16.9	70.4	-	29.6	
無回答	74	12.2	39.2	23.0	25.7	51.4	10.8	37.8	23.0	28.4	48.6	10.8	21.6	36.5	31.1	32.4	

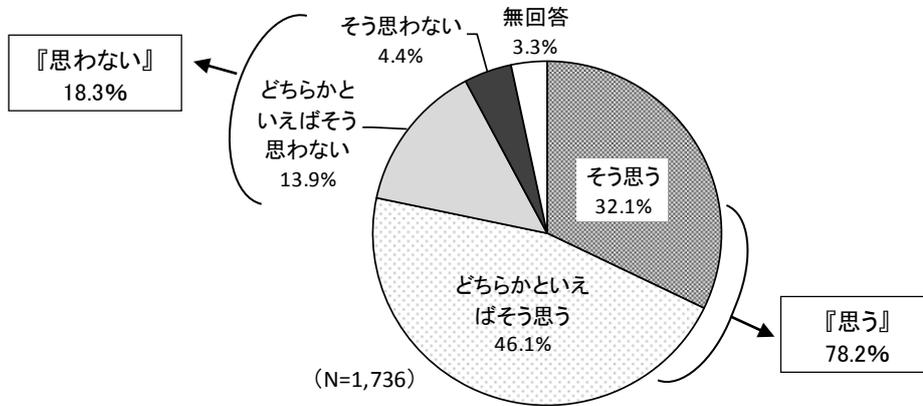
(%)

		標本数 (票)	(エ)信愛つどいの広場					(オ)エンゼル支援訪問事業					(カ)ショートステイ・トワイライトステイ事業				
			知言葉も 知っている	知らない 内容も	聞いた 内容は	知らない	無回答	『知っている』	知言葉も 知っている	知らない 内容も	聞いた 内容は	知らない	無回答	『知っている』	知言葉も 知っている	知らない 内容も	聞いた 内容は
全体 (カッコ内は標本数)		100.0 (1,736)	4.4 (77)	13.0 (225)	79.1 (1,373)	3.5 (61)	17.4 (302)	7.9 (137)	11.7 (203)	76.8 (1,334)	3.6 (62)	19.6 (340)	4.6 (80)	11.5 (199)	80.6 (1,400)	3.3 (57)	16.1 (279)
性別	男性	792	2.7	12.0	82.4	2.9	14.7	3.9	10.4	82.4	3.3	14.3	3.2	11.1	83.0	2.8	14.3
	女性	944	5.9	13.8	76.3	4.0	19.7	11.2	12.8	72.1	3.8	24.0	5.8	11.8	78.7	3.7	17.6
年齢別	20歳代	206	3.4	13.6	82.0	1.0	17.0	7.3	11.7	79.6	1.5	19.0	4.9	8.7	85.4	1.0	13.6
	30歳代	279	7.5	14.7	76.0	1.8	22.2	18.6	14.3	65.2	1.8	32.9	3.6	14.0	81.0	1.4	17.6
	40歳代	298	7.4	12.4	78.5	1.7	19.8	10.4	15.4	72.1	2.0	25.8	4.7	8.7	84.9	1.7	13.4
	50歳代	331	2.7	13.6	82.8	0.9	16.3	4.2	11.8	83.1	0.9	16.0	6.0	11.2	82.2	0.6	17.2
	60歳代	399	3.0	12.0	80.2	4.8	15.0	4.5	9.0	81.5	5.0	13.5	3.8	12.8	78.7	4.8	16.6
	70歳以上	223	2.7	11.7	73.5	12.1	14.4	3.1	8.1	77.6	11.2	11.2	4.9	12.6	71.3	11.2	17.5
子どもの 状況別	世帯の中に就学前の子どもがいる	212	11.3	19.3	67.5	1.9	30.6	30.2	19.3	49.1	1.4	49.5	5.2	15.1	78.3	1.4	20.3
	世帯の中に小学生がいる	199	13.1	14.1	70.9	2.0	27.2	22.6	16.6	58.8	2.0	39.2	7.0	13.6	77.9	1.5	20.6
	世帯の中に中学生がいる	132	6.1	17.4	74.2	2.3	23.5	6.8	22.0	69.7	1.5	28.8	7.6	10.6	80.3	1.5	18.2
	世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	174	6.9	12.1	79.9	1.1	19.0	6.9	14.4	77.6	1.1	21.3	4.6	12.6	81.6	1.1	17.2
	上記にあてはまる人はいない 無回答	1,192 17	2.2 5.9	11.7 11.8	82.0 64.7	4.1 17.6	13.9 17.7	3.5 11.8	9.2 11.8	83.0 58.8	4.3 17.6	12.7 23.6	4.0 11.8	10.8 11.8	81.1 58.8	4.0 17.6	14.8 23.6
子育ての しやすさ別	そう思う	282	11.7	13.8	69.5	5.0	25.5	17.0	10.3	68.4	4.3	27.3	9.9	14.2	71.3	4.6	24.1
	どちらかといえばそう思う	1,085	3.2	13.4	81.4	2.0	16.6	6.3	12.4	79.3	2.1	18.7	3.7	11.7	82.9	1.8	15.4
	どちらかといえばそう思わない	224	2.7	12.1	83.9	1.3	14.8	6.7	10.7	81.3	1.3	17.4	3.1	10.3	85.3	1.3	13.4
	そう思わない	71	2.8	8.5	88.7	-	11.3	5.6	14.1	77.5	2.8	19.7	7.0	7.0	85.9	-	14.0
	無回答	74	1.4	10.8	58.1	29.7	12.2	2.7	8.1	59.5	29.7	10.8	-	5.4	64.9	29.7	5.4
			(キ)ファミリー・サポート・センター事業					(ク)病児保育事業					(ケ)一時預かり事業				
全体 (カッコ内は標本数)		100.0 (1,736)	9.9 (172)	15.5 (269)	71.4 (1,240)	3.2 (55)	25.4 (441)	16.2 (282)	17.7 (307)	62.7 (1,088)	3.4 (59)	33.9 (589)	20.3 (353)	27.4 (476)	49.3 (856)	2.9 (51)	47.7 (829)
性別	男性	792	5.1	13.9	78.5	2.5	19.0	10.1	15.7	71.6	2.7	25.8	13.6	28.2	55.6	2.7	41.8
	女性	944	14.0	16.8	65.5	3.7	30.8	21.4	19.4	55.2	4.0	40.8	26.0	26.8	44.1	3.2	52.8
年齢別	20歳代	206	6.8	15.0	76.7	1.5	21.8	15.5	17.5	66.0	1.0	33.0	19.9	28.6	50.5	1.0	48.5
	30歳代	279	11.5	17.2	69.9	1.4	28.7	25.4	20.4	52.3	1.8	45.8	28.0	28.7	41.9	1.4	56.7
	40歳代	298	17.8	15.8	64.8	1.7	33.6	26.8	20.8	50.7	1.7	47.6	28.5	26.8	43.0	1.7	55.3
	50歳代	331	9.7	16.0	74.0	0.3	25.7	16.6	17.2	65.9	0.3	33.8	18.1	27.2	54.4	0.3	45.3
	60歳代	399	6.8	14.3	74.2	4.8	21.1	7.8	14.5	72.4	5.3	22.3	14.0	26.3	54.9	4.8	40.3
	70歳以上	223	6.3	14.8	68.6	10.3	21.1	5.8	16.6	66.4	11.2	22.4	14.8	27.8	48.4	9.0	42.6
子どもの 状況別	世帯の中に就学前の子どもがいる	212	22.2	19.8	57.1	0.9	42.0	36.3	25.5	36.3	1.9	61.8	43.9	29.2	25.9	0.9	73.1
	世帯の中に小学生がいる	199	26.1	14.6	58.3	1.0	40.7	39.2	22.1	36.7	2.0	61.3	39.7	29.6	29.6	1.0	69.3
	世帯の中に中学生がいる	132	20.5	15.2	62.9	1.5	35.7	30.3	23.5	44.7	1.5	53.8	31.1	32.6	34.8	1.5	63.7
	世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	174	12.6	19.5	66.7	1.1	32.1	27.6	22.4	48.9	1.1	50.0	31.0	28.2	39.7	1.1	59.2
	上記にあてはまる人はいない 無回答	1,192 17	5.9 11.8	14.2 17.6	76.0 52.9	3.9 17.6	20.1 29.4	9.1 11.8	15.4 11.8	71.5 58.8	4.1 17.6	24.5 23.6	13.3 17.6	26.4 23.5	56.6 41.2	3.6 17.6	39.7 41.1
子育ての しやすさ別	そう思う	282	18.4	14.5	63.1	3.9	32.9	24.1	18.1	53.2	4.6	42.2	31.9	25.2	39.0	3.9	57.1
	どちらかといえばそう思う	1,085	8.8	16.8	72.6	1.8	25.6	15.1	19.0	64.0	1.9	34.1	18.4	30.3	49.9	1.4	48.7
	どちらかといえばそう思わない	224	6.7	13.4	78.6	1.3	20.1	16.5	14.7	67.4	1.3	31.2	18.3	24.1	55.8	1.8	42.4
	そう思わない	71	9.9	12.7	76.1	1.4	22.6	12.7	12.7	74.6	-	25.4	18.3	14.1	67.6	-	32.4
	無回答	74	2.7	9.5	59.5	28.4	12.2	5.4	10.8	54.1	29.7	16.2	12.2	16.2	43.2	28.4	28.4

(3) 小児医療の充実

78.2%の人が久留米市は小児医療が充実していると思っている。

問 18 あなたは、久留米市は小児医療が充実していると思いますか。(あてはまる番号に1つだけ○印)



◆属性別特徴

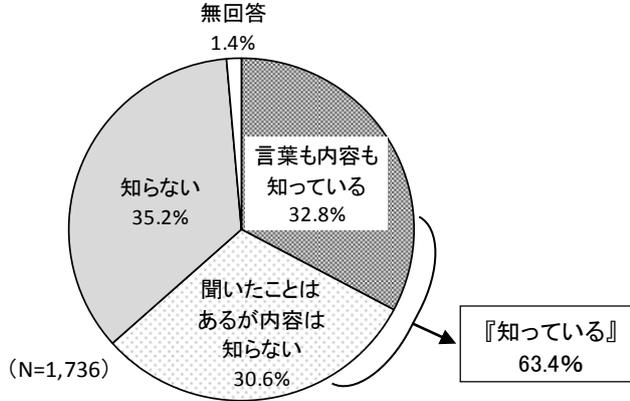
- 【性別】 男女ともに『思う』は8割弱であるが、「そう思う」をみると、女性 35.2%に対して男性 28.5%と差がみられる。
- 【年齢別】 すべての年代で『思う』が8割弱で、30・40 歳代で「そう思う」が4割弱と他の年齢層よりやや高い。
- 【ブロック別】 北部A、中央東部、中央部、中央南部、南西部で『思う』は8割を超えているが、東部Bでは 60.8%と他の地区より低くなっている。
- 【子どもの状況別】 子どもがいる世帯で『思う』は8割を超えており、特に就学前・小学生がいる世帯では「そう思う」が4割台と他の世帯より高くなっている。
- 【久留米市での子育てのしやすさ別】 子育てしやすいと思う人は充実していると『思う』割合が 84.2%で、子育てしやすいと思わない人より 27.2 ポイント高い。

		標本数 (票)	久留米市は小児医療が充実していると思うか (%)						『思う』	『思わない』
			そう思う	えどばち そらか 思う	なえど いばち そらか 思わ ない	そう 思わ ない	無 回 答			
全 体 (カッコ内は標本数)		100.0 (1,736)	32.1 (558)	46.1 (801)	13.9 (242)	4.4 (77)	3.3 (58)	78.2 (1,359)	18.3 (319)	
性 別	男性	792	28.5	48.7	15.2	4.8	2.8	77.2	20.0	
	女性	944	35.2	44.0	12.9	4.1	3.8	79.2	17.0	
年 齢 別	20歳代	206	23.8	55.3	16.5	2.9	1.5	79.1	19.4	
	30歳代	279	37.6	41.2	13.3	5.7	2.2	78.8	19.0	
	40歳代	298	36.9	40.6	15.8	4.4	2.3	77.5	20.2	
	50歳代	331	30.8	48.3	13.3	5.4	2.1	79.1	18.7	
	60歳代	399	29.6	49.4	12.0	5.0	4.0	79.0	17.0	
	70歳以上	223	33.2	42.2	14.3	1.8	8.5	75.4	16.1	
ブ ロ ッ ク 別	東部A	130	32.3	43.1	14.6	2.3	7.7	75.4	16.9	
	東部B(田主丸)	102	18.6	42.2	21.6	9.8	7.8	60.8	31.4	
	北部A	150	40.0	42.7	13.3	2.0	2.0	82.7	15.3	
	北部B(北野)	112	30.4	41.1	21.4	5.4	1.8	71.5	26.8	
	中央東部	206	37.4	47.1	8.7	4.4	2.4	84.5	13.1	
	南東部	184	29.9	43.5	16.3	7.6	2.7	73.4	23.9	
	中央部	235	33.2	48.9	13.6	1.7	2.6	82.1	15.3	
	中央南部	299	38.1	43.5	11.7	4.7	2.0	81.6	16.4	
	南西部	150	31.3	56.0	8.0	3.3	1.3	87.3	11.3	
子 ど も の 状 況 別	西部A(城島)	75	21.3	48.0	21.3	4.0	5.3	69.3	25.3	
	西部B(三潞)	93	17.2	53.8	15.1	6.5	7.5	71.0	21.6	
	世帯の中に就学前の子どもがいる	212	41.0	39.6	13.7	3.3	2.4	80.6	17.0	
	世帯の中に小学生がいる	199	45.7	39.2	11.1	2.5	1.5	84.9	13.6	
す の 子 育 ち の し や す さ 別	世帯の中に中学生がいる	132	35.6	44.7	12.9	4.5	2.3	80.3	17.4	
	世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	174	37.4	43.7	14.4	3.4	1.1	81.1	17.8	
	上記にあてはまる人はいない	1,192	28.7	47.8	14.3	5.0	4.2	76.5	19.3	
	無回答	17	17.6	47.1	23.5	5.9	5.9	64.7	29.4	
す の 子 育 ち の し や す さ 別	思う	1,367	35.4	48.8	11.2	2.6	2.0	84.2	13.8	
	思わない	295	19.7	37.3	27.1	13.2	2.7	57.0	40.3	
	無回答	74	21.6	32.4	12.2	2.7	31.1	54.0	14.9	

(4) 久留米広域小児救急センターの認知

久留米広域小児救急センターの認知は 63.4%。

問 19 あなたは、久留米広域小児救急センターを知っていますか。(あてはまる番号に1つだけ○印)



◆属性別特徴

【性別】女性で『知っている』が 68.1%と男性より 10.3 ポイント高く、「言葉も内容も知っている」で女性が 37.2%と男性より 9.7 ポイント高い。

【性別・年齢別】

- ・20～40 歳代女性で『知っている』が男性の同じ年齢層より 10 ポイント以上高い。
- ・30・40 歳代女性では「言葉も内容も知っている」が約5割と他の年齢層より高くなっている。
- ・20 歳代では『知っている』が他の年齢層より低く、特に男性で 38.8%と最も低くなっている。

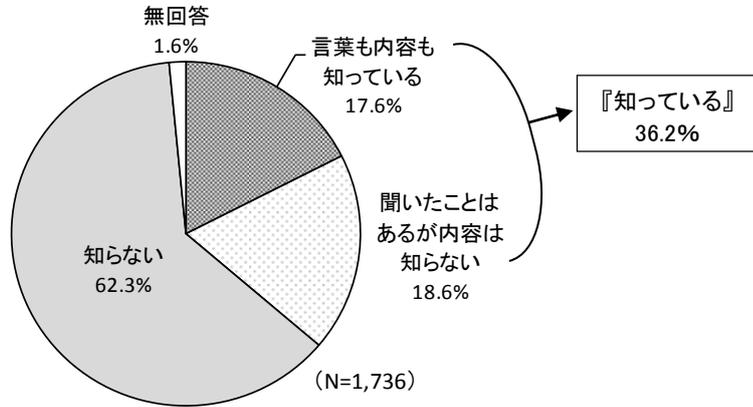
【子どもの状況別】就学前・小学生がいる世帯では『知っている』が8割台と他の世帯より高く、「言葉も内容も知っている」も6割前後と他の世帯より高くなっている。

	標本数 (票)	久留米広域小児救急センターの認知 (%)					『知っている』
		言葉も内容も知っている	聞いたことがない	知らない	無回答	『知っている』	
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,736)	32.8 (569)	30.6 (532)	35.2 (611)	1.4 (24)	63.4 (1,101)	
性別							
男性	792	27.5	30.3	40.8	1.4	57.8	
女性	944	37.2	30.9	30.5	1.4	68.1	
性別×年齢別							
男性:20歳代	103	16.5	22.3	61.2	-	38.8	
男性:30歳代	145	32.4	22.1	44.1	1.4	54.5	
男性:40歳代	126	34.1	26.2	37.3	2.4	60.3	
男性:50歳代	151	31.1	32.5	35.8	0.7	63.6	
男性:60歳代	179	27.4	35.8	35.2	1.7	63.2	
男性:70歳以上	88	17.0	44.3	36.4	2.3	61.3	
女性:20歳代	103	24.3	28.2	46.6	1.0	52.5	
女性:30歳代	134	50.7	26.9	20.1	2.2	77.6	
女性:40歳代	172	49.4	26.7	23.8	-	76.1	
女性:50歳代	180	33.9	30.0	35.0	1.1	63.9	
女性:60歳代	220	32.7	35.9	30.5	0.9	68.6	
女性:70歳以上	135	29.6	35.6	31.1	3.7	65.2	
子どもの状況別							
世帯の中に就学前の子がいる	212	58.0	25.0	16.5	0.5	83.0	
世帯の中に小学生がいる	199	64.8	22.1	13.1	-	86.9	
世帯の中に中学生がいる	132	45.5	25.8	28.8	-	71.3	
世帯の中に上記以外の18歳未満の子がいる	174	37.9	27.6	34.5	-	65.5	
上記にあてはまる人はいない	1,192	25.0	32.6	40.5	1.8	57.6	
無回答	17	17.6	41.2	35.3	5.9	58.8	

(5) 小児救急医療電話相談（#8000）の認知

小児救急医療電話相談（#8000）の言葉も内容も知っている人は 17.6%、知らない人は 62.3% による。

問 20 あなたは、小児救急医療電話相談（#8000）を知っていますか。（あてはまる番号に1つだけ○印）



◆属性別特徴

【性別】女性は『知っている』が 42.0%となっており、男性より 12.9 ポイント高くなっている。

【性別・年齢別】30・40 歳代女性では『知っている』が6割弱で男性の同じ年齢層より 20 ポイントほど高く、「言葉も内容も知っている」も4割前後と他の年齢層より高くなっている。

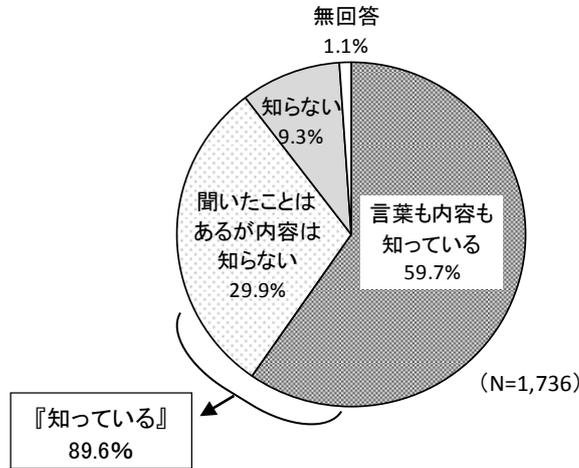
【子どもの状況別】中学生以下の子どもがいる世帯で『知っている』が5割を超えており、「言葉も内容も知っている」は就学前・小学生がいる世帯で5割前後と他の世帯より高くなっている。

	標本数 (票)	小児救急医療電話相談（#8000）の認知 (%)				
		言葉も内容も知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	知らない	無回答	『知っている』
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,736)	17.6 (305)	18.6 (323)	62.3 (1,081)	1.6 (27)	36.2 (628)
性別						
男性	792	12.2	16.9	69.4	1.4	29.1
女性	944	22.0	20.0	56.3	1.7	42.0
性別×年齢別						
男性:20歳代	103	7.8	11.7	80.6	-	19.5
男性:30歳代	145	20.0	15.9	62.8	1.4	35.9
男性:40歳代	126	15.9	19.0	63.5	1.6	34.9
男性:50歳代	151	10.6	20.5	67.5	1.3	31.1
男性:60歳代	179	8.4	18.4	71.5	1.7	26.8
男性:70歳以上	88	10.2	12.5	75.0	2.3	22.7
女性:20歳代	103	19.4	12.6	67.0	1.0	32.0
女性:30歳代	134	41.8	13.4	42.5	2.2	55.2
女性:40歳代	172	37.2	20.9	41.3	0.6	58.1
女性:50歳代	180	15.0	20.6	63.3	1.1	35.6
女性:60歳代	220	11.8	23.2	63.6	1.4	35.0
女性:70歳以上	135	11.1	25.2	59.3	4.4	36.3
子どもの状況別						
世帯の中に就学前の子どもがいる	212	50.5	18.9	29.7	0.9	69.4
世帯の中に小学生がいる	199	45.7	20.6	33.2	0.5	66.3
世帯の中に中学生がいる	132	28.8	27.3	43.9	-	56.1
世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	174	20.1	24.1	55.2	0.6	44.2
上記にあてはまる人はいない	1,192	9.1	17.8	71.3	1.8	26.9
無回答	17	11.8	17.6	64.7	5.9	29.4

(6) 発達障害の認知

発達障害について『知っている』人は約9割、「言葉も内容も知っている」人は約6割。

問 21 あなたは、発達障害について知っていますか。(あてはまる番号に1つだけ○印)



◆属性別特徴

【性別】女性は『知っている』が92.6%となっており、「言葉も内容も知っている」は65.3%と男性より12.3ポイント高い。

【性別・年齢別】すべての年齢層の女性で『知っている』が高く、20～50歳代では9割を超えており、20～50歳代女性では「言葉も内容も知っている」が7割を超えて高い。

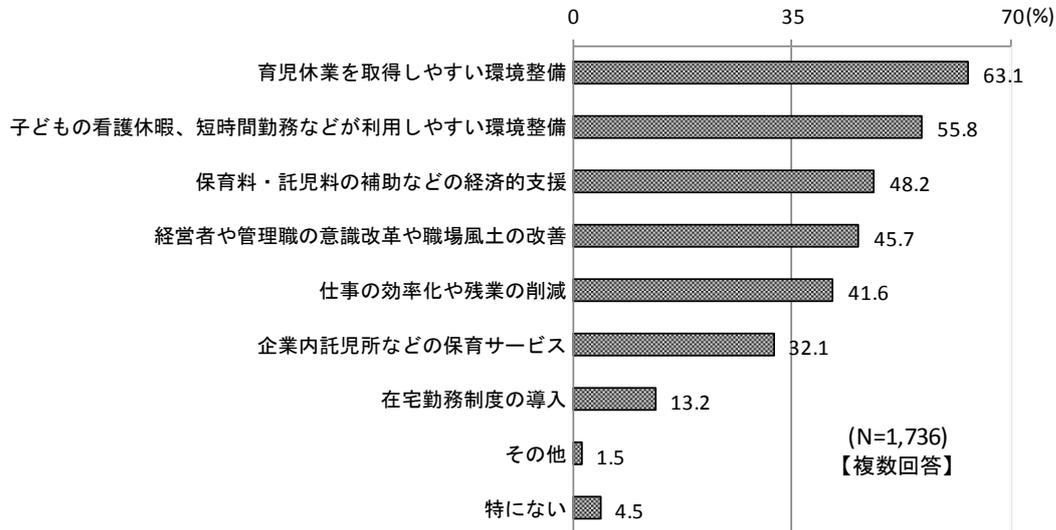
【子どもの状況別】子どもがいる世帯では『知っている』が9割を超えている。

	標本数 (票)	発達障害の認知 (%)					『知っている』
		言葉も内容も知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	知らない	無回答		
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,736)	59.7 (1,036)	29.9 (519)	9.3 (162)	1.1 (19)	89.6 (1,555)	
性別							
男性	792	53.0	33.0	12.9	1.1	86.0	
女性	944	65.3	27.3	6.4	1.1	92.6	
性別×年齢別							
男性:20歳代	103	64.1	24.3	11.7	-	88.4	
男性:30歳代	145	56.6	29.0	13.8	0.7	85.6	
男性:40歳代	126	57.9	32.5	7.1	2.4	90.4	
男性:50歳代	151	55.0	31.8	12.6	0.7	86.8	
男性:60歳代	179	45.3	38.5	15.1	1.1	83.8	
男性:70歳以上	88	39.8	40.9	17.0	2.3	80.7	
女性:20歳代	103	77.7	17.5	3.9	1.0	95.2	
女性:30歳代	134	72.4	22.4	3.7	1.5	94.8	
女性:40歳代	172	77.3	21.5	1.2	-	98.8	
女性:50歳代	180	70.0	25.0	3.9	1.1	95.0	
女性:60歳代	220	53.6	35.0	10.9	0.5	88.6	
女性:70歳以上	135	45.9	37.8	13.3	3.0	83.7	
子どもの状況別							
世帯の中に就学前の子どもがいる	212	67.5	26.4	5.7	0.5	93.9	
世帯の中に小学生がいる	199	70.9	24.1	5.0	-	95.0	
世帯の中に中学生がいる	132	69.7	26.5	3.8	-	96.2	
世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	174	70.1	25.9	4.0	-	96.0	
上記にあてはまる人はいない	1,192	56.0	31.3	11.4	1.3	87.3	
無回答	17	41.2	47.1	-	11.8	88.3	

(7) 仕事と子育ての両立支援

「育児休業を取得しやすい環境整備」(63.1%)と「子どもの看護休暇、短時間勤務などが利用しやすい環境整備」(55.8%)が上位2項目。

問 22 あなたは、子育て中の方が仕事と子育てを両立するために、事業者（企業など）はどのような取り組みをしたらよいと思いますか。（あてはまる番号にいくつでも○印）



◆属性別特徴

- 【性別】男女ともに「育児休業を取得しやすい環境整備」が6割台で最も高くなっており、女性は「子どもの看護休暇、短時間勤務などが利用しやすい環境整備」で63.7%、「企業内託児所などの保育サービス」で36.0%と男性より高くなっている。
- 【性別・年齢別】20～40歳代女性は「子どもの看護休暇、短時間勤務などが利用しやすい環境整備」が7割台で最も高くなっており、50歳代以上女性と男性の全ての年齢層で「育児休業を取得しやすい環境整備」が最も高くなっている。
- 【職業別】家事に専念している人は「子どもの看護休暇、短時間勤務などが利用しやすい環境整備」が66.5%で最も高くなっている。
- 【子どもの状況別】子どもがいる世帯では「子どもの看護休暇、短時間勤務などが利用しやすい環境整備」が6割台で最も高くなっており、子どもがいない世帯では「育児休業を取得しやすい環境整備」が62.2%で最も高くなっている。
- 【安心して妊娠・出産できる環境別】思う人、思わない人ともに「育児休業を取得しやすい環境整備」が6割台で最も高く、思わない人で「保育料・託児料の補助などの経済的支援」が思う人より7ポイント高くなっている。

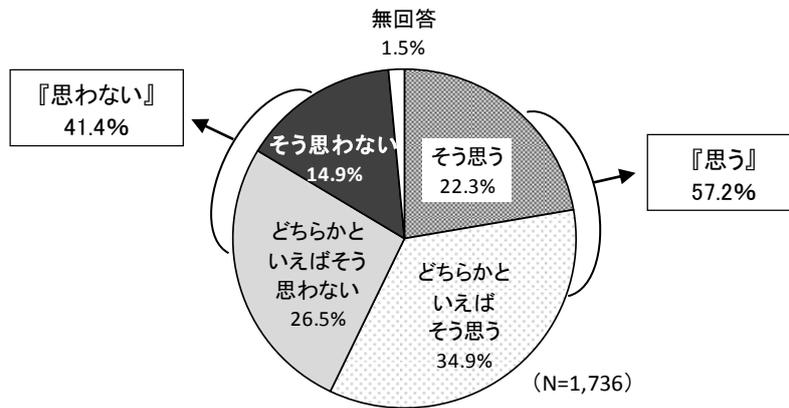
		標本数(票)	仕事と子育ての両立支援 (%)									
			の仕事の削減	改善	経営改革や職場風土の意	子育て環境を整得しやす	用短しや環境整備	子ども間の看護休暇、	助保などの経済的支援	保育園・託児所などの	在宅勤務制度の導入	その他
全体 (カッコ内は標本数)		100.0 (1,736)	41.6 (723)	45.7 (793)	63.1 (1,096)	55.8 (968)	48.2 (836)	32.1 (557)	13.2 (230)	1.5 (26)	4.5 (78)	2.1 (36)
性別	男性	792	40.9	45.7	60.4	46.3	49.7	27.4	14.8	2.5	6.1	1.8
	女性	944	42.3	45.7	65.5	63.7	46.8	36.0	12.0	0.6	3.2	2.3
性別×年齢別	男性:20歳代	103	47.6	39.8	62.1	42.7	43.7	24.3	14.6	1.0	9.7	-
	男性:30歳代	145	48.3	49.0	60.0	49.0	51.0	31.0	17.9	5.5	4.8	2.1
	男性:40歳代	126	38.1	47.6	52.4	47.6	46.0	22.2	11.1	4.8	7.1	1.6
	男性:50歳代	151	38.4	48.3	63.6	55.0	55.0	32.5	18.5	2.0	5.3	0.7
	男性:60歳代	179	40.8	41.3	61.5	41.9	54.7	26.3	14.0	0.6	5.0	2.8
	男性:70歳以上	88	29.5	48.9	62.5	38.6	40.9	26.1	10.2	1.1	5.7	3.4
	女性:20歳代	103	53.4	45.6	71.8	76.7	53.4	34.0	13.6	-	1.0	1.0
	女性:30歳代	134	44.0	50.0	67.2	78.4	59.7	35.1	12.7	0.7	1.5	1.5
	女性:40歳代	172	36.6	52.3	67.4	70.3	47.1	33.7	15.7	2.9	1.7	0.6
	女性:50歳代	180	47.2	50.6	66.1	64.4	47.2	42.8	13.9	-	1.1	2.2
女性:60歳代	220	40.9	42.3	60.0	54.1	43.2	37.7	8.6	-	6.4	2.3	
女性:70歳以上	135	34.8	31.9	64.4	45.2	34.1	29.6	8.1	-	5.9	6.7	
職業別	農林漁業	44	45.5	36.4	54.5	36.4	50.0	25.0	9.1	2.3	11.4	4.5
	自営業	169	38.5	37.9	58.6	45.6	47.9	29.0	10.7	0.6	6.5	2.4
	給与所得者(常勤)	635	42.7	49.3	63.5	58.3	52.4	29.3	14.5	2.5	3.5	1.6
	パート・アルバイト(学生は除く)	288	43.1	49.7	68.1	63.2	48.3	35.8	10.8	1.0	2.4	0.7
	学生	40	57.5	45.0	70.0	62.5	42.5	30.0	27.5	2.5	5.0	-
	家事に専念	203	42.9	44.8	64.0	66.5	46.3	43.3	13.8	0.5	2.5	3.4
	無職	318	36.2	40.9	60.1	45.3	40.6	30.8	10.7	0.6	7.5	2.8
	その他	19	52.6	52.6	63.2	47.4	47.4	31.6	31.6	5.3	5.3	5.3
無回答	20	40.0	40.0	65.0	50.0	60.0	20.0	30.0	-	5.0	5.0	
子どもの状況別	世帯の中に就学前の子どもがいる	212	50.0	49.1	67.0	69.8	55.2	35.4	13.7	1.9	1.4	1.4
	世帯の中に小学生がいる	199	40.2	48.2	62.3	64.8	48.7	32.2	12.1	3.0	2.5	1.0
	世帯の中に中学生がいる	132	46.2	47.0	65.2	65.9	47.0	34.1	15.2	3.0	3.8	0.8
	世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	174	43.1	41.4	63.2	63.8	49.4	32.8	8.6	5.2	3.4	-
	上記にあてはまる人はいない	1,192	40.5	45.5	62.2	51.5	47.6	31.6	13.5	0.8	5.3	2.5
無回答	17	29.4	35.3	47.1	47.1	47.1	23.5	11.8	-	5.9	11.8	
産妊安環境別	思う	1,389	42.3	46.0	63.5	56.2	47.8	32.5	13.1	1.2	4.1	1.2
	思わない	283	41.7	48.4	64.0	56.9	54.8	32.9	15.2	3.2	4.6	3.5
	無回答	64	26.6	26.6	51.6	42.2	26.6	20.3	7.8	-	12.5	15.6

2-3 地域の子育て環境

(1) 公園・広場の状況

公園・広場が十分にあると思う人は 57.2%。思わない人は 41.4%。

問 23 お住まいの近く（歩いて行ける範囲）に、子どもたちが気軽に利用できる公園・広場は十分にあると思いますか。（あてはまる番号に1つだけ○印）



◆属性別特徴

【年齢別】 20歳代と70歳以上で『思う』が6割台と他の年齢層より高い。

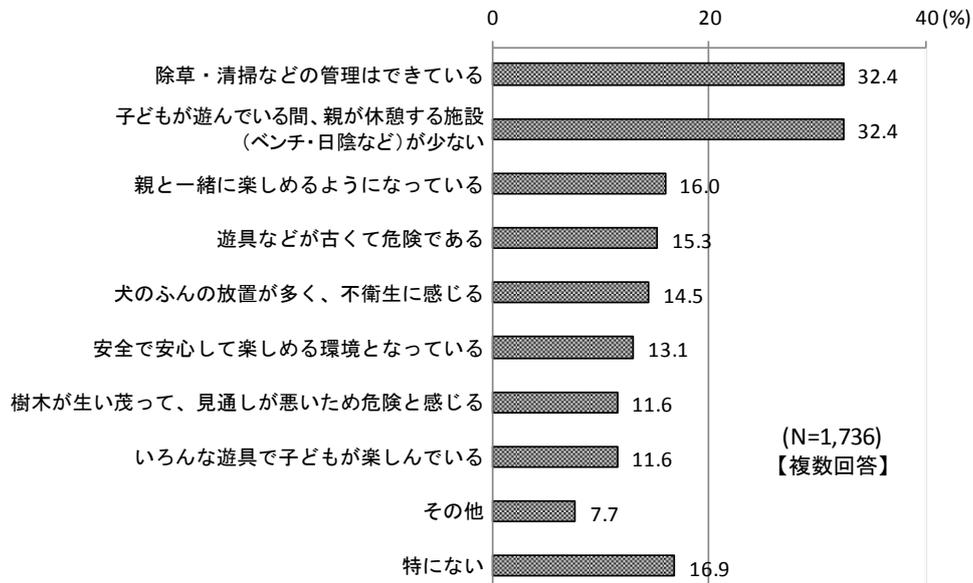
【子どもの状況別】 小学生・中学生がいる世帯で『思う』が他の世帯よりやや低くなっている。

	標本数 (票)	近所の公園・広場の状況 (%)						
		『思う』	『どちらか といえば 思う』	『どちらか といえば 思わない』	『そう 思わない』	無 回 答	『 思 う』	『 思 わ な い』
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,736)	22.3 (387)	34.9 (605)	26.5 (460)	14.9 (258)	1.5 (26)	57.2 (992)	41.4 (718)
性別								
男性	792	22.6	35.4	25.8	14.8	1.5	58.0	40.6
女性	944	22.0	34.4	27.1	14.9	1.5	56.4	42.0
年齢別								
20歳代	206	24.3	37.9	17.5	18.9	1.5	62.2	36.4
30歳代	279	22.6	35.1	23.7	16.8	1.8	57.7	40.5
40歳代	298	22.8	33.2	30.2	13.4	0.3	56.0	43.6
50歳代	331	20.8	32.3	30.8	14.8	1.2	53.1	45.6
60歳代	399	21.1	34.6	29.3	13.5	1.5	55.7	42.8
70歳以上	223	23.8	38.1	22.0	13.0	3.1	61.9	35.0
子どもの状況別								
世帯の中に就学前の子どもがいる	212	22.6	31.1	27.4	18.4	0.5	53.7	45.8
世帯の中に小学生がいる	199	21.1	29.1	32.7	16.6	0.5	50.2	49.3
世帯の中に中学生がいる	132	19.7	30.3	35.6	14.4	-	50.0	50.0
世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	174	23.6	32.8	24.7	19.0	-	56.4	43.7
上記にあてはまる人はいない	1,192	22.3	36.1	25.6	14.0	2.0	58.4	39.6
無回答	17	23.5	41.2	35.3	-	-	64.7	35.3

(2) 子どもの遊び場としての公園・広場

「除草・清掃などの管理はできている」、「子どもが遊んでいる間、ベンチや日陰など親が休憩する施設が少ない」がともに32.4%で最も高い。

問 24 あなたは、お住まい近くの公園・広場を子どもの遊び場として、どのように感じていますか。
(あてはまる番号にいくつでも○印)



◆属性別特徴

【年齢別】20・30 歳代と 50 歳代では「子どもが遊んでいる間、親が休憩する施設が少ない」が最も高く、40 歳代と 60 歳代以上では「除草・清掃などの管理はできている」が最も高くなっている。

【子どもの状況別】中学生以下の子どもがいる世帯では「子どもが遊んでいる間、親が休憩する施設が少ない」がやや高く、中学生以上の子どもがいる世帯と子どもがいない世帯では「除草・清掃などの管理はできている」が最も高くなっている。

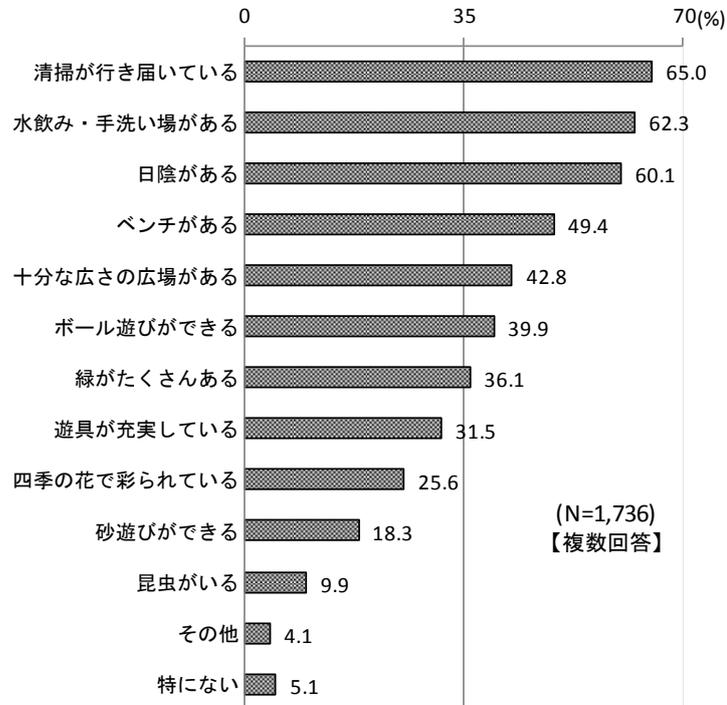
【公園・広場の状況別】十分にあると思う人では「除草・清掃などの管理はできている」が 44.3%で最も高く、思わない人と 27.4 ポイントの差がある。思わない人は「遊具などが古くて危険である」と思う人より 9.7 ポイント高くなっている。

	標本数 (票)	子どもの遊び場としての公園・広場の状況 (%)														
		で除 きて 草・ 清 掃 な ど の 管 理 は	楽 し ろ ん な 遊 具 で 子 ど も が	に 親 と 一 緒 に 楽 し め る よ う	環 境 と 安 心 し て 楽 し め る	安 全 な 放 置 が 多 く、	不 衛 生 に 感 じ る	犬 の ふ ん の	あ 遊 具 な ど が 古 く て 危 険 で	チ ・ 日 陰 な ど が 少 な い	親 が 休 憩 す る 施 設 が 少 な い	子 ど も が 遊 ん で い る 間、	る し 樹 木 が 悪 い た め 危 険 と 感 じ 通	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,736)	32.4 (563)	11.6 (201)	16.0 (278)	13.1 (227)	14.5 (251)	15.3 (266)	32.4 (563)	11.6 (202)	7.7 (134)	16.9 (294)	3.3 (58)				
性 別																
男性	792	32.1	12.4	16.7	14.3	15.4	16.5	31.9	10.1	6.8	17.0	2.4				
女性	944	32.7	10.9	15.5	12.1	13.7	14.3	32.8	12.9	8.5	16.8	4.1				
年 齢 別																
20歳代	206	21.8	18.0	13.6	9.7	10.2	18.4	24.8	11.2	8.7	24.8	1.0				
30歳代	279	32.3	13.6	14.3	12.9	9.3	18.6	33.3	12.9	9.7	17.6	1.8				
40歳代	298	31.9	11.7	17.1	12.4	13.4	15.1	27.9	14.1	7.7	15.4	3.4				
50歳代	331	26.0	8.2	17.8	10.6	14.8	17.8	35.3	12.1	8.2	20.2	3.3				
60歳代	399	38.8	11.0	15.0	16.0	17.3	12.0	36.1	10.8	6.3	13.3	3.5				
70歳以上	223	41.3	9.0	17.9	15.7	20.6	10.8	33.6	8.1	6.3	12.6	7.2				
子 ど も の 状 況 別																
世帯の中に就学前の子どもが いる	212	32.1	15.6	14.6	12.3	11.8	23.1	35.8	12.3	11.3	6.6	2.8				
世帯の中に小学生がいる	199	38.2	14.6	14.6	13.6	15.1	20.6	39.7	13.1	6.5	9.5	2.0				
世帯の中に中学生がいる	132	37.1	12.9	21.2	14.4	18.2	18.2	35.6	13.6	10.6	11.4	4.5				
世帯の中に上記以外の18歳 未満の子どもがいる	174	29.3	14.9	19.5	10.9	10.3	20.7	27.6	14.9	8.6	14.9	2.3				
上記にあてはまる人はいない	1,192	31.6	10.2	15.4	13.0	15.7	13.1	31.2	10.7	7.0	20.1	3.8				
無回答	17	41.2	5.9	11.8	23.5	5.9	5.9	35.3	29.4	5.9	11.8	-				
状 広 公 況 場 園 別 の ・																
十分にあると思う	992	44.3	18.0	24.7	19.3	13.3	11.5	32.4	9.0	4.7	11.2	1.6				
十分にあると思わない	718	16.9	3.1	4.5	5.0	16.4	21.2	33.3	15.5	11.8	25.1	4.0				
無回答	26	11.5	-	3.8	-	3.8	-	11.5	7.7	7.7	11.5	50.0				

(3) 子どもの遊び場として望ましい公園・広場

「清掃が行き届いている」、「水飲み・手洗い場がある」、「日陰がある」が6割を超えて高い。

問 25 あなたは、お住まい近くの公園・広場は、子どもの遊び場として、どのような公園であることが望ましいと思いますか。(あてはまる番号にいくつでも○印)



◆属性別特徴

【性別】男性は「十分な広さの広場がある」「ボール遊びができる」などで女性より高く、女性は「日陰がある」「ベンチがある」「遊具が充実している」「清掃が行き届いている」で男性より高くなっている。

【性別・年齢別】20～50 歳代女性では「清掃が行き届いている」が最も高く、特に 20・30・50 歳代女性では7割を超えている。

【子どもの状況別】就学前の子どものいる世帯では「日陰がある」「清掃が行き届いている」「水飲み・手洗い場がある」がそれぞれ7割台、「遊具が充実している」が6割台と他の世帯より高い。

【公園・広場の状況別】十分にあると思う人、思わない人ともに「清掃が行き届いている」が6割台で最も高くなっており、思わない人より思う人の方が 6.1 ポイント高い。また、思わない人では「遊具が充実している」が 35.8%で思う人より7ポイント高くなっている。

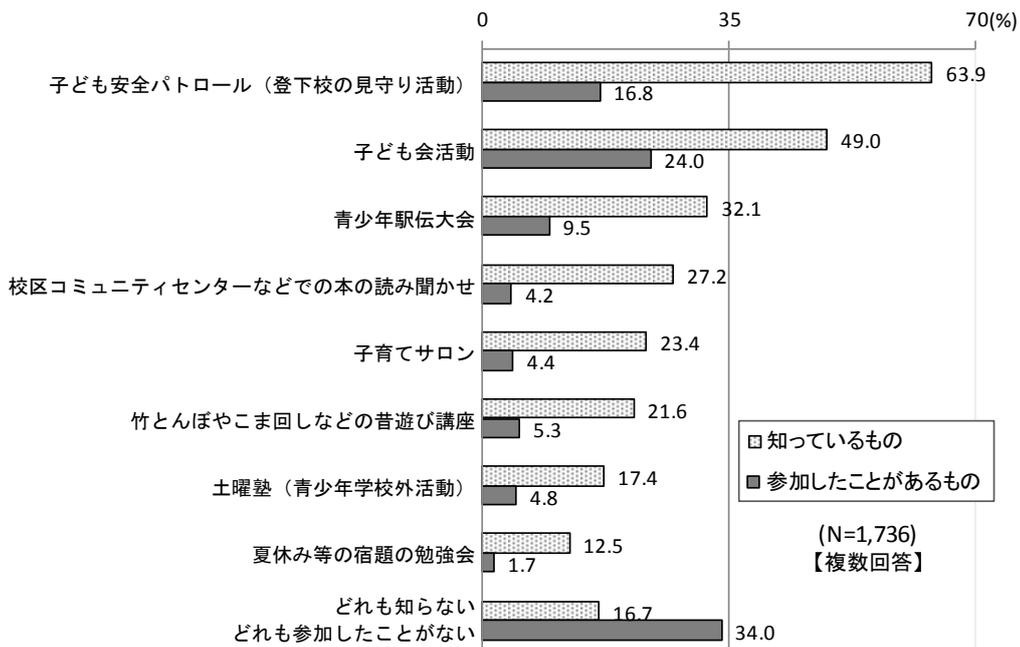
		標本数 (票)	子どもの遊び場として望ましい公園・広場 (%)													
			日陰がある	場十分な広さの広	る緑がたくさんあ	昆虫がいる	ベンチがある	きるボール遊びがで	い遊具が充実して	砂遊びができる	れ四季の花で彩ら	て清掃が行き届い	場水飲み・手洗い	その他	特にな	無回答
全体 (カッコ内は標本数)		100.0 (1,736)	60.1 (1,044)	42.8 (743)	36.1 (626)	9.9 (172)	49.4 (857)	39.9 (692)	31.5 (547)	18.3 (318)	25.6 (444)	65.0 (1,128)	62.3 (1,082)	4.1 (71)	5.1 (88)	1.2 (21)
性別	男性	792	54.9	48.2	37.8	10.9	44.9	44.8	27.8	17.6	23.4	61.5	59.3	3.7	6.3	1.0
	女性	944	64.5	38.2	34.6	9.1	53.1	35.7	34.6	19.0	27.4	67.9	64.8	4.4	4.0	1.4
性別×年齢別	男性:20歳代	103	52.4	56.3	34.0	7.8	45.6	48.5	32.0	11.7	18.4	60.2	53.4	2.9	9.7	-
	男性:30歳代	145	60.7	52.4	35.9	14.5	44.8	51.7	37.9	24.1	24.1	60.7	64.1	4.1	6.2	1.4
	男性:40歳代	126	52.4	50.0	35.7	8.7	42.9	45.2	29.4	14.3	18.3	61.9	61.1	5.6	6.3	0.8
	男性:50歳代	151	51.0	52.3	44.4	12.6	48.3	49.7	25.2	16.6	30.5	64.9	63.6	4.6	3.3	0.7
	男性:60歳代	179	54.7	41.3	38.5	9.5	48.0	37.4	24.0	19.6	22.9	60.9	56.4	1.7	6.1	1.1
	男性:70歳以上	88	59.1	36.4	35.2	11.4	35.2	35.2	15.9	15.9	23.9	59.1	54.5	3.4	8.0	2.3
	女性:20歳代	103	66.0	55.3	42.7	7.8	49.5	44.7	47.6	24.3	26.2	78.6	63.1	6.8	2.9	1.0
	女性:30歳代	134	67.2	47.0	42.5	12.7	59.7	41.8	52.2	20.9	29.1	74.6	67.9	5.2	3.0	1.5
	女性:40歳代	172	63.4	44.8	36.6	5.2	48.3	41.3	39.0	17.4	25.6	68.6	68.0	6.4	4.7	0.6
	女性:50歳代	180	63.9	32.8	31.7	9.4	58.3	28.3	28.9	15.0	25.0	72.8	63.9	4.4	3.9	1.1
	女性:60歳代	220	67.7	30.9	33.6	10.5	55.0	33.2	28.6	20.5	30.0	64.1	65.0	3.2	4.1	0.9
	女性:70歳以上	135	57.8	27.4	23.7	8.9	45.2	29.6	19.3	17.8	28.1	51.9	60.0	1.5	5.2	3.7
子どもの状況別	世帯の中に就学前の子どものいる	212	73.1	52.4	38.7	11.8	53.8	50.5	62.7	25.9	27.4	73.1	70.3	8.5	0.9	0.9
	世帯の中に小学生がいる	199	62.8	52.3	38.2	12.6	48.2	54.8	54.3	19.1	27.1	65.8	69.8	9.0	1.5	0.5
	世帯の中に中学生がいる	132	69.7	51.5	37.9	12.9	51.5	55.3	42.4	25.8	28.0	68.9	68.9	5.3	1.5	-
	世帯の中に上記以外の18歳未満の子どものいる	174	55.7	46.6	31.0	8.0	52.9	46.6	35.1	16.7	19.5	68.4	62.1	5.7	2.9	-
	上記にあてはまる人はいない	1,192	58.5	40.4	36.4	9.7	48.7	35.5	25.3	17.4	25.9	63.3	60.7	3.0	6.3	1.5
	無回答	17	47.1	29.4	23.5	11.8	29.4	35.3	5.9	11.8	23.5	58.8	29.4	5.9	17.6	-
状況別	十分にあると思う	992	62.9	41.6	38.8	11.2	52.0	39.1	28.8	17.2	25.1	68.1	63.6	4.2	3.7	0.3
	十分にあると思わない	718	57.4	45.7	33.1	8.4	46.9	41.8	35.8	20.1	26.9	62.0	62.0	3.9	6.7	0.7
	無回答	26	30.8	7.7	11.5	3.8	15.4	15.4	15.4	11.5	7.7	26.9	23.1	3.8	11.5	50.0

(4) 子ども・子育てに関する活動の認知と参加経験

知っているものでは「子ども安全パトロール」、「子ども会活動」が上位。
 参加したことがあるものでは1位に「子ども会活動」、次いで「子ども安全パトロール」。

問 26 あなたは、校区コミュニティ（各校区のまちづくり振興会・協議会など）や自治会で実施している子ども・子育てに関する活動を（A）知っていますか。また、（B）参加したことがありますか。（A）、（B）それぞれについて、次の中からあてはまるものを選び、番号に○印をつけてください。

※「(B) 参加したことがあるもの」には、お子さんのみが参加した場合や役員またはボランティア等での参加の場合も含まれます。



◆属性別特徴

活動の認知

【性別】 女性は「子ども会活動」「子育てサロン」「校区コミュニティセンターなどでの本の読み聞かせ」「子ども安全パトロール」で男性より認知度は 10 ポイント以上高くなっている。

【年齢別】

- ・すべての年代で「子ども安全パトロール」の認知度は高く、特に 40・50 歳代と 70 歳以上では7割台で他の年代より高くなっている。
- ・40～60 歳代は「子ども会活動」の認知度が5割を超えており、50 歳代では 60.7%となっている。

【子どもの状況別】

- ・小学生以上の子どもがいる世帯では「子ども安全パトロール」の認知度が8割前後で、「子ども会活動」が6割台で他の世帯より高くなっている。
- ・就学前・小学生がいる世帯では「子育てサロン」の認知度が他の世帯より高い。

参加経験

【性別】 男女とも「どれも参加したことがない」が最も高いが、男性は 39.8%と女性より 10.6 ポイント高い。

【年齢別】 50 歳代で「子ども会活動」の参加経験が 35.0%で最も高く、他の年齢層では「どれも参加したことがない」が最も高くなっている。特に 20・30 歳代では「どれも参加したことがない」が4割台と他の年齢層に比べて高い。

【子どもの状況別】 小学生以上の子どもがいる世帯では「どれも参加したことがない」は1割台と低く、「子ども会活動」の参加経験が4割前後と他の世帯より高くなっている。

活動の認知

	標本数(票)	子ども・子育てに関する活動の認知 (%)																		
		青少年 駅伝大会	子ども 会活動	子育て サロン	座し なと んぼ の昔 遊び ま回 講	竹 のぼ り	勉 強 会	夏 休 み 等 の 宿 題 の	本 の 読 み 聞 かせ	セ ン タ ー な ど の	校 区 コ ミ ュ ニ テ ィ	校 外 活 動 (青 少 年 学 校)	土 曜 塾 (青 少 年 学 校)	見 守 り 活 動 (登 下 校 の 見 守 り 活 動)	ロ ー ル (登 下 校 の 見 守 り 活 動)	子 ど も 安 全 パ ト の	ど れ も 知 ら な い	無 回 答		
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,736)	32.1 (558)	49.0 (851)	23.4 (406)	21.6 (375)	12.5 (217)	27.2 (472)	17.4 (302)	63.9 (1,110)	16.7 (290)	8.9 (154)									
性別																				
男性	792	28.4	43.3	14.5	17.2	11.1	20.2	14.3	57.8	22.2	8.7									
女性	944	35.3	53.8	30.8	25.3	13.7	33.1	20.0	69.1	12.1	9.0									
年齢別																				
20歳代	206	25.2	37.9	15.5	16.0	6.8	20.9	8.3	50.5	28.2	10.2									
30歳代	279	21.1	39.4	28.0	16.5	11.8	26.5	15.1	53.4	22.9	9.3									
40歳代	298	38.6	53.4	32.6	24.8	17.8	36.6	31.5	71.8	14.1	5.4									
50歳代	331	37.8	60.7	22.7	26.0	14.8	36.0	19.6	71.3	11.8	6.0									
60歳代	399	31.8	50.6	20.1	18.5	9.8	18.3	12.0	62.9	14.0	12.3									
70歳以上	223	35.9	45.3	19.7	27.8	13.0	24.2	16.1	70.0	13.9	9.9									
子どもの 状況別																				
世帯の中に就学前の子どもがいる	212	21.2	41.5	42.5	17.5	14.2	34.0	16.0	60.4	16.0	6.6									
世帯の中に小学生がいる	199	37.7	63.3	43.2	36.7	28.6	46.2	41.7	79.9	6.5	5.0									
世帯の中に中学生がいる	132	48.5	65.9	34.1	37.1	22.0	46.2	46.2	78.8	6.1	9.1									
世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	174	46.6	69.0	29.9	28.2	17.8	40.2	35.1	81.0	5.2	3.4									
上記にあてはまる人はいない	1,192	30.6	45.7	17.4	19.1	9.8	22.0	12.1	60.5	19.5	10.3									
無回答	17	29.4	35.3	17.6	5.9	-	11.8	11.8	41.2	23.5	11.8									

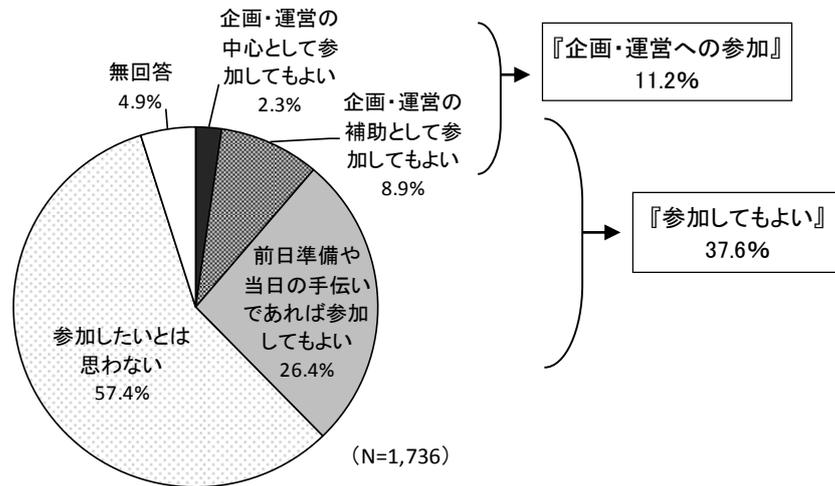
参加経験

	標本数(票)	子ども・子育てに関する活動の参加経験 (%)																			
		青少年 駅伝大会	子ども 会活動	子育て サロン	座し なと んぼ の昔 遊び ま回 講	竹 のぼ り	勉 強 会	夏 休 み 等 の 宿 題 の	本 の 読 み 聞 かせ	セ ン タ ー な ど の	校 区 コ ミ ュ ニ テ ィ	校 外 活 動 (青 少 年 学 校)	土 曜 塾 (青 少 年 学 校)	見 守 り 活 動 (登 下 校 の 見 守 り 活 動)	ロ ー ル (登 下 校 の 見 守 り 活 動)	子 ど も 安 全 パ ト の	ど れ も 知 ら な い	ど れ も 参 加 し た こ と が な い	無 回 答		
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,736)	9.5 (165)	24.0 (417)	4.4 (77)	5.3 (92)	1.7 (30)	4.2 (73)	4.8 (83)	16.8 (291)	34.0 (591)	29.4 (510)										
性別																					
男性	792	10.4	22.5	2.4	4.7	2.5	3.2	4.0	14.1	39.8	27.9										
女性	944	8.8	25.3	6.1	5.8	1.1	5.1	5.4	19.0	29.2	30.6										
年齢別																					
20歳代	206	4.9	24.3	2.4	5.8	1.0	4.9	1.5	1.9	48.5	21.4										
30歳代	279	7.2	20.8	10.4	3.9	2.2	7.2	4.3	11.1	43.0	22.2										
40歳代	298	12.1	30.5	6.0	6.4	1.7	6.0	10.7	26.2	34.2	18.8										
50歳代	331	15.7	35.0	3.6	6.9	3.0	3.9	6.3	21.5	28.1	26.6										
60歳代	399	8.0	19.5	2.0	2.8	1.0	1.8	1.8	16.8	28.3	41.4										
70歳以上	223	6.7	10.8	2.2	7.2	1.3	2.2	3.6	17.9	28.3	42.6										
子どもの 状況別																					
世帯の中に就学前の子どもがいる	212	3.3	20.8	16.5	3.8	2.4	10.4	5.2	15.1	36.3	23.6										
世帯の中に小学生がいる	199	13.6	40.7	11.6	12.1	4.0	11.6	13.1	37.2	17.1	22.1										
世帯の中に中学生がいる	132	22.7	39.4	6.1	10.6	2.3	9.1	17.4	40.9	16.7	19.7										
世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	174	23.0	41.4	4.0	7.5	1.7	5.2	15.5	33.3	19.0	20.1										
上記にあてはまる人はいない	1,192	7.8	20.0	2.2	4.3	1.4	2.2	2.1	12.0	37.8	32.7										
無回答	17	5.9	17.6	-	-	-	-	-	11.8	17.6	35.3										

(5) 子ども・子育てに関する活動への参加意向

子ども・子育てに関する活動の運営への参加意向は 37.6%。

問 27 あなたは、今後校区コミュニティや自治会で実施している子ども・子育てに関する活動の企画や運営、または当日のスタッフとして参加してみたいと思いますか。(あてはまる番号に1つだけ○印)



◆属性別特徴

【性別】男性で『企画・運営への参加』が 14.4%と女性より高く、女性は「前日準備や当日の手伝いであれば参加してもよい」が男性よりも高くなっている。

【年齢別】30・40 歳代で『参加してもよい』が4割台で他の年齢層よりやや高い。また、30 歳代は『企画・運営への参加』が 15.0%とやや高い。

【職業別】学生で『参加してもよい』が 50.0%で他の職業より高い。

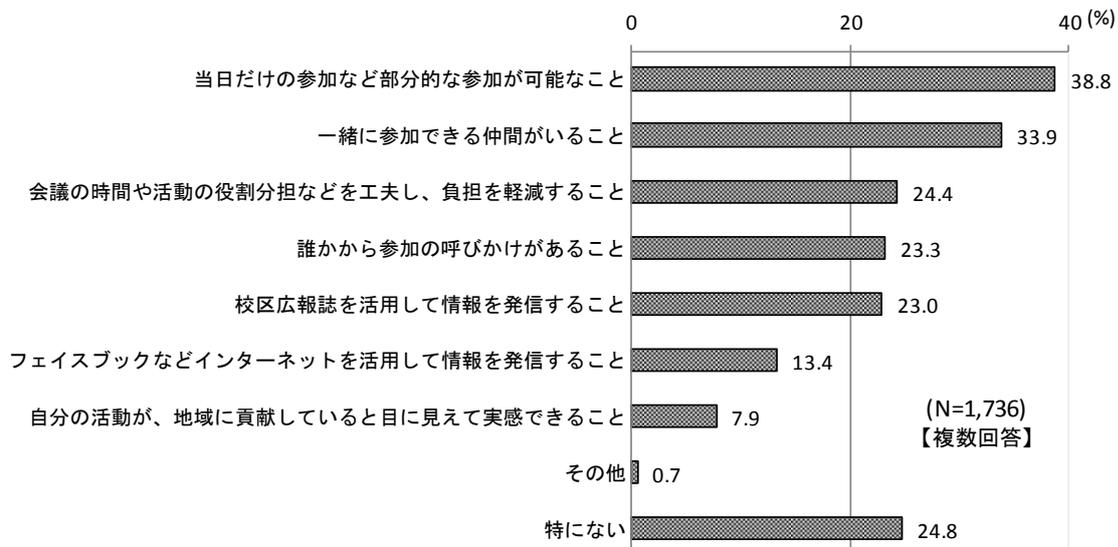
【子どもの状況別】中学生以下の子どもがいる世帯では『参加してもよい』が5割前後で他の世帯より高い。

	標本数 (票)	子ども・子育て活動への参加意向 (%)						
		心 も よ い て 参 加 し 中	企 画 ・ 運 営 の 補 助 と し て 参 加 し	『企 画 ・ 運 営 へ の 参 加』	加 手 前 日 準 備 や 当 日 の 参 加 し て も よ い	わ な い 参 加 し た い と は 思 わ ない	無 回 答	『参 加 し て も よ い』
全 体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,736)	2.3 (40)	8.9 (155)	11.2 (195)	26.4 (459)	57.4 (997)	4.9 (85)	37.6 (654)
性別								
男性	792	3.5	10.9	14.4	25.5	56.7	3.4	39.9
女性	944	1.3	7.3	8.6	27.2	58.1	6.1	35.8
年齢別								
20歳代	206	2.9	9.7	12.6	22.8	62.6	1.9	35.4
30歳代	279	3.9	11.1	15.0	27.2	55.6	2.2	42.2
40歳代	298	2.0	10.1	12.1	29.2	55.4	3.4	41.3
50歳代	331	2.4	9.7	12.1	22.4	61.9	3.6	34.5
60歳代	399	1.5	7.3	8.8	29.6	54.6	7.0	38.4
70歳以上	223	1.3	5.8	7.1	25.6	56.1	11.2	32.7
職業別								
農林漁業	44	4.5	9.1	13.6	29.5	54.5	2.3	43.1
自営業	169	1.8	8.3	10.1	23.1	59.2	7.7	33.2
給与所得者(常勤)	635	3.1	11.8	14.9	25.2	57.2	2.7	40.1
パート・アルバイト(学生は除く)	288	1.4	5.9	7.3	28.5	60.4	3.8	35.8
学生	40	5.0	7.5	12.5	37.5	47.5	2.5	50.0
家事に専念	203	1.0	6.9	7.9	32.5	52.7	6.9	40.4
無職	318	1.9	6.9	8.8	23.6	59.7	7.9	32.4
その他	19	-	21.1	21.1	26.3	47.4	5.3	47.4
無回答	20	5.0	10.0	15.0	20.0	55.0	10.0	35.0
子どもの状況別								
世帯の中に就学前の子どもがいる	212	4.2	11.3	15.5	35.8	46.2	2.4	51.3
世帯の中に小学生がいる	199	5.5	8.5	14.0	41.7	40.2	4.0	55.7
世帯の中に中学生がいる	132	4.5	12.1	16.6	31.8	43.9	7.6	48.4
世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	174	2.9	10.9	13.8	27.6	52.9	5.7	41.4
上記にあてはまる人はいない	1,192	1.8	8.3	10.1	22.7	61.9	5.2	32.8
無回答	17	-	5.9	5.9	23.5	58.8	11.8	29.4

(6) 子ども・子育てに関する活動に参加しやすくするために必要なこと

「当日だけの参加など部分的な参加が可能なこと」(38.8%)と「一緒に参加できる仲間がいること」(33.9%)が上位2項目。

問 28 校区コミュニティや自治会で実施している子ども・子育てに関する活動の企画・運営や当日のスタッフとして参加しやすくするためには、どのようなことがあればよいと思いますか。
(あてはまる番号にいくつでも○印)



◆属性別特徴

【性別】男女ともに「当日だけの参加など部分的な参加が可能なこと」が約4割で最も高く、女性は「一緒に参加できる仲間がいること」「会議の時間や活動の役割分担などを工夫し、負担を軽減すること」で男性より5ポイントほど高くなっている。

【年齢別】40・50 歳代は「当日だけの参加など部分的な参加が可能なこと」、20・30 歳代では「一緒に参加できる仲間がいること」がそれぞれ4割を超えている。

【子どもの状況別】

- ・中学生以下の子どもがいる世帯では「当日だけの参加など部分的な参加が可能なこと」「会議の時間や活動の役割分担などを工夫し、負担を軽減すること」が他の世帯より高い。
- ・就学前・小学生がいる世帯では「一緒に参加できる仲間がいること」が他の世帯より高くなっている。

【自治会加入の有無別】

- ・自治会に加入している人は「当日だけの参加など部分的な参加が可能なこと」「校区広報誌を活用して情報を発信すること」が加入していない人より高い。
- ・自治会加入の有無にかかわらず「一緒に参加できる仲間がいること」はどちらも3割半ばとなっている。

【子ども・子育て活動への参加意向別】

- ・企画・運営の中心として参加してもよい人は「一緒に参加できる仲間がいること」「誰かから参加の呼びかけがあること」がいずれも 52.5%で最も高く、企画・運営の補助として参加してもよい人も「一緒に参加できる仲間がいること」が5割台で最も高くなっている。
- ・企画・運営の中心として参加してもよい人では「フェイスブックなどインターネットを活用して情報を発信すること」「誰かから参加の呼びかけがあること」「会議の時間や活動の役割分担などを工夫し、負担を軽減すること」「自分の活動が、地域に貢献していると目に見えて実感できること」で参加したいと思わない人と 30 ポイント以上の大きな差がみられる。

		標本数(票)	子ども・子育て活動に参加しやすくするために必要なこと (%)											
			インフォメーションを発信すること	情報を発信すること	校区広報誌を活用すること	一緒に参加できる仲間	誰かから参加の呼びかけがあること	負担を軽減すること	会議の時間や活動の役割分担	当日だけの参加が可能なこと	当日の実感で活動が可能なこと	自分の活動が、地域に貢献していること	その他	特にな
全体 (カッコ内は標本数)		100.0 (1,736)	13.4 (232)	23.0 (399)	33.9 (589)	23.3 (404)	24.4 (424)	38.8 (674)	7.9 (138)	0.7 (13)	24.8 (430)	4.8 (83)		
性別	男性	792	15.3	22.6	31.4	24.1	21.6	38.1	9.7	0.8	27.5	3.4		
	女性	944	11.8	23.3	36.0	22.6	26.8	39.4	6.5	0.7	22.5	5.9		
年齢別	20歳代	206	28.6	17.5	43.2	25.2	26.2	38.3	11.7	-	23.8	1.0		
	30歳代	279	20.1	19.4	42.3	18.3	27.2	39.4	10.0	0.4	22.9	2.2		
	40歳代	298	14.1	24.2	32.9	22.1	29.9	42.3	8.1	3.0	21.1	2.3		
	50歳代	331	11.5	24.2	31.4	23.3	33.5	47.4	9.1	0.9	21.5	3.6		
	60歳代	399	6.3	24.6	29.3	23.8	19.5	35.6	5.3	-	29.8	7.3		
	70歳以上	223	5.4	26.5	28.3	28.3	7.2	26.9	4.9	-	28.7	12.1		
子どもの状況別	世帯の中に就学前の子どもがいる	212	19.8	19.8	47.6	23.6	32.5	46.2	9.4	0.5	17.0	3.3		
	世帯の中に小学生がいる	199	13.1	23.6	42.7	26.1	32.2	47.2	10.1	2.0	14.1	3.5		
	世帯の中に中学生がいる	132	9.1	24.2	36.4	23.5	31.1	47.7	6.8	2.3	19.7	6.8		
	世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	174	17.2	23.6	39.1	19.0	27.6	36.8	8.6	2.3	19.0	2.9		
	上記にあてはまる人はいない	1,192	12.4	23.6	30.9	23.2	21.2	37.1	7.5	0.3	28.1	5.5		
	無回答	17	5.9	11.8	17.6	29.4	17.6	23.5	17.6	-	35.3	11.8		
自治会加入の有無	加入している	1,293	11.6	26.0	34.7	25.1	25.1	41.3	7.0	0.9	21.9	5.2		
	加入していない	257	16.7	16.7	34.2	17.5	22.2	33.5	10.9	0.4	30.0	3.9		
	わからない	169	21.9	11.2	27.2	16.0	21.9	27.8	11.2	-	38.5	3.0		
	無回答	17	11.8	5.9	35.3	41.2	29.4	41.2	5.9	-	29.4	5.9		
子ども・子育て活動への参加意向	企画・運営の中心として参加してもよい	40	47.5	42.5	52.5	52.5	50.0	50.0	35.0	-	-	-		
	企画・運営の補助として参加してもよい	155	23.9	40.0	50.3	41.3	41.9	49.0	17.4	1.3	1.9	0.6		
	前日準備や当日の手伝いであれば参加してもよい	459	14.2	32.9	47.9	36.2	34.9	62.5	10.2	0.2	4.1	0.7		
	参加したいとは思わない	997	10.8	16.4	26.2	14.6	17.5	28.9	4.8	1.0	40.6	1.5		
	無回答	85	3.5	5.9	10.6	8.2	5.9	3.5	2.4	-	3.5	75.3		

考察 — 結婚、妊娠・出産、子育て —

●結婚を希望する人への支援として「雇用の場の創出」「出会いの場の創出」「ワーク・ライフ・バランスの推進」が求められている

現在進行している晩婚化の原因については、「定職に就かない若者・非正規雇用の若者が増えたから」と、雇用環境の悪化を挙げる人が3割台半ばで最も多く、「適当な結婚相手が見つからない人が増えたから」「女性に経済力がついたから」「若いうちは趣味や娯楽を楽しみたいと思う人が増えたから」などが続いている。

結婚していない人（離別・死別を除く。以下、「独身者」という）についてみると、「若いうちは趣味や娯楽を楽しみたいと思う人が増えたから」が3割弱と高く、また「若いうちは仕事に打ち込みたいと考える人が増えたから」もやや高くなっている。独身者では、結婚によって個人の活動が制限されるという印象を持っているようである。

さらに、独身者について年齢別でみると、20歳代では「若いうちは趣味や娯楽を楽しみたいと思う人が増えたから」

が約4割と特に高く、「若いうちは仕事に打ち込みたいと考える人が増えたから」も2割超と高くなっている。したがって、結婚で個人の活動が制限されるという感覚は、20歳代の独身者で特に強いと考えられる。

結婚を希望する人に対する支援としてあればよいと思うものとしては、

「安定した雇用の場の創出」が5割超、「男女の出会いの場の提供」が4割超、「ワーク・ライフ・バランスの推進」が3割弱と高く、晩婚化の原因の上位項目と対応するような回答となっている。

独身者について性別でみると、一般的に家事や育児の多くを女性が担っている現状を反映してか、女性で「ワーク・ライフ・バランスの推進」が4割弱と高くなっている。また、独身者の年齢別では20歳代で「ワーク・ライフ・バランスの推進」が4割超と高い。上述したように、20歳代の独身者では結婚することによ

■年齢別にみた結婚する年齢が高くなっている原因(独身者のみ)

	標本数(票)	みたいという人は趣味や娯楽を楽しみたいと思う人が増えたから	若いうちは仕事に打ち込みたいと考える人が増えたから	若いうちは仕事に打ち込みたいと考える人が増えたから	若いうちは仕事に打ち込みたいと考える人が増えたから	適当な結婚相手が見つからない	女性の学歴が高くなっている	女性に経済力がついたから	独身でいることに対する社会的	単身生活が便利になったから	雇用の若者が増えたから	定職に就かない若者・非正規	その他	無回答
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (397)	28.2 (112)	16.1 (64)	4.0 (16)	29.2 (116)	3.0 (12)	18.4 (73)	15.4 (61)	17.4 (69)	29.7 (118)	6.8 (27)	2.8 (11)		
年齢別														
20歳代	158	40.5	22.2	3.8	29.7	3.2	16.5	13.3	15.2	22.8	7.0	1.3		
30歳代	107	24.3	13.1	2.8	32.7	1.9	12.1	16.8	15.9	34.6	7.5	3.7		
40歳代	53	17.0	15.1	1.9	22.6	3.8	24.5	22.6	20.8	28.3	5.7	5.7		
50歳代	37	24.3	10.8	5.4	32.4	2.7	27.0	10.8	24.3	32.4	5.4	2.7		
60歳代	33	9.1	6.1	9.1	21.2	6.1	30.3	15.2	21.2	33.3	6.1	3.0		
70歳以上	9	11.1	11.1	11.1	33.3	-	11.1	11.1	11.1	77.8	11.1	-		

■性別、年齢別にみた結婚を希望する人に対して

必要な支援(独身者のみ)

	標本数(票)	婚シンポジウムの意識啓発	学ぶ機会	交際にあつてのノウハウを	男女の出会いの場の提供	ワーク・ライフ・バランスの推進	安定した雇用の場の創出	その他	支援は個人の問題であるため	結婚は必要ない	無回答
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (397)	5.0 (20)	3.0 (12)	34.8 (138)	32.0 (127)	46.9 (186)	2.8 (11)	22.4 (89)	3.3 (13)		
性別											
男性	234	6.4	4.3	35.9	27.4	47.9	3.0	22.2	4.3		
女性	163	3.1	1.2	33.1	38.7	45.4	2.5	22.7	1.8		
年齢別											
20歳代	158	6.3	3.2	36.7	44.3	49.4	2.5	13.9	1.9		
30歳代	107	2.8	2.8	33.6	21.5	40.2	1.9	32.7	3.7		
40歳代	53	3.8	3.8	30.2	26.4	50.9	1.9	28.3	5.7		
50歳代	37	8.1	2.7	35.1	21.6	54.1	2.7	24.3	2.7		
60歳代	33	3.0	3.0	27.3	30.3	36.4	9.1	24.2	3.0		
70歳以上	9	11.1	-	66.7	22.2	66.7	-	-	11.1		

る仕事や趣味等への影響を晩婚化の原因と考える傾向がみられた。独身者では女性や若年層が仕事と家庭生活や趣味等との両立できる環境の必要性を感じているが、そのような職場環境を実現するためには、特定の層だけではなく、性別や年代に関わりなくすべての人のワーク・ライフ・バランスを推進することが求められる。

一方で、「結婚は個人の問題であるため、支援は必要ない」が全体で2割弱、30・40歳代の独身者で3割前後に上っている。結婚に関する施策の実施にあたっては、多様性に配慮し「結婚するのが当たり前」といった前提に立つことのないよう十分に留意すべきである。

●安心して妊娠・出産できる環境をさらに充実していくためには、市民や企業の理解と協力が必要

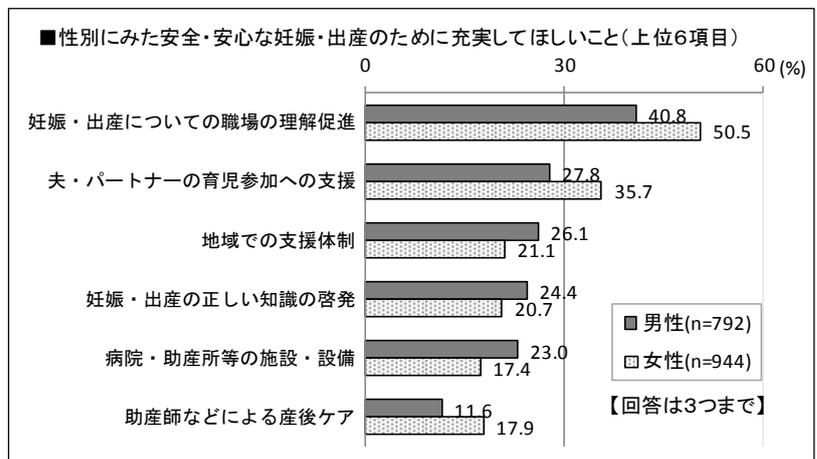
久留米市での妊娠・出産に関して、安心して妊娠・出産できる環境が整っていると思うか尋ねた質問に対しては、8割の人が『思う』（「そう思う」20.5%、「どちらかといえばそう思う」59.5%）と肯定的にみている。子どもの状況別では、就学前の子どもがいる世帯で「そう思う」が3割を超えており、比較的最近に本人または家族が妊娠・出産を経験したと思われる層の評価が高い。

市としては引き続き安心して妊娠・出産できる環境を維持・充実していくことが求められるが、今後充実してほしいこととして、「妊娠・出産についての職場の理解促進」「夫・パートナーの育児参加への支援」「地域での支援体制」「妊娠・出産の正しい知識の啓発」等が上位に挙げられている。これらの項目は、いずれも市の取り組みとあわせて、市民や企業の理解と協力が必要である。特に「妊娠・出産についての職場の理解促進」「夫・パートナーの育児参加への支援」は男性よりも女性で高く、中でも20～40歳代の妊娠・出産や子育てを経験する人が多い年代の女性で高くなっており、安心して妊娠・出産できる環境づくりのために、職場やパートナーの理解や協力が強く望まれていることがうかがえる。

また、仕事と子育ての両立のために事業者（企業など）に求める支援として、「育児休業を取得しやすい環境整備」「子どもの看護休暇、短時間勤務などが利用しやすい環境整備」が上位に挙げられている。

両立の支援のための法整備が進んでも、実際に制度を利用できる環境が無ければ絵に描いた餅になってしまう。平成25年に実施した「久留米市子育てに関するアンケート調査」では、就学前児童をもつ母親で現在就労していない人の約25%が「すぐにでも働きたい」、5割以上が「子どもがある程度大きくなったら働きたい」と回答しており、両立ができる環境を整えることで今後懸念される労働力不足の解消にもつながる。今後は、施設・設備等や両立支援制度の充実に加えて、市民や企業に対する意識啓発や情報提供を積極的に行い、子育てを市全体で支えていくようなまちづくりが望まれる。

「助産師などによる産後ケア」は、女性（特に30歳代の女性）や就学前の子どもがいる世帯



で高い。出産後はホルモンバランス等の心身の変化に加え、生活環境や生活リズムの変化、行動範囲や外部との接触が限られてしまうなど、不安を抱える産婦も少なくない。市外からの移住者など、親や親類、近隣からのサポートを得られにくい人でも安心して妊娠・出産できるよう、産後の支援の充実が望まれる。

マタニティマークに関しては、認知度は7割（「言葉も内容も知っている」45.4%、「聞いたことはあるが内容は知らない」25.6%）を超えている。内閣府が平成26年に実施した「母子保健に関する世論調査」での認知度は5割台半ば（「知っていた」45.6%、「言葉だけは知っていた」8.0%）であり、聞いたことがあるという程度の人を含めると久留米市の認知度は高いが、マークの意味まで知っている人は全国調査とほぼ変わらず半数以下にとどまっている。また、20歳代および30歳代の人や、小学生以下の子どもがいる世帯では8割から9割の人が認知している一方、年齢の高い層や小さな子どもがいない世帯の認知度は低く、当事者以外の人に周知されていないことが分かる。さらに、性別・年齢別でみると、子育て中の人が多い20歳代および30歳代の女性で「言葉も内容も知っている」が8割前後に上るのに対し、同年代の男性では5割に満たず、性別による差も大きい。マタニティマークは、外見上は妊娠が分かりにくいものの、つわり等の体調不良や流産の危険性が高い妊娠初期の妊婦への周囲の配慮を促すことを主な趣旨としており、当事者以外の人に広く認知してもらうことが重要である。今後、様々な機会を活用し、幅広い年代に対して啓発を実施していくことが重要だと考える。

●久留米市は子育てしやすいと思う人が約8割、地域の状況に応じた支援事業のさらなる充実と周知が求められる

久留米市は「全国トップクラスの子育てしやすいまち」を目指しているが、久留米市を子育てしやすいまちだと思うかたずねたところ、『思う』が8割近く（「そう思う」16.2%、「どちらかといえばそう思う」62.5%）に上り、肯定的な意見が大半を占めている。また、平成25年の調査に比べて『思う』が約7ポイント増加しており、久留米市の子育て環境に対する市民の評価は向上している。また、世帯の中に小学生以下の子どもがいる人で「そう思う」が2割を超えており、さらに小学生から18歳未満の子どもがいる人で『思う』が8割を超えるなど、子育て中の人々の評価がやや高くなっている。

久留米市が実施している子育て支援事業の認知は、「児童センター」と「地域子育て支援センター」が6割台後半、「一時預かり事業」と「子育て交流プラザくるるん」が4割台後半、「病児保育事業」が3割台前半となっているが、それ以外の事業は1割台から2割台にとどまっている。子どもの状況別では、いずれの事業も子どもがいる世帯、特に小学生以下の子どもがいる世帯の認知が高い傾向がみられ、事業の対象となる人の認知度が高くなっている。ただし、「信愛つどいの広場」「エンゼル支援訪問事業」「ショートステイ・トワイライトステイ事業」「ファミリー・サポート・センター事業」は小学生以下の子どもがいる世帯でも認知度が2割から5割弱にとどまる。これらのうち「エンゼル支援訪問事業」「ショートステイ・トワイライトステイ事業」「ファミリー・サポート・センター事業」は、全体からみたニーズは小さいかもしれないが、一方で身近に頼れる親類や知り合いがいない人にこそ必要とされる事業でもある。ファミリー・サポート・センター事業のみまもり会員（提供会員）の確保にもつながるよう、市民全体に向けてさらなる周知が望まれる。

久留米市は小児医療が充実していると思うかという問いに対しては、『思う』が8割弱（「そう思う」32.1%、「どちらかといえばそう思う」46.1%）に上り、妊娠・出産する環境、子育てしやすさと同様、大半が肯定的に評価している。また、小学生以下の子どもがいる世帯で「そう思う」が4割を超えており、子育ての当事者からの評価が特に高くなっている。ブロック別でみると、東部B（田主丸）、西部A（城島）、西部B（三潴）で「そう思う」が2割前後と相対的に低く、近隣の小児科の状況や、久留米広域小児救急センターへのアクセスのしやすさなどの地域差が影響していると考えられる。

小児救急医療電話相談（#8000）については、『知っている』は36.2%で、内閣府の「母子保健に関する世論調査」（平成26年）の認知度（10.2%）よりは高いものの、十分に認知されているとはいえない状況である。小学生以下の子どもがいる世帯でも内容まで知っている人は5割前後にとどまっている。相談できる窓口があることで、夜間等の子どもの急な病気に対する不安感の緩和にもつながると考えられるため、事業主体である福岡県とも連携をとりながら、情報提供のさらなる充実を進める必要がある。

発達障害については、聞いたことがあるという人まで含めると9割に上るが、内容まで知っている人は約6割となっている。早期に発見して早い段階での支援開始など、必要とする人の適切な支援につなげることができるよう、今後は内容についてもより認知度を高めるよう努めたい。性別・年齢別でみると、20～50歳代の女性では内容まで知っている人が7割から8割弱に上るが、男性では最も高い20歳代でも6割台半ばにとどまっている。また、男女とも60歳以上では内容まで知っている人が4割から5割超と他の年代に比べて低くなっている。周囲の人々の発達障害についての知識や理解の不足から発達障害のある人や家族が傷つけられるケースも懸念されるため、すべての年代の市民に対して正しい理解を促す取り組みが必要である。

●仕事をしている男性や学生など、幅広い市民が参画しやすい仕組みづくりが、子育てしやすいまちづくりへの課題

住まいの近くに気軽に利用できる公園・広場が十分にあると思うかについては、全体では『思う』が6割弱だが、小中学生がいる世帯では5割程度とやや低くなっており、この項目については子育て中の人の評価がやや低くなっている。

近くの公園・広場について感じていることでは、「除草・清掃などの管理はできている」「子どもが遊んでいる間、親が休憩する施設（ベンチ・日陰など）が少ない」が同率で1位となっている。「子どもが遊んでいる間、親が休憩する施設が少ない」は中学生以下の子どもがいる世帯でやや高く、子育て中の人からは付き添いの親が休憩できるような環境が求められているといえる。また、「遊具などが古くて危険である」も世帯の中に18歳以下の子どもがいる人でやや高く、子どもや保護者が快適に過ごせる環境づくりと、遊具の整備・更新や樹木の管理などの公園の安全管理とをともに進めることが必要とされている。

子どもの遊び場に望むものでは「清掃が行き届いている」「水飲み・手洗い場がある」「日陰がある」「ベンチがある」などが高くなっており、やはり快適に過ごせる管理・設備が望まれている。また、「ボール遊びができる」「遊具が充実している」は全体では3割台だが、世帯の中に中学生以下の子どもがいる人で高い傾向がみられ、子育て中の人からは遊び場としての充実も求められている。「ボール遊びができる」「遊具が充実している」「十分な広さの広場がある」

など遊びに関する要素は年代別での意識差が大きい。公園の整備や利用、維持管理について、幅広い年代の近隣住民が関われるような取り組みの充実が重要である。

校区コミュニティや自治会での子ども・子育てに関する活動の認知については、いずれの活動についても世帯の中に活動の対象となる年代の子どもがいる人ほど認知度が高い。また、性別でみるとすべての項目で女性の認知度が男性の認知度より高くなっている。性別・年齢別で、各項目で女性の認知度が特に高い年代で比較すると、男性は10ポイントから20ポイント程度低くなっている。

一方、活動への参加経験をみると、各項目の性別による参加経験率の差は小さい。しかし、「どれも参加したことがない」は男性が女性よりも約10ポイント高くなっている。性別・年齢別でみると、70歳以上では「子ども安全パトロール」「子ども会活動」「青少年駅伝大会」などで男性の参加経験率が高くなっており、一部の男性がリタイア後に地域の活動等に積極的に参加しているためではないかと推測される。しかし、その他の年代では男性で

「どれも参加したことがない」が高くなっており、特に子育て中の人が多い年代である30・40歳代での差が大きい。

今後は、仕事をしている人でも参加しやすい活動内容や日程などを工夫したり、積極的な働きかけを行うなど、子育て中の人も含めて男性の参加をより促すような環境づくりが必要と思われる。

校区コミュニティ等で実施している子ども・子育て活動の運営への参加意向は、『企画・運営への参加』が1割強、前日や当日の手伝いも含めると4割弱が参加してもよい

と回答しており、特に子育て中の人の中でも中学生以下の子どもがいる世帯で高くなっている。また、実数が少ないため断定的なことはいえないものの、「学生」で『参加してもよい』が5割と高くなっている。子ども・子育てに関する活動を実施するにあたって、市内の大学や短大、専門学校等の関心の高い学生に運営スタッフとして参加してもらう方策を検討することで、活動をより活性化できるのではないだろうか。

■性別・年齢別にみた子ども子育てに関する活動の認知と参加経験

(%)

	標本数(票)	知っているもの										無回答
		青少年駅伝大会	子ども会活動	子育てサロン	などのお遊び講座	竹の昔やま回し	強会	夏休み等の宿題の勉強	読み聞かせ	校区コミュニティでのイベント	校外活動(青少年学校)	
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,736)	32.1 (558)	49.0 (851)	23.4 (406)	21.6 (375)	12.5 (217)	27.2 (472)	17.4 (302)	63.9 (1,110)	16.7 (290)	8.9 (154)	
性別×年齢別	男性:20歳代	103	26.2	35.9	10.7	15.5	8.7	19.4	10.7	43.7	32.0	11.7
	男性:30歳代	145	22.1	32.4	14.5	13.8	11.7	15.2	10.3	47.6	32.4	10.3
	男性:40歳代	126	30.2	39.7	18.3	18.3	10.3	25.4	23.0	60.3	20.6	6.3
	男性:50歳代	151	29.8	53.0	13.2	21.2	13.9	31.1	15.9	64.2	15.9	6.6
	男性:60歳代	179	30.2	50.3	16.2	14.0	7.8	13.4	11.2	60.9	16.8	9.5
	男性:70歳以上	88	33.0	44.3	12.5	22.7	15.9	17.0	15.9	70.5	18.2	8.0
	女性:20歳代	103	24.3	39.8	20.4	16.5	4.9	22.3	5.8	57.3	24.3	8.7
	女性:30歳代	134	20.1	47.0	42.5	19.4	11.9	38.8	20.1	59.7	12.7	8.2
	女性:40歳代	172	44.8	63.4	43.0	29.7	23.3	44.8	37.8	80.2	9.3	4.7
	女性:50歳代	180	44.4	67.2	30.6	30.0	15.6	40.0	22.8	77.2	8.3	5.6
	女性:60歳代	220	33.2	50.9	23.2	22.3	11.4	22.3	12.7	64.5	11.8	14.5
	女性:70歳以上	135	37.8	45.9	24.4	31.1	11.1	28.9	16.3	69.6	11.1	11.1
	全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,736)	9.5 (165)	24.0 (417)	4.4 (77)	5.3 (92)	1.7 (30)	4.2 (73)	4.8 (83)	16.8 (291)	34.0 (591)	29.4 (510)
	性別×年齢別	男性:20歳代	103	6.8	20.4	1.0	6.8	1.9	4.9	1.0	1.9	52.4
男性:30歳代		145	6.2	20.0	6.9	4.8	4.1	4.8	2.8	8.3	49.7	23.4
男性:40歳代		126	12.7	23.8	0.8	4.0	0.8	4.0	6.3	15.1	46.0	22.2
男性:50歳代		151	14.6	30.5	2.0	5.3	4.0	2.6	6.0	18.5	31.8	29.1
男性:60歳代		179	9.5	20.7	1.7	2.8	1.7	1.1	2.8	15.6	33.0	36.3
男性:70歳以上		88	12.5	17.0	1.1	5.7	2.3	2.3	5.7	26.1	27.3	34.1
女性:20歳代		103	2.9	28.2	3.9	4.9	-	4.9	1.9	1.9	44.7	23.3
女性:30歳代		134	8.2	21.6	14.2	3.0	-	9.7	6.0	14.2	35.8	20.9
女性:40歳代		172	11.6	35.5	9.9	8.1	2.3	7.6	14.0	34.3	25.6	16.3
女性:50歳代		180	16.7	38.9	5.0	8.3	2.2	5.0	6.7	23.9	25.0	24.4
女性:60歳代		220	6.8	18.6	2.3	2.7	0.5	2.3	0.9	17.7	24.5	45.5
女性:70歳以上		135	3.0	6.7	3.0	8.1	0.7	2.2	2.2	12.6	28.9	48.1



子ども・子育てに関する活動に参加しやすくするために必要なこととしては、「当日だけの参加など部分的な参加が可能なこと」が4割弱で最も高い。子どもの状況別でみると、中学生以下の子どもがいる世帯で同項目が5割弱と高くなっており、活動の対象となる年齢の子どもがいる人では、部分的な参加であれば協力したいという人は多いようである。また、就学前の子どもがいる世帯では「一緒に参加する仲間がいること」が高い。校区コミュニティ等で実施する子ども・子育てに関する活動は小学生以上を対象としたものが多いが、未就学の子どもやその保護者も一緒に参加できるような環境づくりなど、多様な人が地域の活動への参画を推進するための支援が必要だろう。

年齢別では、20・30歳代で「フェイスブックなどインターネットを活用して情報を発信すること」が比較的高く、特に20歳代では3割弱に上る。職業別でみると「学生」では同項目が5割近くに上っている。久留米市のホームページ等での情報発信の支援を行うなど、様々なメディアの活用を検討が望まれる。

(分析者 武藤桐子)

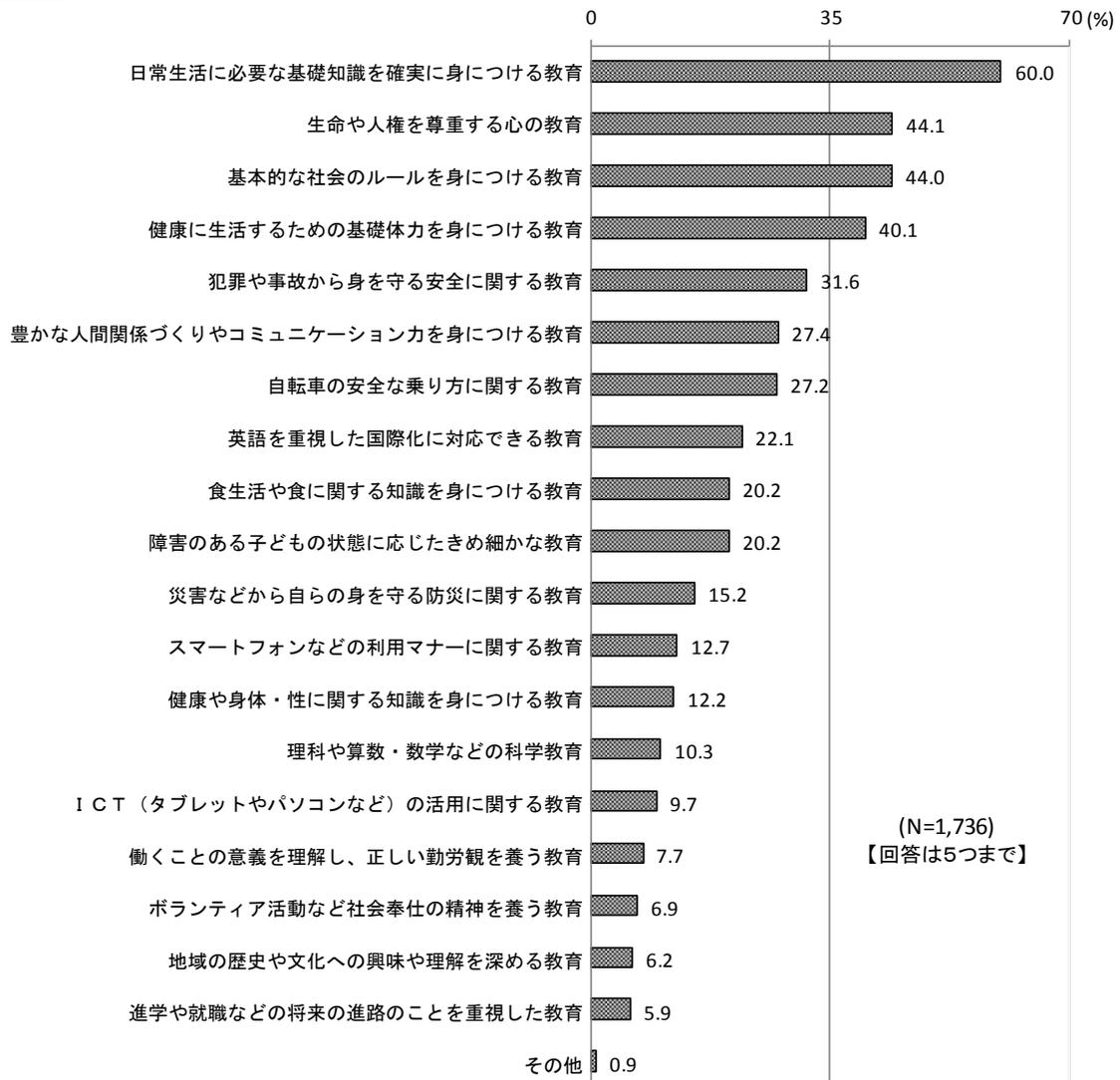
2-4 学校教育

(1) 小・中学校で力を入れてほしいこと

小学校では「日常生活に必要な基礎知識を確実に身につける教育」(60.0%)、中学校では「生命や人権を尊重する心の教育」(39.4%)が最も高い。

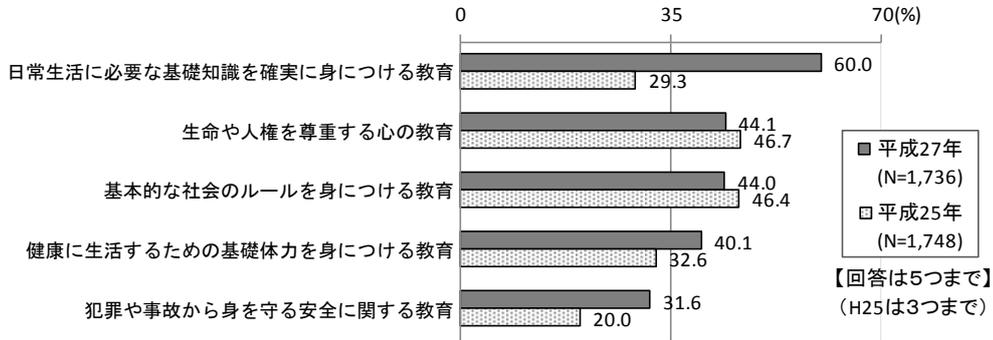
問 29 あなたは、久留米市の小・中学校において、今後特に力を入れてほしいと思われるものはどれですか。(A)小学校、(B)中学校のそれぞれについて、次の中からあてはまるものを5つまで(4つ以内でもかまいません)選び、番号に○印をつけてください。

小学校



■図2-1 小学校で特に力を入れてほしいこと(前回調査比較)上位5項目

◇上位5項目については前回調査と変わらないが、今回1位の「日常生活に必要な基礎知識を身につける教育」は、前回調査より 30.7 ポイントと大幅に増加している。



※「犯罪や事故から身を守る安全に関する教育」は、前回調査では「自らの身を守るための防災や安全に関する教育」となっている。

◆属性別特徴 **小学校**

【性別】 女性は「食生活や食に関する知識を身につける教育」「生命や人権を尊重する心の教育」「犯罪や事故から身を守る安全に関する教育」で男性より高く、男性は「英語を重視した国際化に対応できる教育」「スマートフォンなどの利用マナーに関する教育」で女性より高くなっている。

【年齢別】

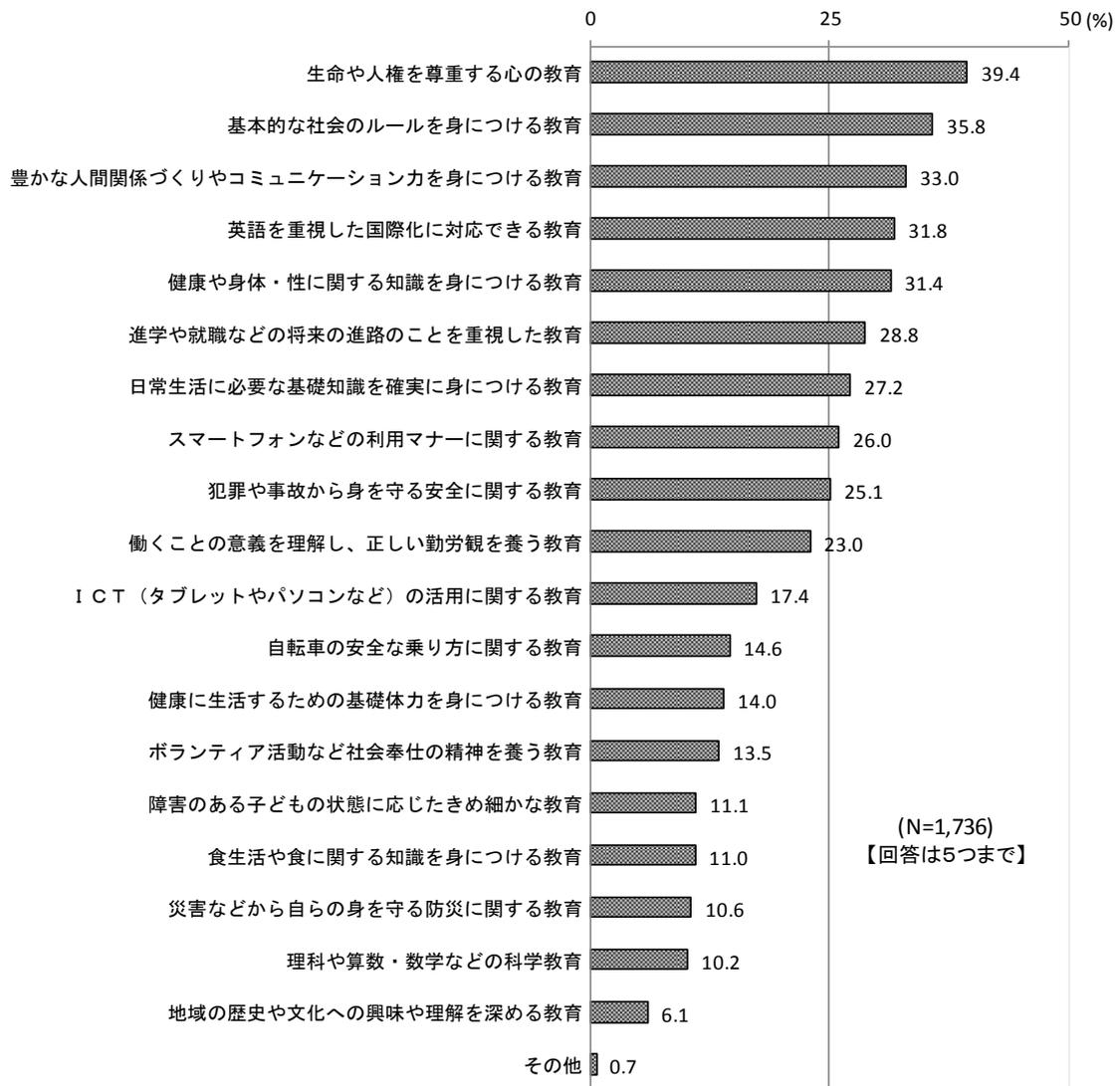
- ・30歳代では「犯罪や事故から身を守る安全に関する教育」が4割近くで他の年齢層より高い。
- ・「スマートフォンなどの利用マナーに関する教育」や「豊かな人間関係づくりやコミュニケーション力を身につける教育」では若い年齢層ほど高くなる傾向がみられる。

【子どもの状況別】

- ・就学前・小学生がいる世帯では「英語を重視した国際化に対応できる教育」「犯罪や事故から身を守る安全に関する教育」「豊かな人間関係づくりやコミュニケーション力を身につける教育」が他の世帯より高い。
- ・中学生以上がいる世帯では「スマートフォンなどの利用マナーに関する教育」が他の世帯より高い。

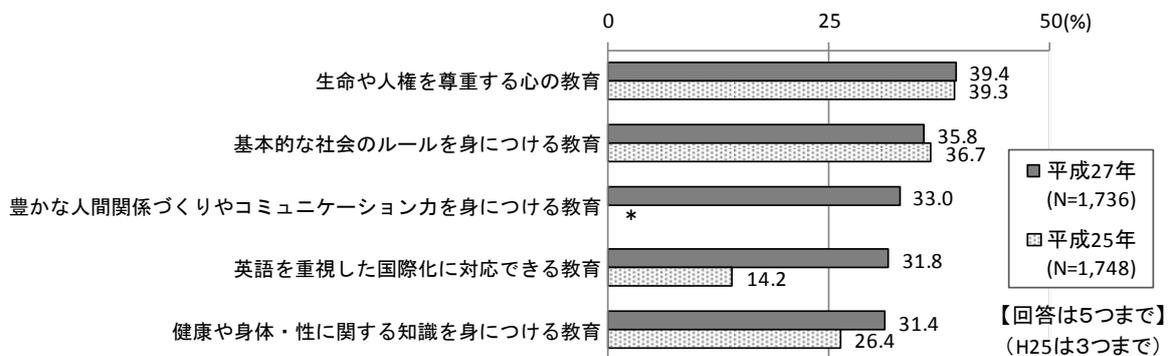
	標本数(票)	小学校で特に力を入れてほしいこと (%)																				
		日常生活に必要な基礎知識を身につける教育	理科や算数・数学などの科学教育	英語を重視した国際化に対応できる教育	ICT(タブレットやパソコンなど)の活用に関する教育	進学や就職などの将来の進路の準備に関する教育	障害のある子どもの状態に応じたきめ細かな教育	健康に生活するための基礎体力を身につける教育	健康や身体性に関する知識を身につける教育	食生活や食に関する知識を身につける教育	生命や人権を尊重する心の教育	基本的な社会のルールを身につける教育	ボランティア活動など社会奉仕の精神を養う教育	働くことの意義を理解し、正しい勤労観を養う教育	地域の歴史や文化への興味や理解を深める教育	スマートフォンなどの利用マナーに関する教育	災害などから自らの身を守る防災に関する教育	犯罪や事故から身を守る安全に関する教育	自転車の安全な乗り方に関する教育	豊かな人間関係づくりやコミュニケーション力を身につける教育	その他	無回答
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,736)	60.0 (1,042)	10.3 (178)	22.1 (384)	9.7 (169)	5.9 (103)	20.2 (350)	40.1 (697)	12.2 (211)	20.2 (351)	44.1 (766)	44.0 (764)	6.9 (120)	7.7 (134)	6.2 (108)	12.7 (220)	15.2 (264)	31.6 (548)	27.2 (472)	27.4 (476)	0.9 (15)	7.1 (124)
性別																						
男性	792	58.0	12.4	25.4	11.5	8.1	18.1	42.7	12.4	17.0	40.9	43.8	7.2	6.8	6.2	15.4	13.5	26.8	26.4	30.1	1.1	7.1
女性	944	61.8	8.5	19.4	8.3	4.1	21.9	38.0	12.0	22.9	46.8	44.2	6.7	8.5	6.3	10.4	16.6	35.6	27.9	25.2	0.6	7.2
年齢別																						
20歳代	206	57.8	11.2	21.8	11.2	8.7	20.9	42.2	15.0	14.6	45.1	40.8	5.8	6.3	8.3	17.5	11.7	31.1	21.4	32.5	1.0	5.3
30歳代	279	56.3	12.2	26.9	11.1	9.7	21.5	37.6	11.1	20.8	47.0	44.8	3.9	9.7	7.9	13.6	16.8	38.0	25.1	33.3	1.8	3.2
40歳代	298	57.7	10.1	22.8	12.4	6.0	20.5	37.9	9.7	16.1	47.0	48.7	6.4	5.4	4.0	16.1	16.8	31.5	31.2	28.5	0.7	6.4
50歳代	331	68.0	8.2	16.6	8.8	5.1	22.1	41.7	10.6	23.0	47.7	49.5	10.6	6.6	6.6	13.9	14.2	32.3	28.1	26.9	0.3	4.5
60歳代	399	59.6	7.8	23.1	8.3	3.5	16.8	42.4	14.8	23.6	41.9	42.9	6.3	8.0	6.3	8.8	14.3	30.3	29.1	22.3	1.0	9.3
70歳以上	223	58.7	14.8	22.0	7.2	4.0	20.6	38.1	11.7	20.2	34.5	33.6	8.1	10.8	4.5	7.6	17.5	25.1	25.1	23.8	0.4	14.8
子どもの状況別																						
世帯の中に就学前の子どもがいる	212	59.4	11.3	30.7	9.9	7.1	21.2	42.0	13.7	15.6	50.9	46.7	4.7	12.7	5.7	6.6	20.8	42.0	28.8	32.5	1.4	2.8
世帯の中に小学生がいる	199	58.8	16.6	30.7	11.1	5.0	15.6	40.2	9.5	20.1	48.2	42.7	6.5	12.1	6.5	12.1	18.1	38.7	23.6	35.2	1.0	2.5
世帯の中に中学生がいる	132	53.0	12.1	22.7	13.6	6.1	19.7	37.1	7.6	16.7	43.9	38.6	7.6	9.1	6.8	18.9	12.1	31.1	23.5	29.5	1.5	11.4
世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	174	58.0	10.3	26.4	12.1	9.2	19.0	33.9	10.9	19.5	41.4	44.3	7.5	5.7	3.4	20.7	14.9	35.1	27.0	29.3	-	6.3
上記にあてはまる人はいない	1,192	60.2	9.7	19.3	9.3	5.5	20.6	40.3	12.2	21.5	43.5	43.0	7.0	6.7	6.6	12.3	14.3	28.5	27.8	26.2	0.9	8.2
無回答	17	58.8	-	11.8	5.9	-	23.5	35.3	5.9	11.8	41.2	41.2	11.8	11.8	5.9	5.9	17.6	47.1	17.6	23.5	-	11.8

中学校



■ 図2-2 中学校で特に力を入れてほしいこと(前回調査比較)上位5項目

◇ 上位2項目は前回と変わらないが、3位は新しい選択肢である「豊かな人間関係づくりやコミュニケーション力を身につける教育」となっている。また、4位の「英語を重視した国際化に対応できる教育」が前回より 17.6 ポイント増加している。



* は平成 25 年調査にはない項目。

◆属性別特徴 **中学校**

【性別】女性は「健康や身体・性に関する知識を身につける教育」「生命や人権を尊重する心の教育」で男性より高くなっている。

【年齢別】

・40・50 歳代では「生命や人権を尊重する心の教育」が4割台と高く、また 40 歳代では「スマートフォンなどの利用マナーに関する教育」も3割半ばと他の年齢層より高くなっている。

・「進学や就職などの将来の進路のことを重視した教育」は若い年齢層ほど高く、20 歳代では 39.3%と最も高くなっている。

・70 歳以上では「英語を重視した国際化に対応できる教育」が最も高く、年齢別に見ても最も高い。

【子どもの状況別】

・就学前の子どもがいる世帯では「進学や就職などの将来の進路のことを重視した教育」「健康や身体・性に関する知識を身につける教育」「豊かなコミュニケーション力を身につける教育」、小学生がいる世帯では「生命や人権を尊重する心の教育」「スマートフォンなどの利用マナーに関する教育」がそれぞれ高くなっている。

・中学生以上の子どもがいる世帯では「犯罪や事故から身を守る安全に関する教育」「日常生活に必要な基礎知識を確実に身につける教育」がやや高くなっている。

	標本数(票)	中学校で特に力を入れてほしいこと (%)																					
		実日常生活に必要な基礎知識を確実に身につける教育	理科や算数・数学などの科学教育	英語を重視した国際化に対応できる教育	ICT(タブレットやパソコンなど)の活用に関する教育	進学や就職などの将来の進路のことを重視した教育	障害のある子どもの状態に応じたきめ細かな教育	健康に生活するための基礎体力を身につける教育	健康や身体・性に関する知識を身につける教育	食生活や食に関する知識を身につける教育	生命や人権を尊重する心の教育	基本的な社会のルールを身につける教育	の精神を養う教育	ボランティア活動など社会奉仕の意義を理解し、正しい勤労観を養う教育	働くことの意義を理解し、正しい勤労観を養う教育	地域の歴史や文化への興味や理解を深める教育	スマートフォンなどの利用マナーに関する教育	災害などから自らの身を守る防災に関する教育	犯罪や事故から身を守る安全に関する教育	自転車の安全な乗り方に関する教育	豊かな人間関係づくりやコミュニケーション力を身につける教育	その他	無回答
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,736)	27.2 (473)	10.2 (177)	31.8 (552)	17.4 (302)	28.8 (500)	11.1 (193)	14.0 (243)	31.4 (545)	11.0 (191)	39.4 (684)	35.8 (622)	13.5 (235)	23.0 (400)	6.1 (106)	26.0 (451)	10.6 (184)	25.1 (436)	14.6 (253)	33.0 (573)	0.7 (13)	10.1 (175)	
性別																							
男性	792	29.2	11.9	30.4	17.9	28.0	10.0	16.8	27.7	9.0	35.0	37.8	14.4	23.0	6.6	25.5	11.0	23.9	16.2	34.0	0.9	10.6	
女性	944	25.6	8.8	32.9	16.9	29.4	12.1	11.7	34.5	12.7	43.1	34.2	12.8	23.1	5.7	26.4	10.3	26.2	13.2	32.2	0.6	9.6	
年齢別																							
20歳代	206	23.3	10.2	31.1	18.9	39.3	10.2	12.1	35.4	6.3	32.0	37.4	10.2	26.7	5.3	30.6	9.2	21.8	11.7	36.9	1.0	7.8	
30歳代	279	25.4	12.5	33.3	16.8	33.3	12.5	14.0	30.1	10.8	38.4	38.7	14.3	25.1	6.5	30.1	10.4	26.2	11.5	34.8	1.8	6.8	
40歳代	298	20.5	9.7	29.5	21.8	31.9	12.1	12.1	34.6	7.4	44.6	34.9	12.4	22.1	4.7	36.9	12.4	27.2	12.4	33.9	1.0	8.4	
50歳代	331	29.3	8.8	31.7	15.7	29.0	13.3	13.6	29.0	13.3	48.3	36.3	17.2	24.8	5.1	26.0	11.2	31.4	15.4	35.0	0.3	6.0	
60歳代	399	29.1	8.5	29.8	17.8	22.6	8.0	14.8	32.6	13.0	37.8	36.3	13.8	19.8	6.8	20.1	9.0	22.1	18.3	31.8	0.3	14.0	
70歳以上	223	35.9	13.0	37.2	12.6	20.2	11.2	17.5	26.5	13.5	30.0	30.5	11.2	21.5	8.5	12.6	11.7	20.2	16.1	25.1	0.4	17.5	
子どもの状況別																							
世帯の中に就学前の子どもがいる	212	20.8	11.3	38.7	19.8	36.3	10.8	11.8	35.8	7.5	40.1	37.3	15.6	29.2	5.7	30.2	14.6	25.5	8.5	38.7	0.9	6.1	
世帯の中に小学生がいる	199	19.6	14.6	38.2	21.6	32.2	10.1	11.1	32.2	6.0	44.7	33.7	11.6	27.1	3.5	37.7	9.5	22.1	9.0	33.2	1.0	10.1	
世帯の中に中学生がいる	132	29.5	12.9	34.1	21.2	32.6	9.1	13.6	28.8	7.6	42.4	30.3	15.2	23.5	6.8	33.3	12.1	27.3	7.6	34.8	1.5	9.8	
世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	174	26.4	16.7	36.2	18.4	33.9	11.5	16.1	28.2	8.0	36.8	37.4	13.8	20.1	2.9	31.6	9.2	32.8	10.9	28.2	-	7.5	
上記にあてはまる人はいない	1,192	28.9	8.8	29.9	15.9	26.1	11.7	14.2	30.9	12.6	38.8	36.2	13.1	22.0	6.6	23.2	10.2	23.3	17.0	32.2	0.8	11.4	
無回答	17	23.5	11.8	29.4	23.5	11.8	5.9	23.5	29.4	-	29.4	17.6	5.9	29.4	5.9	23.5	5.9	29.4	11.8	23.5	-	17.6	

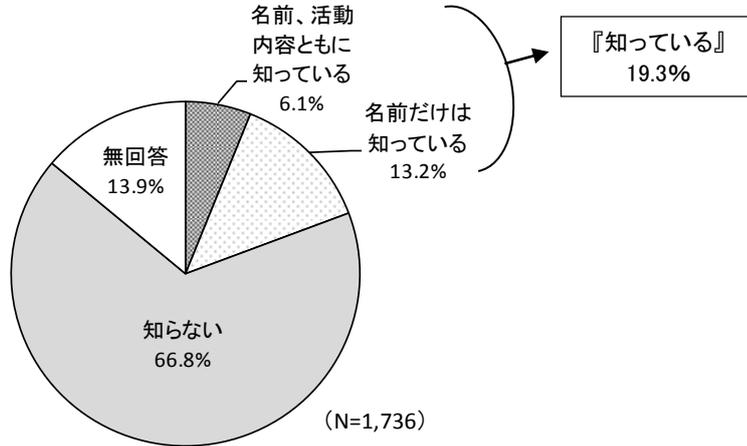
■図2-3 小・中学校で特に力を入れてほしいこと(上位 10 項目)の比較

順位	〈小学校〉	(%)	順位	〈中学校〉	(%)
1	日常生活に必要な基礎知識を確実に身につける教育	60.0	1	生命や人権を尊重する心の教育	39.4
2	生命や人権を尊重する心の教育	44.1	2	基本的な社会のルールを身につける教育	35.8
3	基本的な社会のルールを身につける教育	44.0	3	豊かな人間関係づくりやコミュニケーション力を身につける教育	33.0
4	健康に生活するための基礎体力を身につける教育	40.1	4	英語を重視した国際化に対応できる教育	31.8
5	犯罪や事故から身を守る安全に関する教育	31.6	5	健康や身体・性に関する知識を身につける教育	31.4
6	豊かな人間関係づくりやコミュニケーション力を身につける教育	27.4	6	進学や就職などの将来の進路のことを重視した教育	28.8
7	自転車の安全な乗り方に関する教育	27.2	7	日常生活に必要な基礎知識を確実に身につける教育	27.2
8	英語を重視した国際化に対応できる教育	22.1	8	スマートフォンなどの利用マナーに関する教育	26.0
9	食生活や食に関する知識を身につける教育	20.2	9	犯罪や事故から身を守る安全に関する教育	25.1
9	障害のある子どもの状態に応じたきめ細かな教育	20.2	10	働くことの意義を理解し、正しい勤労観を養う教育	23.0

(2) 地域学校協議会の認知

地域学校協議会を知っている人は約2割。小・中学生がいる世帯では3割を超えている。

問 30 久留米市の全ての小・中学校では、家庭・地域と学校の代表が集まって子どものよりよい成長のために、それぞれができることを話し合う地域学校協議会を設けています。あなたは、この「地域学校協議会」という組織を知っていますか。(あてはまる番号に1つだけ○印)



◆属性別特徴

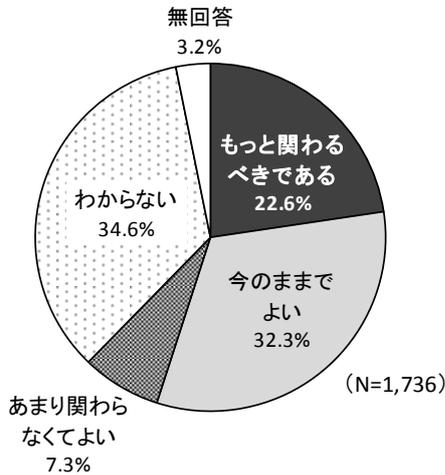
- 【性別】 女性では『知っている』が男性よりやや高くなっている。
- 【年齢別】 40・50 歳代では『知っている』が2割を超え他の世帯よりやや高い。
- 【子どもの状況別】 小学生・中学生がいる世帯で『知っている』が3割台と他の世帯より高い。
- 【自治会加入の有無別】 加入している人では『知っている』が加入していない人より 10 ポイント以上高い。

	標本数 (票)	地域学校協議会の認知 (%)				
		名前、活動内容ともに知っている	名前、活動内容ともに知らない	名前、活動内容ともに知らない	無回答	『知っている』
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,736)	6.1 (106)	13.2 (229)	66.8 (1,159)	13.9 (242)	19.3 (335)
性別						
男性	792	5.2	11.9	69.4	13.5	17.1
女性	944	6.9	14.3	64.5	14.3	21.2
年齢別						
20歳代	206	2.4	11.2	76.2	10.2	13.6
30歳代	279	5.0	11.1	73.5	10.4	16.1
40歳代	298	8.1	15.8	65.8	10.4	23.9
50歳代	331	9.7	15.4	62.5	12.4	25.1
60歳代	399	5.0	12.3	64.7	18.0	17.3
70歳以上	223	4.9	12.6	61.0	21.5	17.5
子どもの状況別						
世帯の中に就学前の子どもがいる	212	4.7	14.2	71.2	9.9	18.9
世帯の中に小学生がいる	199	12.6	19.1	58.8	9.5	31.7
世帯の中に中学生がいる	132	12.1	22.0	52.3	13.6	34.1
世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	174	13.2	13.8	60.9	12.1	27.0
上記にあてはまる人はいない	1,192	4.8	12.2	67.7	15.3	17.0
無回答	17	5.9	11.8	70.6	11.8	17.7
自治会の加入の有無別						
加入している	1,293	7.2	14.8	63.9	14.2	22.0
加入していない	257	2.7	8.2	75.1	14.0	10.9
わからない	169	3.0	8.9	75.1	13.0	11.9
無回答	17	5.9	11.8	76.5	5.9	17.7

(3) 保護者や地域住民の学校に対する関わり方の程度

学校に対する関わり方は「今のままでよい」と思う人が 32.3%。地域学校協議会の名前、活動内容とも知っている人では、「もっと関わるべきである」が 53.8%。

問 31 あなたは、保護者や地域の住民の学校に対する関わり方についてどう思いますか。
(あてはまる番号に1つだけ○印)



◆属性別特徴

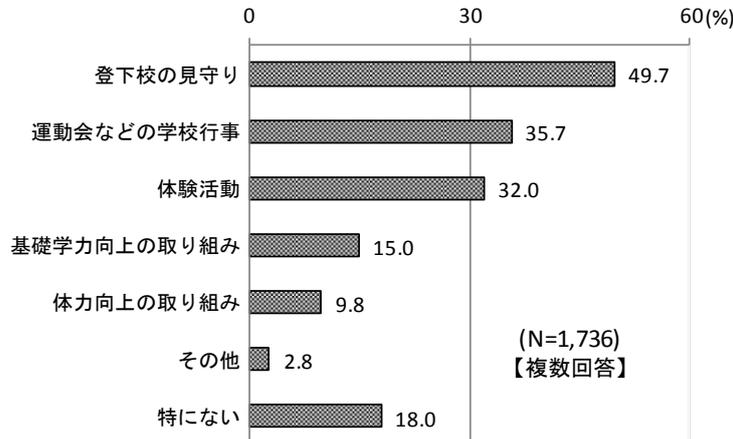
- 【年齢別】 40・50 歳代では「今のままでよい」が3割半ばで他の年齢層より高い。また、20 歳代では「わからない」が4割を超え高い。
- 【子どもの状況別】 小学生がいる世帯で「今のままでよい」は約5割、中学生以上の子どもがいる世帯でも4割半ばと高い。就学前の子どもがいる世帯と子どもがいない世帯では「わからない」が4割弱で最も高い。
- 【地域学校協議会の認知別】 活動内容も知っている人は「もっと関わるべきである」が 53.8%と高い。また、名前だけ知っている人でも 27.5%と認知度が高い人ほど「もっと関わるべきである」が高い。

	標本数 (票)	保護者や地域住民の学校に対する関わり方の程度 (%)				
		もっと関わるべきである	今のままでよい	あまり関わらなくてよい	わからない	無回答
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,736)	22.6 (393)	32.3 (561)	7.3 (127)	34.6 (600)	3.2 (55)
性別						
男性	792	23.6	30.6	10.0	33.7	2.1
女性	944	21.8	33.8	5.1	35.3	4.0
年齢別						
20歳代	206	19.9	25.7	9.2	43.2	1.9
30歳代	279	20.8	30.8	7.2	38.7	2.5
40歳代	298	22.1	38.3	9.7	28.2	1.7
50歳代	331	26.6	35.3	5.7	29.3	3.0
60歳代	399	22.6	29.8	6.3	37.6	3.8
70歳以上	223	22.4	32.3	6.7	32.3	6.3
子どもの状況別						
世帯の中に就学前の子どもがいる	212	22.2	32.1	6.1	36.8	2.8
世帯の中に小学生がいる	199	27.6	49.7	4.5	17.1	1.0
世帯の中に中学生がいる	132	31.8	44.7	3.8	17.4	2.3
世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	174	24.7	44.3	5.7	23.6	1.7
上記にあてはまる人はいない	1,192	21.7	28.3	7.9	38.5	3.6
無回答	17	11.8	41.2	23.5	23.5	-
地域学校協議会の認知別						
名前、活動内容とも知っている	106	53.8	35.8	4.7	5.7	-
名前だけは知っている	229	27.5	45.0	4.8	20.1	2.6
知らない	1,159	19.7	29.1	8.0	41.3	1.9
無回答	242	18.6	34.3	7.4	28.5	11.2

(4) 保護者や地域住民の学校に対する関わり方

保護者や地域住民が学校に対して関わった方がよいと思うことは「登下校の見守り」が49.7%で1位。

問 32 あなたは、保護者や地域の住民は、学校に対して具体的にどのような内容で関わった方がよいと思いますか。(あてはまる番号にいくつでも○印)



◆属性別特徴

【性別】男女とも「登下校の見守り」が最も高く、女性では5割を超えている。女性は「体験活動」「登下校の見守り」で男性より高く、男性は「体力向上の取り組み」「運動会などの学校行事」で女性より高い。

【年齢別】20・30歳代は「運動会などの学校行事」、50歳代は「体験活動」がそれぞれ4割を超えている。また、60歳代以上では「体力向上の取り組み」が他の年齢層より高くなっている。

【子どもの状況別】

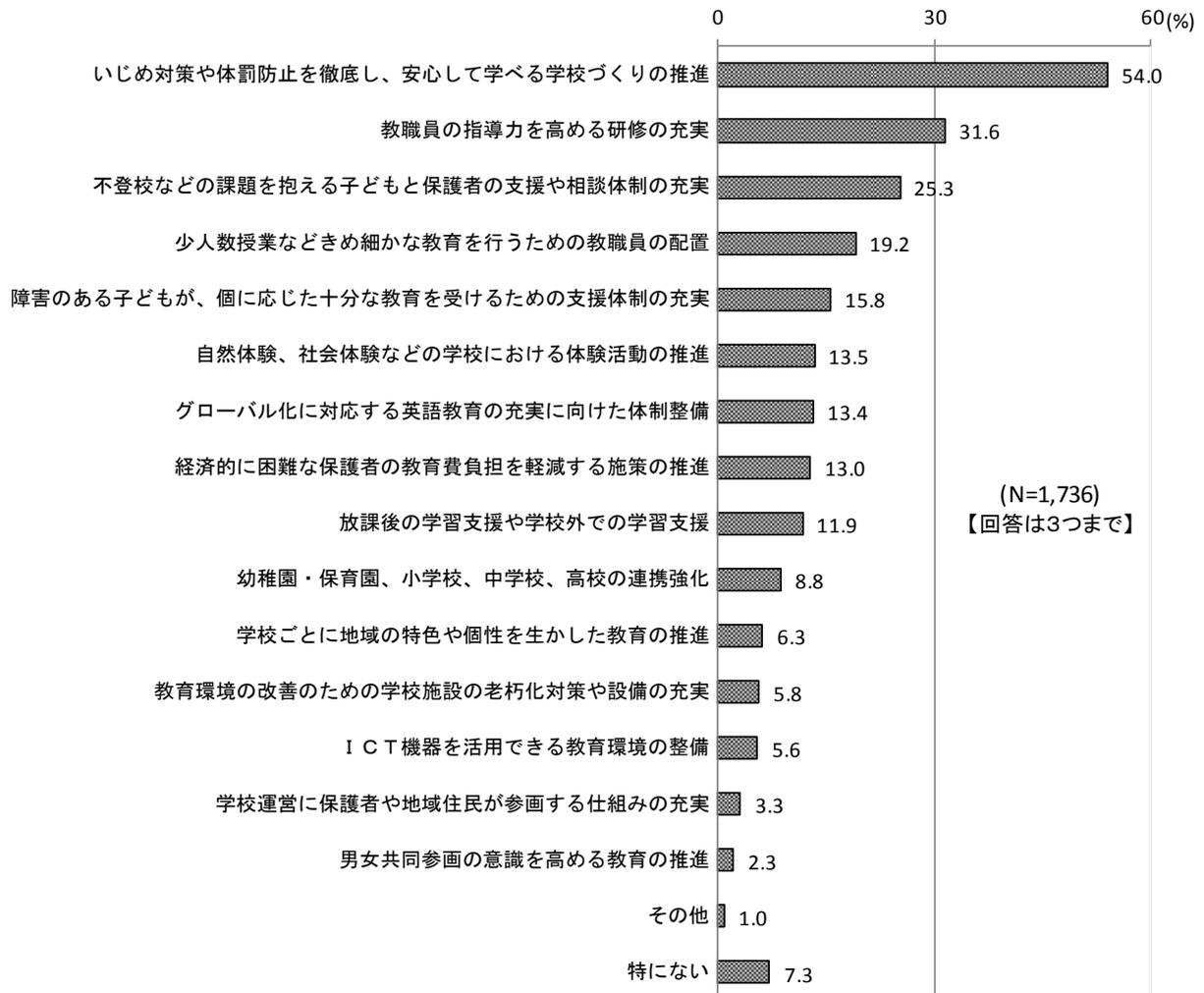
- ・中学生以下の子どもがいる世帯は「登下校の見守り」が6割前後で他の世帯より高い。
- ・中学生がいる世帯では「基礎学力の向上の取り組み」が他の世帯より高くなっている。

	標本数 (票)	保護者や地域住民の学校に対する関わり方 (%)							
		の基礎 取組 り学 組力 み向 上	体 験 活 動	り登 下 校 の 見 守 り	り体 組力 向 上 の 取 組 み	学運 校動 行会 事な どの の	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,736)	15.0 (260)	32.0 (556)	49.7 (862)	9.8 (170)	35.7 (619)	2.8 (48)	18.0 (313)	4.0 (70)
性別									
男性	792	16.0	29.5	44.6	11.7	37.1	3.4	20.5	3.3
女性	944	14.1	34.1	53.9	8.2	34.4	2.2	16.0	4.7
年齢別									
20歳代	206	9.7	30.6	52.4	6.3	43.7	2.4	21.4	1.5
30歳代	279	11.1	30.5	50.5	6.1	44.1	1.8	20.4	2.9
40歳代	298	11.7	34.2	52.3	8.7	34.9	4.7	17.8	3.0
50歳代	331	13.6	40.2	50.8	8.2	36.9	2.7	15.1	3.6
60歳代	399	18.8	28.3	46.6	13.3	32.1	1.8	19.0	5.8
70歳以上	223	24.2	26.9	46.2	15.2	23.3	3.6	14.8	6.7
子どもの状況別									
世帯の中に就学前の子どもがいる	212	12.3	36.3	61.8	8.5	42.9	2.4	14.6	1.9
世帯の中に小学生がいる	199	15.1	37.2	57.8	8.5	45.2	4.0	12.6	2.0
世帯の中に中学生がいる	132	20.5	32.6	61.4	12.1	39.4	5.3	9.1	3.8
世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	174	16.1	31.0	51.1	9.8	44.8	5.7	12.6	1.7
上記にあてはまる人はいない	1,192	14.8	31.0	46.1	10.3	31.8	2.1	20.7	4.8
無回答	17	11.8	23.5	29.4	-	29.4	17.6	29.4	-

(5) 教育行政に期待すること

「いじめ対策や体罰防止を徹底し、安心して学べる学校づくりの推進」が 54.0%で 1 位。
中学生がいる世帯では「教職員の指導力を高める研修の充実」が約 4 割で高い。

問 33 あなたは、久留米市の教育行政に関して特にどのようなことを期待しますか。次の中から 3 つまで（2 つ以内でもかまいません）選び、番号に○印をつけてください。



◆属性別特徴

【性別】女性は「少人数授業などきめ細かな教育を行うための教職員の配置」「いじめ対策や体罰防止を徹底し、安心して学べる学校づくりの推進」などで男性より高く、男性は「ICT機器を活用できる教育環境の整備」「経済的に困難な保護者の教育費負担を軽減する施策の推進」で女性より高い。

【年齢別】30歳代では「自然体験、社会体験などの学校における体験活動の推進」、40・50歳代では「少人数授業などきめ細かな教育を行うための教職員の配置」が他の年齢層より高い。

【子どもの状況別】

- ・就学前・小学生がいる世帯では「いじめ対策や体罰防止を徹底し、安心して学べる学校づくりの推進」が6割弱と高い。
- ・中学生がいる世帯では「教職員の指導力を高める研修の充実」「少人数授業などきめ細かな教育を行うための教職員の配置」「教育環境の改善のための学校施設の老朽化対策や設備の充実」が他の世帯より高くなっている。

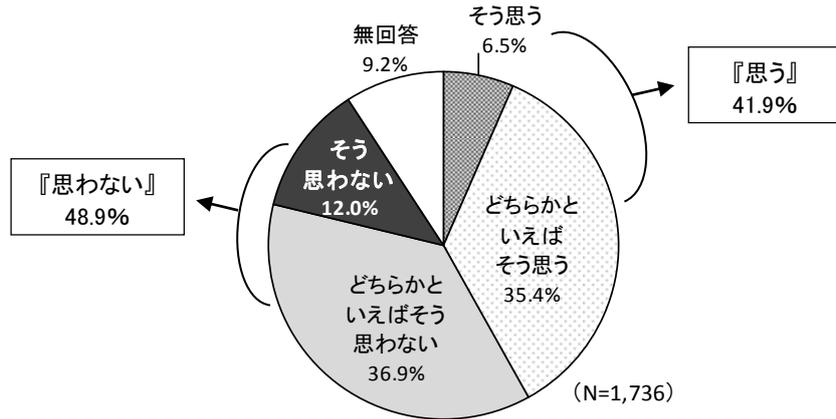
	標本数(票)	教育行政に期待すること (%)																				
		放課後の学習支援	充実	教職員の指導力を高める研修の充実	少人数授業などきめ細かな教育を行うための教職員の配置	十分な教育を受けるための支援体制の充実	障害のある子どもが、個に応じた十分な教育を受けられるための支援体制の整備	ICT機器を活用できる教育環境の整備	グローバル化に対応する英語教育の充実	不登校などの課題を抱える子どもと保護者の支援や相談体制の充実	安心して学べる学校づくりの推進	いじめ対策や体罰防止を徹底し、自然体験、社会体験などの学校における体験活動の推進	生かした教育の推進	学校ごとに地域の特徴や個性を生かした教育の推進	参画する仕組みの充実	学校運営に保護者や地域住民が参画する仕組みの充実	幼稚園・保育園、小学校、中学校、高校の連携強化	教育環境の改善のための学校施設の老朽化対策や設備の充実	経済的に困難な保護者の教育費負担を軽減する施策の推進	男女共同参画の意識を高める教育の推進	その他	特にな
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,736)	11.9 (207)	31.6 (548)	19.2 (333)	15.8 (275)	5.6 (98)	13.4 (232)	25.3 (440)	54.0 (937)	13.5 (234)	6.3 (109)	3.3 (57)	8.8 (153)	5.8 (100)	13.0 (225)	2.3 (40)	1.0 (17)	7.3 (126)	3.6 (63)			
性別																						
男性	792	11.4	33.0	15.4	14.0	7.7	14.9	23.7	51.8	12.6	7.3	3.5	9.1	5.2	15.2	2.5	1.4	8.7	2.9			
女性	944	12.4	30.4	22.4	17.4	3.9	12.1	26.7	55.8	14.2	5.4	3.1	8.6	6.3	11.1	2.1	0.6	6.0	4.2			
年齢別																						
20歳代	206	10.7	24.3	14.6	20.4	5.8	17.0	23.8	50.0	15.0	7.3	1.5	11.7	7.3	15.0	1.9	1.9	10.2	1.5			
30歳代	279	15.1	26.9	14.7	13.6	6.8	19.0	18.6	49.5	19.7	8.2	3.2	13.3	5.4	12.5	1.4	1.4	7.2	3.6			
40歳代	298	12.1	32.9	25.2	14.1	7.7	14.1	24.5	52.3	14.1	5.4	3.0	6.7	8.1	13.4	1.7	0.7	7.0	2.0			
50歳代	331	10.9	36.9	27.8	17.5	5.7	9.1	29.9	55.9	11.2	6.0	4.5	9.4	6.3	11.2	3.0	1.2	4.2	2.4			
60歳代	399	12.0	32.8	17.5	17.5	4.3	12.0	27.1	56.9	11.5	5.5	3.0	8.8	4.0	11.8	3.0	0.3	7.0	4.5			
70歳以上	223	10.3	32.3	11.2	11.2	3.6	10.8	26.5	57.4	10.3	5.8	4.0	2.7	4.0	15.7	2.2	0.9	9.9	8.1			
子どもの状況別																						
世帯の中に就学前の子どもがいる	212	16.0	30.2	17.0	13.7	6.1	20.8	23.1	58.0	19.3	8.0	1.9	13.2	7.1	10.4	1.4	1.9	4.2	2.8			
世帯の中に小学生がいる	199	10.6	33.2	28.6	9.0	6.5	19.6	16.6	57.8	16.6	9.0	2.0	14.6	9.5	8.0	0.5	1.5	4.5	2.0			
世帯の中に中学生がいる	132	11.4	38.6	31.1	12.9	5.3	14.4	23.5	43.9	15.2	6.8	2.3	11.4	12.1	9.8	2.3	3.0	4.5	2.3			
世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	174	15.5	33.3	29.3	12.1	6.9	16.1	20.1	47.1	12.1	4.6	4.0	12.6	8.0	12.6	1.7	1.1	5.7	1.7			
上記にあてはまる人はいない	1,192	10.9	31.0	16.2	17.6	5.7	11.4	27.3	53.7	12.3	6.2	3.5	7.2	4.6	13.9	2.6	0.8	8.4	4.3			
無回答	17	5.9	47.1	11.8	11.8	-	17.6	11.8	64.7	5.9	-	5.9	5.9	-	17.6	5.9	-	11.8	-			

2-5 子どもの文化芸術活動や読書

(1) 子どもたちが文化芸術に触れる機会

子どもたちが文化芸術に触れる機会が十分にあると思う人は 41.9%。小学生がいる世帯では十分にあると思う人は 52.2%と高い。

問 34 あなたは、久留米市は、子どもたちが、音楽や美術、演劇などの文化芸術を鑑賞したり体験するなど、文化芸術に触れる機会が十分にあると思いますか。(あてはまる番号に1つだけ○印)



◆属性別特徴

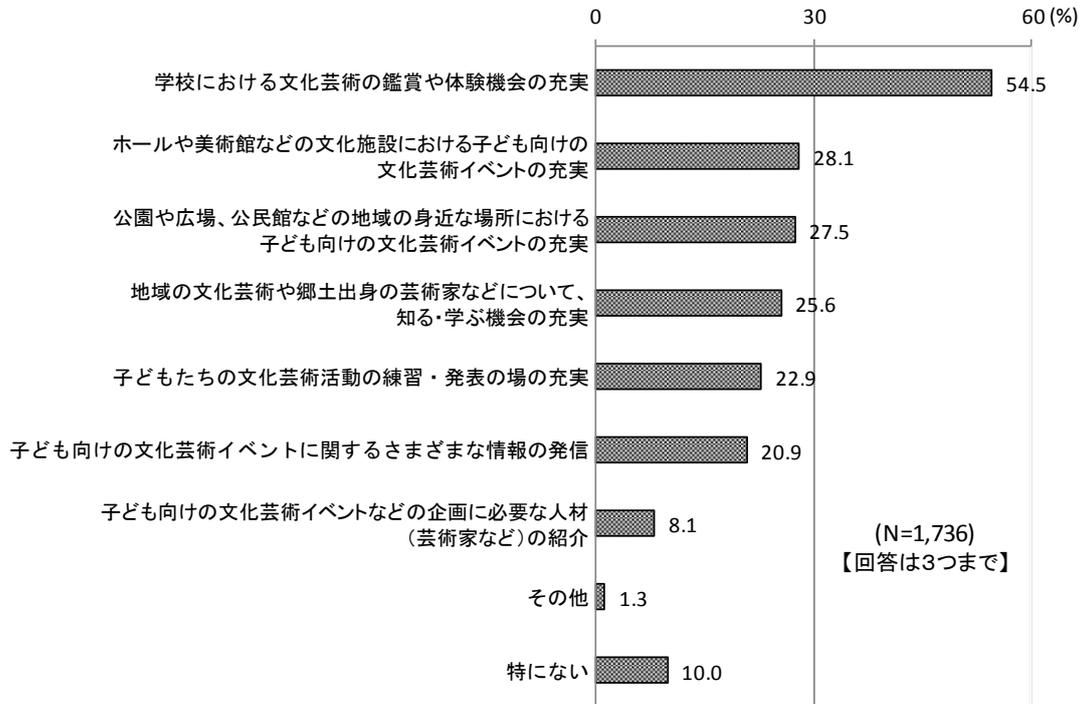
- 【年齢別】 40歳代と70歳以上では『思う』が『思わない』より高く、40歳代では『思う』が唯一5割を超えている。
- 【ブロック別】 中央部、西部Aで『思う』が『思わない』をやや上回っている。中央部、中央東部では『思う』割合が他の地域と比べてやや高い。
- 【子どもの状況別】 小学生がいる世帯では『思う』が5割を超えて高く、唯一『思う』が『思わない』より高い。
- 【文化芸術活動の状況別】 文化芸術活動を行っている人では『思う』が行っていない人より7.8ポイント高い。

	標本数 (票)	子どもたちが文化芸術に触れる機会は十分にあるか (%)						
		そう思う	えどばち そうか 思う	なえど ばち そうか 思わ ない	そう 思わ ない	無 回 答	『 思 う 』	『 思 わ な い 』
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,736)	6.5 (113)	35.4 (615)	36.9 (640)	12.0 (209)	9.2 (159)	41.9 (728)	48.9 (849)
性別								
男性	792	7.6	35.1	34.1	15.3	8.0	42.7	49.4
女性	944	5.6	35.7	39.2	9.3	10.2	41.3	48.5
年齢別								
20歳代	206	9.2	35.9	34.0	17.0	3.9	45.1	51.0
30歳代	279	6.5	36.9	34.4	16.5	5.7	43.4	50.9
40歳代	298	7.0	43.0	34.2	10.7	5.0	50.0	44.9
50歳代	331	5.1	34.7	40.8	11.5	7.9	39.8	52.3
60歳代	399	5.0	30.1	40.6	11.3	13.0	35.1	51.9
70歳以上	223	8.1	33.6	33.6	5.8	18.8	41.7	39.4
ブロック別								
東部A	130	8.5	31.5	39.2	9.2	11.5	40.0	48.4
東部B(田主丸)	102	4.9	33.3	33.3	15.7	12.7	38.2	49.0
北部A	150	8.7	35.3	38.7	10.0	7.3	44.0	48.7
北部B(北野)	112	5.4	35.7	34.8	14.3	9.8	41.1	49.1
中央東部	206	8.7	36.9	37.4	10.7	6.3	45.6	48.1
南東部	184	5.4	34.2	35.9	16.3	8.2	39.6	52.2
中央部	235	8.1	39.6	36.2	9.4	6.8	47.7	45.6
中央南部	299	5.7	33.4	39.5	11.4	10.0	39.1	50.9
南西部	150	4.7	36.0	37.3	13.3	8.7	40.7	50.6
西部A(城島)	75	5.3	38.7	32.0	10.7	13.3	44.0	42.7
西部B(三瀬)	93	3.2	34.4	34.4	15.1	12.9	37.6	49.5
子どもの状況別								
世帯の中に就学前の子どもがいる	212	7.1	34.4	39.2	12.7	6.6	41.5	51.9
世帯の中に小学生がいる	199	9.5	42.7	38.2	6.5	3.0	52.2	44.7
世帯の中に中学生がいる	132	6.1	37.1	42.4	9.1	5.3	43.2	51.5
世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	174	6.9	39.7	38.5	11.5	3.4	46.6	50.0
上記にあてはまる人はいない	1,192	5.9	33.9	36.8	12.2	11.2	39.8	49.0
無回答	17	17.6	29.4	23.5	29.4	-	47.0	52.9
文化芸術活動状況								
行っている	563	9.9	37.3	36.6	8.7	7.5	47.2	45.3
行っていない	1,154	4.9	34.5	37.1	13.9	9.6	39.4	51.0
無回答	19	-	36.8	31.6	-	31.6	36.8	31.6

(2) 子どもたちが文化芸術に親しむために必要なこと

「学校における文化芸術の鑑賞や体験機会の充実」が 54.5%で 1 位。

問 35 今後、子どもたちが文化芸術により親しんでいくために、特にどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで（2つ以内でもかまいません）選び、番号に○印をつけてください。



◆属性別特徴

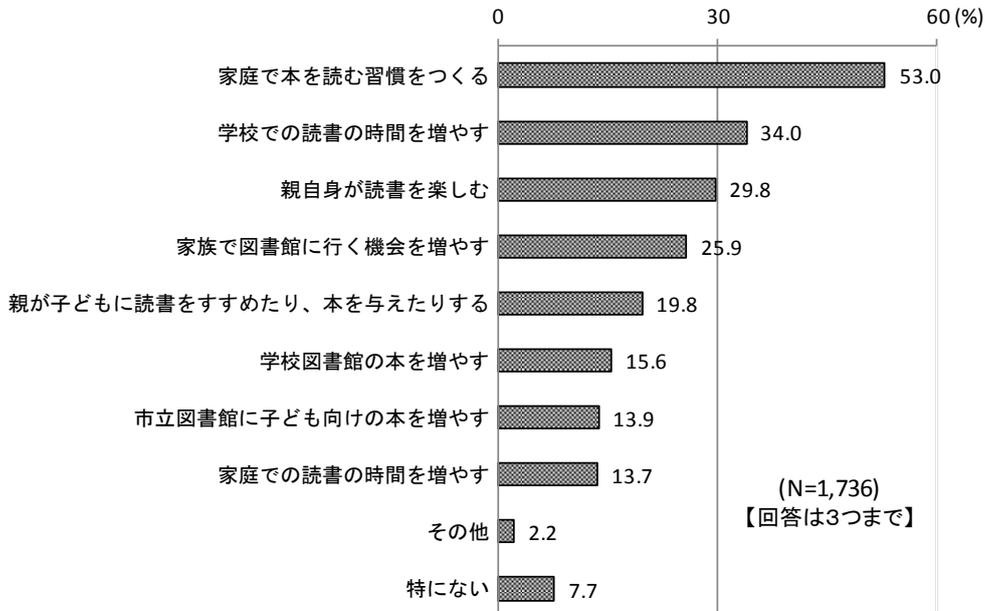
- 【性別】 女性は「学校における文化芸術の鑑賞や体験機会の充実」「ホールや美術館など文化施設における子ども向けの文化芸術イベントの充実」で男性より高い。
- 【年齢別】 20歳代では「公園や広場、公民館などの地域の身近な場所における子ども向けの文化芸術イベントの充実」が4割弱、40歳代は「学校における文化芸術の鑑賞や体験機会の充実」が6割を超えており、他の年齢層より高くなっている。
- 【ブロック別】 南西部は「学校における文化芸術の鑑賞や体験機会の充実」が約6割、中央東部は「地域の文化芸術や郷土出身の芸術家などについて、知る・学ぶ機会の充実」が3割半ば、南東部では「子ども向けの文化芸術イベントに関するさまざまな情報の発信」が2割半ばでそれぞれ他の地域より高くなっている。
- 【子どもの状況別】 就学前の子どもがいる世帯では「子ども向けの文化芸術イベントに関するさまざまな情報の発信」が他の世帯よりやや高い。小学生がいる世帯では「学校における文化芸術の鑑賞や体験機会の充実」が約7割、「ホールや美術館などの文化施設における子ども向けの文化芸術イベントの充実」が3割半ばと他の世帯より高い。
- 【子どもの文化芸術への接触機会別】 十分にあると思う人は「学校における文化芸術の鑑賞や体験機会の充実」が61.0%で最も高く、思わない人より6.6ポイント高い。

		標本数(票)	子どもたちが文化芸術に親しんでいくために必要なこと(%)									
			学校における文化芸術の鑑賞や体験機会の充実	地域の文化芸術や郷土出身の芸術家などについて、知る・学ぶ機会の充実	子どもたちの文化芸術活動の練習・発表の場の充実	公園や広場、公民館などの地域の身近な場所における子ども向けの文化芸術イベントの充実	ホールや美術館などの文化施設における子ども向けの文化芸術イベントの充実	子ども向けの文化芸術のさまざまな情報発信	子ども向けの文化芸術のさまざまな情報発信	子ども向けの文化芸術のさまざまな情報発信	子ども向けの文化芸術のさまざまな情報発信	その他
全体 (カッコ内は標本数)		100.0 (1,736)	54.5 (946)	25.6 (444)	22.9 (398)	27.5 (477)	28.1 (487)	20.9 (362)	8.1 (140)	1.3 (23)	10.0 (174)	4.7 (81)
性別	男性	792	52.0	26.8	23.5	28.5	25.9	21.7	8.8	1.6	12.1	3.9
	女性	944	56.6	24.6	22.5	26.6	29.9	20.1	7.4	1.1	8.3	5.3
年齢別	20歳代	206	56.3	19.9	24.3	37.9	27.2	20.9	5.8	1.0	12.6	1.5
	30歳代	279	57.3	22.2	21.5	28.7	31.9	24.0	8.2	1.8	9.0	3.2
	40歳代	298	61.1	23.5	19.8	26.8	28.2	20.8	7.0	1.7	9.1	2.7
	50歳代	331	58.6	29.6	21.5	26.0	32.6	22.1	8.2	1.2	9.4	3.9
	60歳代	399	47.6	26.3	25.8	24.1	30.1	19.3	9.5	0.8	10.8	6.5
	70歳以上	223	46.6	30.5	24.7	25.6	13.5	17.9	8.5	1.8	9.9	9.9
ブロック別	東部A	130	53.1	25.4	26.2	25.4	19.2	20.8	10.8	-	11.5	6.2
	東部B(田主丸)	102	53.9	20.6	18.6	19.6	31.4	23.5	3.9	1.0	10.8	7.8
	北部A	150	48.0	25.3	24.7	24.0	29.3	22.7	3.3	1.3	15.3	4.0
	北部B(北野)	112	59.8	20.5	21.4	25.9	26.8	14.3	7.1	-	12.5	4.5
	中央東部	206	56.8	35.0	22.8	29.6	29.1	21.8	7.8	2.4	6.8	3.9
	南東部	184	47.8	25.5	21.2	27.2	25.5	26.6	7.6	-	10.3	5.4
	中央部	235	53.2	29.4	26.0	27.2	34.0	19.1	7.2	2.1	9.4	3.4
	中央南部	299	55.9	24.7	21.4	31.1	30.1	20.7	11.7	2.0	7.7	4.0
	南西部	150	63.3	18.7	22.0	30.7	26.0	18.7	5.3	2.0	8.0	4.0
西部A(城島)	75	52.0	25.3	26.7	28.0	25.3	18.7	8.0	-	12.0	4.0	
	西部B(三瀬)	93	55.9	21.5	21.5	25.8	22.6	19.4	14.0	1.1	12.9	7.5
子どもの状況別	世帯の中に就学前の子どもがいる	212	63.7	24.1	24.5	33.0	30.7	25.5	3.8	0.5	7.5	3.8
	世帯の中に小学生がいる	199	70.4	21.6	19.6	30.2	35.2	21.6	6.5	1.0	6.0	4.0
	世帯の中に中学生がいる	132	59.1	25.8	22.0	24.2	31.1	15.9	9.1	1.5	9.8	3.0
	世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	174	65.5	21.8	13.8	33.3	25.9	20.1	7.5	2.3	9.2	2.3
	上記にあてはまる人はいない 無回答	1,192 17	50.1 41.2	26.6 29.4	23.8 11.8	25.7 35.3	27.3 23.5	20.1 11.8	8.6 5.9	1.2 5.9	11.2 17.6	5.3 5.9
文化芸術への接触機会別	十分にあると思う	728	61.0	30.4	25.1	29.9	29.3	22.9	8.0	1.2	5.9	1.0
	十分にあると思わない	849	54.4	22.6	22.5	28.4	29.7	21.0	8.8	1.6	12.8	1.8
	無回答	159	25.2	19.5	15.1	11.3	13.8	10.7	4.4	-	13.8	37.1

(3) 子どもが本に親しむための環境整備

「家庭で本を読む習慣をつくる」(53.0%)、「学校での読書の時間を増やす」(34.0%) が上位 2 項目。

問 36 子どもが本に親しみ、進んで読書をするために、家庭や学校、図書館はどのような環境を整えればよいと思いますか。次の中から3つまで（2つ以内でもかまいません）選び、番号に○印をつけてください。



◆属性別特徴

【性別】 女性は「家庭で本を読む習慣をつくる」「家族で図書館に行く機会を増やす」で男性より高くなっている。

【年齢別】 年齢が上がるほど「家庭で本を読む習慣をつくる」が高くなる傾向にあり、70歳以上で63.7%と最も高い。

【子どもの状況別】

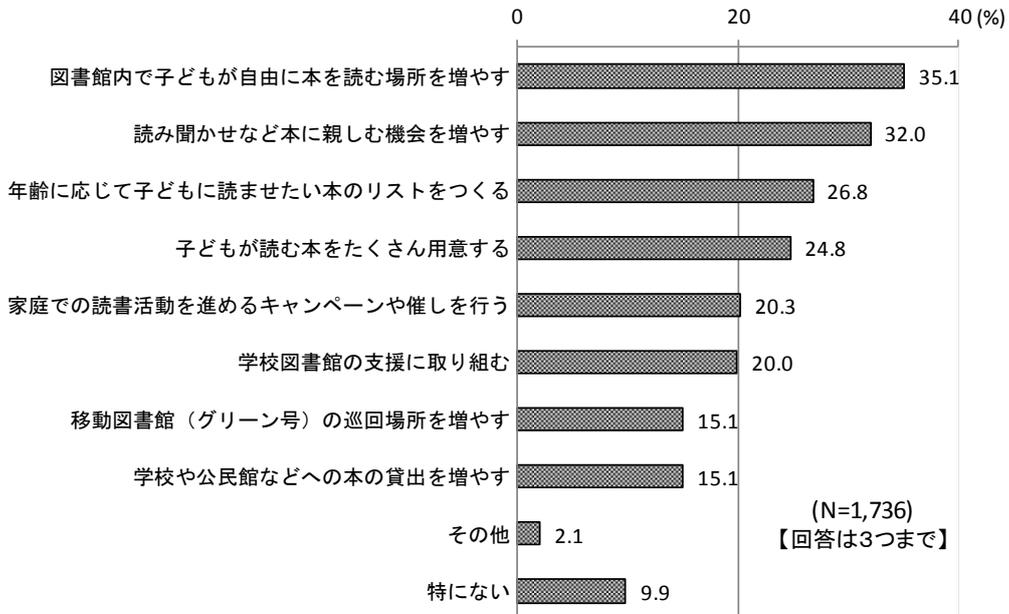
- ・就学前の子どもがいる世帯では「親が子どもに読書をすすめたり、本を与えたりする」が他の世帯よりやや高い。
- ・就学前・小学生がいる世帯では「家族で図書館に行く機会を増やす」が他の世帯より高い。
- ・中学生以上の子どもがいる世帯では「学校での読書の時間を増やす」が他の世帯より高い。

		標本数 (票)	子どもが本に親しみ、進んで読書をするための環境整備 (%)										
			を家庭で本を読む習慣	む親自身 が読書を 楽しむ	えすたり めたりす る、本を 与	親が子 どもに 読書を	を家庭 で読書 の時間	機 会を 増やす	家 族で 図書 館に 行く	向 けの 本を 増やす	市 立の 図書 館に 子ど も	を学 校で の読 書の 時間	や学 校図 書館 の本 を増
全体 (カッコ内は標本数)		100.0 (1,736)	53.0 (920)	29.8 (517)	19.8 (343)	13.7 (237)	25.9 (449)	13.9 (241)	34.0 (591)	15.6 (271)	2.2 (39)	7.7 (134)	3.3 (57)
性別	男性	792	49.2	27.4	21.8	13.5	21.6	15.2	33.6	15.8	3.5	9.6	2.7
	女性	944	56.1	31.8	18.0	13.8	29.4	12.8	34.4	15.5	1.2	6.1	3.8
年齢別	20歳代	206	39.3	28.6	21.8	13.1	20.4	18.9	39.3	23.3	0.5	10.7	1.5
	30歳代	279	50.5	32.3	16.5	10.4	30.1	14.7	34.1	19.4	3.2	5.7	2.2
	40歳代	298	49.3	31.5	15.4	13.8	29.5	15.1	35.6	14.8	2.7	9.4	2.0
	50歳代	331	52.9	29.9	18.7	15.4	25.7	12.7	37.5	13.9	3.3	6.6	3.0
	60歳代	399	58.6	29.3	24.1	13.8	26.1	14.5	31.6	12.8	1.8	7.3	4.0
	70歳以上	223	63.7	26.0	21.5	15.2	20.6	7.2	26.5	12.6	1.3	7.6	7.2
子どもの状況別	世帯の中に就学前の子どもがいる	212	47.2	32.5	21.7	15.6	30.7	18.9	34.4	13.2	1.9	6.1	1.9
	世帯の中に小学生がいる	199	51.8	29.6	16.6	15.1	35.7	12.6	35.7	18.6	3.5	5.5	1.5
	世帯の中に中学生がいる	132	53.0	30.3	11.4	15.2	28.8	9.1	39.4	21.2	4.5	6.8	0.8
	世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	174	54.0	30.5	19.5	15.5	16.1	14.4	41.4	19.0	4.0	5.2	1.1
	上記にあてはまる人はいない	1,192	53.6	29.1	20.1	13.3	25.7	13.1	32.5	15.1	1.8	8.5	3.9
	無回答	17	35.3	23.5	35.3	-	-	29.4	41.2	11.8	-	11.8	5.9

(4) 子どもが本に親しむために図書館に期待すること

「図書館内で子どもが自由に本を読む場所を増やす」が 35.1% で 1 位。小学生がいる世帯では「年齢に応じて子どもに読ませたい本のリストをつくる」が 4 割を超え高い。

問 37 子どもが本に親しみ、自ら進んで読書をするために、市立図書館にどのようなことを期待しますか。次の中から3つまで（2つ以内でもかまいません）を選び、番号に○印をつけてください。



◆属性別特徴

【性別】女性は「読み聞かせなど本に親しむ機会を増やす」「年齢に応じて子どもに読ませたい本のリストをつくる」などで男性より高く、男性は「家庭での読書活動を進めるキャンペーンや催しを行う」で女性より高い。

【年齢別】20～40歳代では「年齢に応じて子どもに読ませたい本のリストをつくる」が他の年齢層よりやや高い。

【ブロック別】

- ・東部A・Bでは「読み聞かせなど本に親しむ機会を増やす」、それ以外の地域では「図書館内で子どもが自由に本を読む場所を増やす」がそれぞれ最も高くなっている。
- ・北部Aは「子どもが読む本をたくさん用意する」が唯一3割を超え、南東部は「移動図書館の巡回場所を増やす」が2割を超え、それぞれ他の地域より高い。

【子どもの状況別】

- ・就学前・小学生がいる世帯では「年齢に応じて子どもに読ませたい本のリストをつくる」が高く、特に小学生がいる世帯では43.2%で最も高い。
- ・就学前の子どもがいる世帯と子どもがいない世帯では「読み聞かせなど本に親しむ機会を増やす」が他の世帯に比べて高くなっている。

	標本数 (票)	子どもが本に親しみ、進んで読書をするために市立図書館に期待すること (%)										
		や進家く子 催め庭さん しるでども るのの用 キヤ読書 ン活 ペー動 ーを	20.3 (352)	24.8 (431)	35.1 (609)	15.1 (263)	32.0 (556)	26.8 (465)	15.1 (263)	20.0 (347)	2.1 (37)	9.9 (171)
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,736)	20.3 (352)	24.8 (431)	35.1 (609)	15.1 (263)	32.0 (556)	26.8 (465)	15.1 (263)	20.0 (347)	2.1 (37)	9.9 (171)	4.1 (72)
性別												
男性	792	22.6	25.8	34.5	15.4	28.8	24.0	15.5	20.6	2.9	11.2	3.4
女性	944	18.3	24.0	35.6	14.9	34.7	29.1	14.8	19.5	1.5	8.7	4.8
年齢別												
20歳代	206	21.8	25.7	30.6	17.5	29.1	32.5	15.5	14.6	0.5	12.6	1.5
30歳代	279	21.5	28.0	38.4	17.9	26.5	29.7	14.3	17.2	3.9	7.9	3.2
40歳代	298	18.5	24.8	30.2	12.1	24.8	32.6	16.8	19.5	4.0	12.1	3.4
50歳代	331	17.8	23.0	35.6	18.7	35.3	27.5	16.0	24.2	2.4	7.3	2.7
60歳代	399	19.0	25.8	41.1	12.5	38.8	22.3	14.3	20.1	1.0	9.5	5.5
70歳以上	223	25.6	21.1	30.0	13.0	34.1	17.0	13.9	22.9	0.4	11.2	8.5
ブロック別												
東部A	130	22.3	21.5	31.5	16.2	33.8	23.1	11.5	15.4	-	15.4	7.7
東部B(田主丸)	102	17.6	23.5	34.3	11.8	35.3	30.4	16.7	19.6	2.0	7.8	5.9
北部A	150	19.3	32.7	38.7	11.3	30.7	31.3	12.0	13.3	4.7	12.7	3.3
北部B(北野)	112	24.1	24.1	33.0	8.9	32.1	26.8	12.5	20.5	-	11.6	3.6
中央東部	206	20.4	22.8	34.0	18.9	32.0	26.7	18.9	25.2	1.9	8.7	3.9
南東部	184	21.7	25.0	29.9	21.2	25.0	25.5	18.5	18.5	0.5	10.9	2.2
中央部	235	18.3	26.8	36.2	15.3	34.5	32.8	14.9	22.1	3.0	8.5	4.3
中央南部	299	19.7	22.1	38.5	18.1	32.1	25.1	14.7	21.1	3.3	7.4	4.3
南西部	150	16.7	28.7	36.7	12.0	33.3	24.7	16.0	18.0	2.7	7.3	3.3
西部A(城島)	75	22.7	25.3	37.3	14.7	33.3	13.3	14.7	25.3	2.7	6.7	4.0
西部B(三潁)	93	24.7	20.4	32.3	6.5	32.3	28.0	12.9	18.3	-	16.1	4.3
子どもの状況別												
世帯の中に就学前の子どもがいる	212	22.2	26.9	38.7	13.7	34.0	38.2	8.5	15.6	4.2	9.0	2.4
世帯の中に小学生がいる	199	24.1	23.6	29.6	19.6	25.1	43.2	16.6	21.6	3.5	7.5	3.0
世帯の中に中学生がいる	132	20.5	26.5	36.4	15.9	16.7	31.1	15.9	31.1	3.8	6.8	3.8
世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	174	26.4	25.3	35.6	17.8	21.3	28.2	20.1	21.3	4.0	5.7	2.9
上記にあてはまる人はいない	1,192	19.0	24.2	35.0	14.3	34.9	23.2	15.5	19.5	1.4	10.8	4.7
無回答	17	17.6	23.5	23.5	23.5	11.8	23.5	11.8	17.6	-	23.5	5.9

考察 — 学校教育・文化芸術・読書 —

●久留米で学べてよかったと思える学校教育

～小学校では学習の基礎知識、中学校では社会のなかで自分らしく生きていける教育～

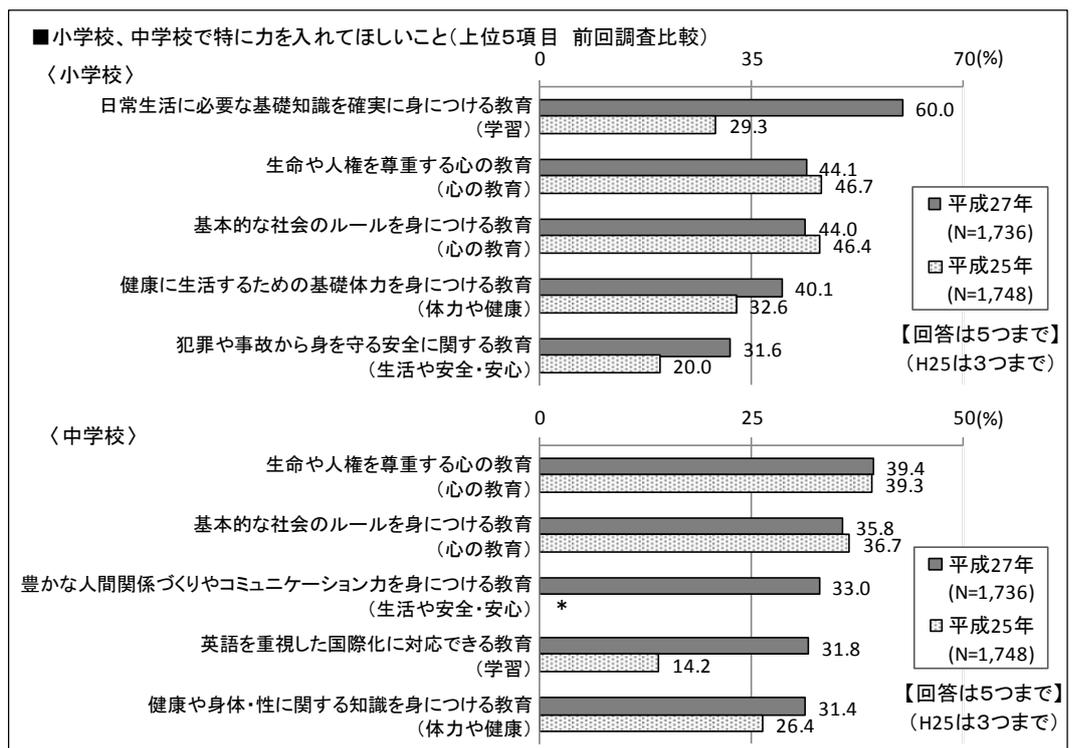
情報化やグローバル化の進行により、ますます価値観や生活様式が多様化していくなか、学校教育に対する期待も年々変化してきている。そのような前提のもと、平成 27 年の調査では、平成 25 年の実施調査においても尋ねた「小学校で特に力を入れてほしいこと」「中学校で特に力を入れてほしいこと」の設問に関して、項目追加、若干の表現変更を行った。また、今回の回答結果に影響を与えたと考えられる設問様式の変更を行った。平成 27 年の設問では、「学習」「体力や健康」「心の教育」「生活や安全・安心」の 4 つの見出しを付けた形で、20 の選択肢を示すという変更である。純粋な比較は不可能だが、上位 5 項目だけでも平成 25 年の結果と比較すると下記の図のような変化がみられた。

大きな変化がみられた項目は、「小学校で特に力を入れてほしいこと」の第 1 位、60.0% の回答を得た「日常生活に必要な基礎知識を確実に身につける教育」である。平成 25 年では、29.3% あったのが、2 倍に伸びた。

これは、「学習」の見出し効果と考えられる。「基礎知識」が「学習の基礎知識」と受け止められたことで、「読み書き計算」などの基礎学力を身につける教育として、支持を集めた結果と言える。一方、前回上位 1、2 位を占めた「生命や人権を尊重する心の教育」「基本的な社会のルールを身につける教育」は、今回「心の教育」の見出しのもと提示された結果、前回と同程度の回答比率を得たものの、今回 1 位の「日常生活における基礎知識を確実に身につける教育」から 15 ポイント離れている。

今回明らかになったのは、小学校においては「心の教育」に対する期待はもちろん大きいですが、それ以上に「学習の基礎知識」が求められているという事である。下図の上位 5 項目の見出しを確認すると、

「学習」「心の教育」「体力や健康」「生活や安全・安心」の見出しが上位から並んでいる。この 4 つの見出しの順序は、学校へ期待する分野と言い換えることができ、期待の大きさの大小、度合いも確認でき



た。図の中学生における期待分野順位と比較してみると、小学校で「学習」が優先される傾向が見えた。

「中学校で特に力を入れてほしいこと」においては、新規に追加した項目が上位の支持を得た。前回上位1、2位を占めた「生命や人権を尊重する心の教育」「基本的な社会のルールを身につける教育」に順位変動はないものの、新規に尋ねた「豊かな人間関係づくりやコミュニケーション力を身につける教育」が33.3%で3位についた。この項目は「生活や安全・安心」の見出しの下に示された項目である。また「学習」の見出し下の「英語を重視した国際化に対応できる教育」が倍増し、31.8%で4位に急上昇した。

中学生においては、ICT特にSNSなどの新たなコミュニケーション技術の変化に対応した人との関係性づくり、自分らしく生きるための教育が求められてきている。また、ICT技術の発達、及びグローバル化により、ますます重視されるようになってきた英語教育に対するニーズの急激な高まりが伺える。

※各選択肢に付けられた見出しは、巻末「使用した調査票（P125）」を参照のこと

さらに、「小・中学校で特に力を入れてほしいこと（上位10項目）の比較」をみると、「小学校にのみ」特に期待するものと、「中学校にのみ」特に期待するものが存在することがわかる。「小学校」に対しては「基礎体力」「自転車の安全な運転」「食に関する知識」など、「生きていくための基礎的な教育を望む」人が多く、中学校に対しては「健康や身体・性に関する知識」「進学や就職などの進路」「スマートフォンなどの利用」「勤労観」などに関する教育を望む声が多数みられる。小中学校という区切りだけでなく、学年別にも細かい期待やニーズの変化が想像される。社会が複雑になっていくなか、子どもたちの成長段階に応じたきめ細かな対応が学校教育にますます求められてきている。

■小・中学校で特に力を入れてほしいこと(上位10項目)の比較

〈小学校〉 (%)		〈中学校〉 (%)			
1位	日常生活に必要な基礎知識を確実に身につける教育	60.0	1位	生命や人権を尊重する心の教育	39.4
2位	生命や人権を尊重する心の教育	44.1	2位	基本的な社会のルールを身につける教育	35.8
3位	基本的な社会のルールを身につける教育	44.0	3位	豊かな人間関係づくりやコミュニケーション力を身につける教育	33.0
4位	健康に生活するための基礎体力を身につける教育	40.1	4位	英語を重視した国際化に対応できる教育	31.8
5位	犯罪や事故から身を守る安全に関する教育	31.6	5位	健康や身体・性に関する知識を身につける教育	31.4
6位	豊かな人間関係づくりやコミュニケーション力を身につける教育	27.4	6位	進学や就職などの将来の進路のことを重視した教育	28.8
7位	自転車の安全な乗り方に関する教育	27.2	7位	日常生活に必要な基礎知識を確実に身につける教育	27.2
8位	英語を重視した国際化に対応できる教育	22.1	8位	スマートフォンなどの利用マナーに関する教育	26.0
9位	食生活や食に関する知識を身につける教育	20.2	9位	犯罪や事故から身を守る安全に関する教育	25.1
9位	障害のある子どもの状態に応じたきめ細かな教育	20.2	10位	働くことの意義を理解し、正しい勤労観を養う教育	23.0

～家庭・地域と学校の連携による、子どもの学び促進～

小学校や中学校に対する期待が細分化され、多様化していくなか、子どもの学習活動においては、これからもますます学校・家庭・地域の連携が求められてくるようになるだろう。連携活動を着実に進めていくためには、「地域学校協議会」など既存の連携組織の活動支援が大切になってくる。本協議会では、学習支援ボランティア活動にも取り組んでおり、その円滑な展開が1つの促進の原動力になっていくと考えられる。

問30をみると、現状において本協議会の認知度は20%未満と低いですが、実際に小中学生がいる家庭での認知度は30%を超えている。活動が活性化していけば、この認知度も高まっていくと考えられる。問31によれば、本協議会の認知が高い層ほど、「保護者や地域住民の学校に対

する関わり方」に関して「もっと関わるべき」との回答が多い。

このことから、本協議会の積極的な認知度向上活動が、間接的に地域全体の子どもの学校教育への関心を高める結果につながっていくものと期待される。効果的活動への取り組み及び、積極的な活動の支援の展開が望まれる。

～教育行政に期待すること、就学前の子どもを抱える保護者の不安低減も大切～

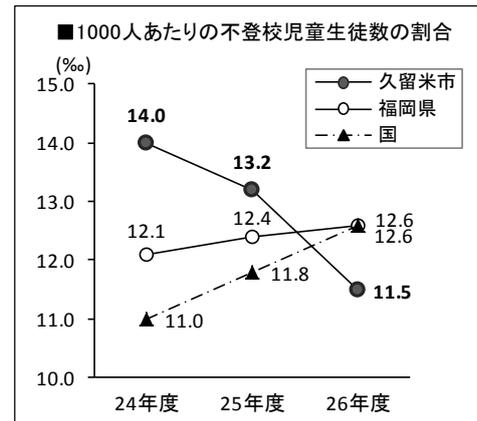
教育行政に期待することで最も多かったのは「いじめ対策や体罰防止を徹底し、安心して学べる学校づくりの推進」で、様々な属性において 50% を超える支持を集めた。それ以上に今回の調査における特徴としては、前回の平成 25 年の調査と比較して「不登校などの課題を抱える子どもと保護者の支援や相談体制の充実」の順位が 2 位から 3 位に下がったことである。実際に不登校者数が減少してきていることが反映された結果と言えるが、教育行政の一定の成果の表れと評価できる。

さて、属性別特徴でみた「子どもの状況別」に、若干気になりな傾向を見出したので、ここで注目しておきたい。それは「就学前の子どもがいる世帯」の回答比率が高いものの「小学生がいる世帯」では低くなっている項目の存在である。

「障害のある子どもが、個に応じた十分な教育を受けるための支援体制」や「不登校などの課題を抱える子どもと保護者の支援や相談支援の充実」等の項目は、入学後より入学前の方のニーズが大きくなっている。

子育て層は、子どもの小学校入学を契機として、転居し家を建てたりすることが多いと言われている。久留米市は子育て層に選ばれる都市を目指しているが、そのことを考えると、教育施設の充実を図るとともに、就学前の子どもを持つ家庭に向けて、「久留米市の教育は大丈夫、安心してきてください」というメッセージを伝えることが大切であると考え。そして、小学校進学を契機として久留米市に転居してくる層をしっかりと迎えるためにも、福岡都市圏を含む広域での戦略的なアピール活動が必要ではないかと考える。

なお、「経済的に困難な保護者の教育費負担を軽減する施策の推進」は比率としては低いですが、家庭の経済状況で学習の機会や学力の差が出ないようにするための不可欠な教育行政施策のひとつとして、社会全体で解決していく課題の視点が重要なものと言える。



●成長段階に応じた文化芸術に触れる機会を提供

～文化芸術教育における小中高連携、及び地域の施設・人材との連携～

平成 28 年度は、これからの久留米市の文化芸術施策にとって、大きなターニングポイントとなる 1 年となる。久留米シティプラザが開館し、石橋美術館の運営が市に移管され新たな美術館として生まれ変わる。市民のニーズのみならず、広域地域の拠点としての期待、さらにこれからの社会の変容を踏まえた上で、久留米が、より創造と活力あふれる都市となっていくために、精力的な文化芸術行政および文化芸術活動の支援を進めていってほしいものである。

問35「子どもたちが文化芸術に親しむために必要なこと」では「学校における文化芸術の鑑賞や体験機会の充実」が5割を超え最も高く、子どもが文化芸術に親しむようになるための学校教育の役割は欠かせない。大きな期待を集めている。久留米市内の小中学校では、芸術家などの学校への派遣事業などを通じて、学校における文化芸術の鑑賞や体験機会の充実に長年取り組んできており、調査結果からも、このような活動に対する評価や高い支持がみられる。今後は、これらの一定の成果を踏まえた上での、上級学年におけるフォローアップ活動が期待される。

「子どもの状況別」でみると、「学校における鑑賞や体験」はどの属性でもトップであるが、小学生がいる世帯、中学生がいる世帯、高校生世代がいる世帯では、2位以下の支持項目にバラツキがみられ、上級校に進学すると数値が変化する項目が散見される。小学生がいる世帯から中学生がいる世帯2位以下の項目をみると、中学生がいる世帯では、「地域の文化芸術などについて知る・学ぶ」や「練習・発表の場の充実」などが小学生がいる世帯よりも高くなる。また、高校生世代がいる世帯では、「地域の身近な場所における文化芸術イベントの充実」が多くなり「文化施設などにおけるイベントの充実」を上回る。

■子どもの状況別にみた子どもたちが文化芸術に親しんでいくために必要なこと

		標本数(票)	学校における文化芸術の鑑賞や体験機会の充実	地域文化芸術や郷土出身の芸術家の文化芸術について知る・学ぶ	子どもたちの文化芸術活動の練習・発表の場の充実	公園や広場、公民館などの地域の文化芸術イベントの充実	ホールや美術館などの文化施設	子ども向けの文化芸術情報発信	子ども向けの文化芸術イベントの紹介	その他	特になし	無回答
全体 (カッコ内は標本数)		100.0 (1,736)	54.5 (946)	25.6 (444)	22.9 (398)	27.5 (477)	28.1 (487)	20.9 (362)	8.1 (140)	1.3 (23)	10.0 (174)	4.7 (81)
子どもの状況別	世帯の中に就学前の子どもがいる	212	63.7	24.1	24.5	33.0	30.7	25.5	3.8	0.5	7.5	3.8
	世帯の中に小学生がいる	199	70.4	21.6	19.6	30.2	35.2	21.6	6.5	1.0	6.0	4.0
	世帯の中に中学生がいる	132	59.1	25.8	22.0	24.2	31.1	15.9	9.1	1.5	9.8	3.0
	世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	174	65.5	21.8	13.8	33.3	25.9	20.1	7.5	2.3	9.2	2.3
	上記にあてはまる人はいない	1,192	50.1	26.6	23.8	25.7	27.3	20.1	8.6	1.2	11.2	5.3
無回答	17	41.2	29.4	11.8	35.3	23.5	11.8	5.9	5.9	17.6	5.9	

大きな流れでみると、「小学生の時に、まずは本物に触れ、受動的に感覚的に文化芸術を受容し、関心を喚起」したうえで、「中学生になったら、自ら調べたり学んだり、体験してみることによって、文化芸術に対して能動的に向き合える」ような支援が求められるといった見方もできる。「高校生ぐらいの年代において、地域の身近な場所における文化芸術イベントの充実」が高くなっている。これは、文化芸術系の市民イベント活動に、市立高校生がボランティア参加する等、これまでの実績が背景にあると考えられる。

今後は、小学校、中学校、高校の文化芸術教育における連携、フォローアップ教育の充実なども、今後積極的に取り組んでいくことが期待される。また、その過程において、文化施設や美術館、さらに公民館などの身近な施設や場および人材との連携も大切な要素となってくるだろう。

●家庭で、地域で、本を読む習慣づくり

～学校での読書時間、読ませたい本のリスト、読み聞かせ人材の発掘と育成、地域との連携～

問 36「子どもが本に親しみ、進んで読書をするための環境整備」では、「家庭で本を読む習慣をつくる」が 53.0%で最も高く、「学校での読書の時間を増やす」「親自身が読書を楽しむ」が約3割で上位となった。子どもにとって身近な学校や家庭での読書習慣づくりが大切と多くの市民が考え、地域の図書館に期待するものも大きいようだ。

市立図書館に対しては、子どもが自由に本を読める空間に加え、幼少時期に提供される読み聞かせのサービス、また借りて家に持ち帰って読ませたい本のリストの提供、など多岐にわたるニーズがある。

■子どもの状況別にみた子どもが本に親しみ、進んで読書するために市立図書館に期待すること

(%)

	標本数(票)	や進め家庭でく子どもを自由を増やす	く子どもが読みたい本を	を自由に読みたい場所	増やす(巡り場)	移動図書館(巡回)	親しみ聞かせなど本に	読み聞かせなど本のリストをつくる	年齢に応じて子どもの	の学校や公民館などへ	取り組む	学校図書館の支援に	その他	特にな	無回答
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,736)	20.3 (352)	24.8 (431)	35.1 (609)	15.1 (263)	32.0 (556)	26.8 (465)	15.1 (263)	20.0 (347)	2.1 (37)	9.9 (171)	4.1 (72)			
子ども															
世帯の中に就学前の子どもがいる	212	22.2	26.9	38.7	13.7	34.0	38.2	8.5	15.6	4.2	9.0	2.4			
世帯の中に小学生がいる	199	24.1	23.6	29.6	19.6	25.1	43.2	16.6	21.6	3.5	7.5	3.0			
世帯の中に中学生がいる	132	20.5	26.5	36.4	15.9	16.7	31.1	15.9	31.1	3.8	6.8	3.8			
世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	174	26.4	25.3	35.6	17.8	21.3	28.2	20.1	21.3	4.0	5.7	2.9			
上記にあてはまる人はいない	1,192	19.0	24.2	35.0	14.3	34.9	23.2	15.5	19.5	1.4	10.8	4.7			
無回答	17	17.6	23.5	23.5	23.5	11.8	23.5	11.8	17.6	-	23.5	5.9			

特に、「読み聞かせなど本に親しむ機会を増やす」に関して、子どもの状況別にみると、就学前の子どもがいる人、さらに、現在、子育てを行っていない人たちの間で、高い期待が認められる。現在図書館においては、読み聞かせなど図書館の催しは、ボランティアが担うところが大きい。子育て経験はなくても、ボランティアとして子どもの教育や遊びの支援を行いたい層は幅広く存在する。例えば、問 27 が示すように「前日準備や当日の手伝いであれば参加してもよい」との回答は、男女、年代を問わず2割台を示している。

「読み聞かせ」など、一定の訓練を受ければ、事前の準備がほとんど必要ないボランティアであれば、学生など子育て経験のない人、フルタイムで働く社会人、特に男性など、これまであまり見られなかった層にも、参加しやすいプログラムとして受け入れられる土壌は既にあると思われる。これまでの広報に加え、学生や勤めの社会人が頻繁に利用するSNSなどのメディアを使った情報発信がさらに求められる。

さらに、地域や大学との連携で、子育て支援の輪を、市立図書館を核とした読書の輪を通じて広げていくというアプローチも検討してみてもどうか。これまで子育て支援を意識したことのない層に対しても、読書という方向からは接点を持ちやすくなる可能性があると考えられる。

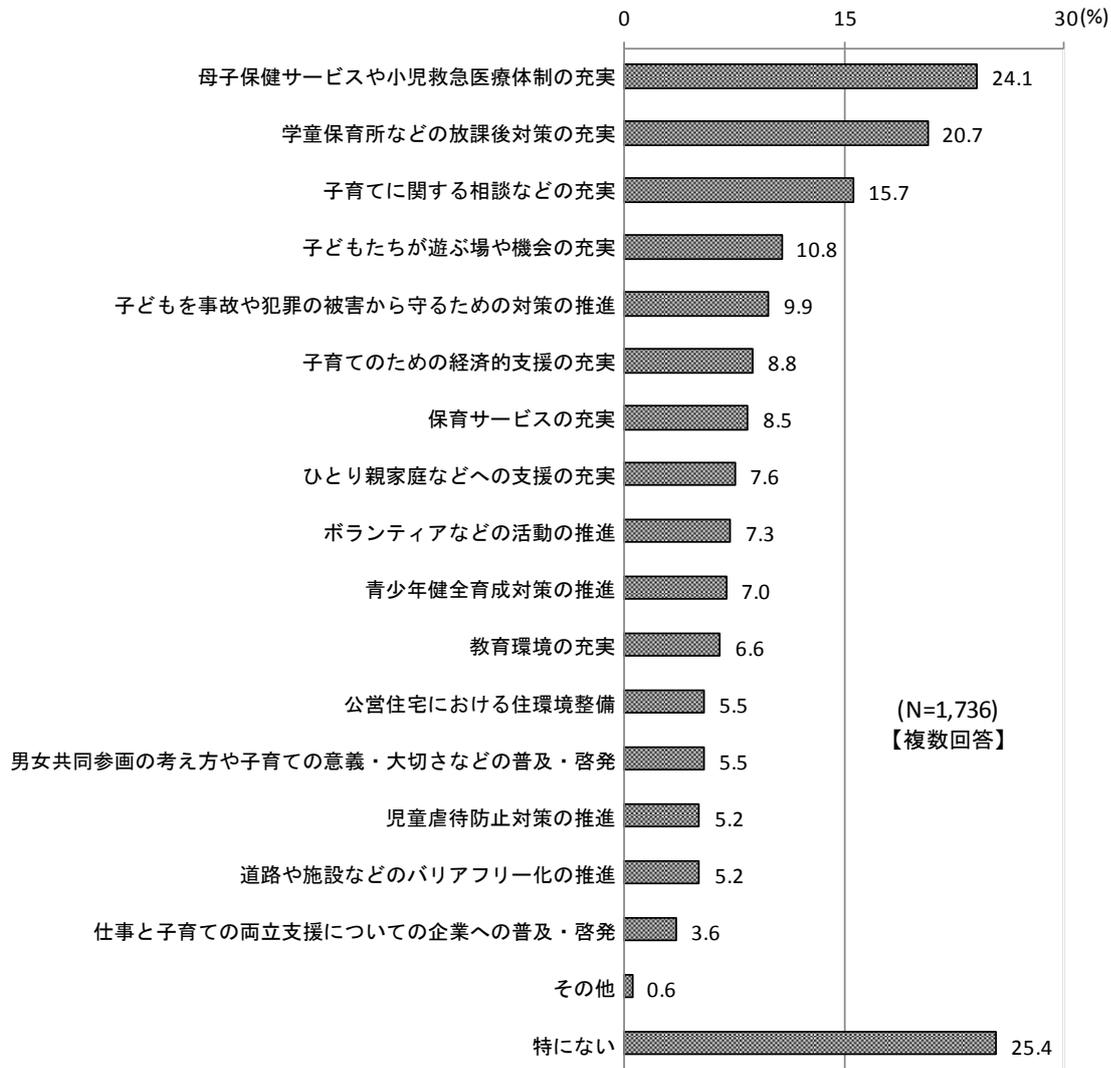
(分析者 山下永子)

2-6 子育てしやすいまちづくり

充実していることは「母子保健サービスや小児救急医療体制の充実」(24.1%)、「学童保育所などの放課後対策の充実」(20.7%)が上位。

問 38 久留米市は「全国トップクラスの子育てしやすいまち」をめざしています。

(A) あなたが、現在久留米市で子育てについて充実していると思うことはどのようなことですか。(あてはまる番号にいくつでも○印)



◆属性別特徴

【性別】女性は「母子保健サービスや小児救急医療体制の充実」「学童保育所などの放課後対策の充実」で男性より高い。

【性別・年齢別】30～50歳代女性は「母子保健サービスや小児救急医療体制の充実」、60歳代以上女性は「学童保育所などの放課後対策の充実」が最も高い。男性のすべての年齢層と20歳代女性では「特にない」が最も高い。

【子どもの状況別】

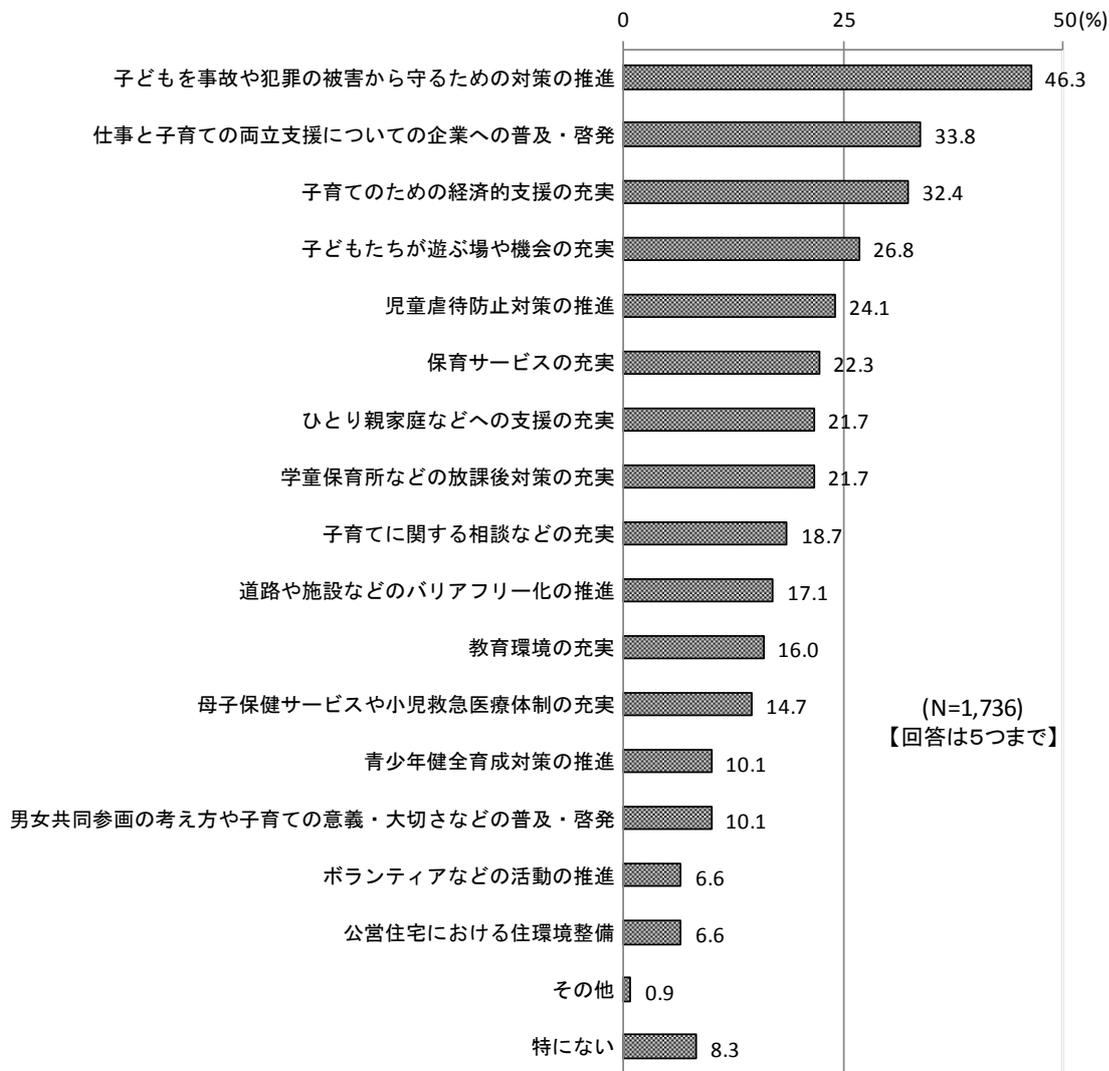
- ・就学前の子どもがいる世帯では「子育てに関する相談などの充実」「母子保健サービスや小児救急医療体制の充実」「保育サービスの充実」が他の世帯より高い。
- ・小学生がいる世帯では「学童保育所などの放課後対策の充実」が他の世帯より高い。

【久留米市での子育てのしやすさ別】子育てしやすいまちだと思う人は「母子保健サービスや小児救急医療体制の充実」「学童保育所などの放課後対策の充実」で思わない人より10ポイント以上高い。思わない人は全般的に低めで「特にない」が35.6%で最も高い。

	標本数(票)	子育てについて充実していると思うこと (%)																		
		子育てに関する相談などの充実	男女共同参画の考え方や子育ての意義・大切さなどの普及・啓発	子育てのための経済的支援の充実	母子保健サービスや小児救急医療体制の充実	児童虐待防止対策の推進	保育サービスの充実	ひとり親家庭などへの支援の充実	ボランティアなどの活動の推進	学童保育所などの放課後対策の充実	子どもたちが遊ぶ場や機会の充実	教育環境の充実	青少年健全育成対策の推進	の企業への普及・啓発	の事業と子育ての両立支援について	公営住宅における住環境整備	道路や施設などのバリアフリー化の推進	子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策の推進	その他	特にない
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,736)	15.7 (272)	5.5 (95)	8.8 (152)	24.1 (419)	5.2 (91)	8.5 (148)	7.6 (132)	7.3 (126)	20.7 (359)	10.8 (188)	6.6 (115)	7.0 (122)	3.6 (63)	5.5 (96)	5.2 (91)	9.9 (171)	0.6 (11)	25.4 (441)	18.8 (327)
性別																				
男性	792	13.6	5.8	8.5	19.6	4.7	7.3	6.1	8.7	17.4	11.2	7.3	7.1	3.2	6.6	5.1	10.6	0.4	29.9	18.6
女性	944	17.4	5.2	9.0	28.0	5.7	9.5	8.9	6.0	23.4	10.5	6.0	7.0	4.0	4.7	5.4	9.2	0.8	21.6	19.1
性別×年齢別																				
男性:20歳代	103	13.6	6.8	6.8	16.5	1.9	6.8	4.9	10.7	13.6	12.6	6.8	3.9	1.0	5.8	10.7	8.7	-	41.7	12.6
男性:30歳代	145	15.2	6.2	6.2	16.6	3.4	7.6	4.1	8.3	5.5	19.3	5.5	2.8	2.8	7.6	1.4	6.9	-	36.6	15.2
男性:40歳代	126	12.7	4.0	7.1	22.2	4.0	7.9	7.1	7.1	22.2	11.1	4.0	5.6	2.4	7.9	7.9	7.1	-	25.4	20.6
男性:50歳代	151	13.9	6.6	8.6	23.8	5.3	10.6	9.9	9.9	19.9	6.0	9.3	11.9	3.3	6.0	4.6	8.6	1.3	25.2	19.2
男性:60歳代	179	14.0	4.5	11.2	20.7	3.9	5.0	3.9	7.8	21.8	8.4	7.8	7.8	3.9	6.1	4.5	15.1	0.6	28.5	18.4
男性:70歳以上	88	11.4	8.0	10.2	14.8	11.4	5.7	6.8	9.1	21.6	11.4	11.4	10.2	5.7	5.7	2.3	18.2	-	22.7	27.3
女性:20歳代	103	19.4	4.9	4.9	17.5	1.9	7.8	4.9	13.6	12.6	17.5	5.8	2.9	2.9	4.9	7.8	4.9	1.0	32.0	12.6
女性:30歳代	134	35.8	3.7	11.2	40.3	3.7	11.9	9.7	7.5	16.4	16.4	7.5	3.7	3.7	6.0	8.2	3.7	-	20.1	12.7
女性:40歳代	172	17.4	3.5	9.9	32.0	1.7	8.7	10.5	2.9	22.7	8.1	6.4	5.2	0.6	4.7	2.9	6.4	1.2	25.6	13.4
女性:50歳代	180	9.4	7.2	6.7	29.4	3.9	7.2	7.2	6.7	25.0	7.2	6.7	7.8	3.9	5.6	3.9	6.7	1.1	22.2	20.0
女性:60歳代	220	14.5	5.0	8.6	25.0	8.2	9.1	8.2	3.2	30.0	8.2	3.6	8.2	5.5	2.3	4.5	12.7	0.9	17.7	26.4
女性:70歳以上	135	12.6	6.7	12.6	21.5	14.1	13.3	12.6	6.7	26.7	10.4	7.4	12.6	7.4	5.9	7.4	19.3	0.7	15.6	24.4
子どもの状況別																				
世帯の中に就学前の子どもがいる	212	33.5	4.2	9.4	42.0	3.3	15.1	8.0	8.0	14.2	17.0	7.5	3.3	2.4	6.6	5.2	5.7	-	18.4	12.7
世帯の中に小学生がいる	199	20.6	3.5	12.6	39.7	4.5	12.1	9.5	7.0	30.2	14.6	6.5	6.5	3.5	4.5	2.5	9.0	0.5	16.1	12.1
世帯の中に中学生がいる	132	18.9	6.1	9.8	28.8	6.1	9.1	11.4	7.6	25.0	11.4	6.8	11.4	3.0	6.8	6.1	10.6	1.5	18.2	17.4
世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	174	20.1	2.9	10.9	30.5	2.3	11.5	11.5	10.9	27.0	14.4	9.8	9.2	2.9	8.0	4.6	7.5	0.6	20.7	10.3
上記にあてはまる人はいない	1,192	11.6	5.9	7.7	19.0	5.7	6.6	6.8	7.0	19.3	8.6	6.1	7.0	3.9	5.4	5.6	10.5	0.7	28.4	21.6
無回答	17	11.8	11.8	11.8	11.8	11.8	-	5.9	-	23.5	23.5	5.9	5.9	11.8	5.9	-	11.8	-	29.4	11.8
すの子育																				
思う	1,367	17.4	5.9	9.4	26.5	5.5	9.6	8.2	7.8	23.5	11.6	7.5	7.8	3.7	6.1	5.4	10.4	0.7	23.0	16.5
思わない	295	9.2	4.1	5.8	15.9	3.7	5.1	5.1	5.1	9.8	8.8	3.4	4.4	3.7	3.4	4.7	8.5	0.7	35.6	25.1
無回答	74	9.5	4.1	8.1	13.5	6.8	2.7	6.8	6.8	12.2	4.1	4.1	4.1	2.7	4.1	4.1	5.4	-	29.7	36.5

今後力を入れてほしいことは「子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策の推進」が46.3%で1位。「仕事と子育ての両立支援についての企業への普及・啓発」、「子育てのための経済的支援の充実」が3割を超えて続いている。

(B) 今後、久留米市は、どのようなことに特に取り組むべきだと思いますか。次の中から5つまで(4つ以内でもかまいません)選び、番号に○印をつけてください。



◆属性別特徴

【性別】女性は「仕事と子育ての両立支援についての企業への普及・啓発」「学童保育所などの放課後対策の充実」で男性より高く、男性は「子育てのための経済的支援の充実」で女性より5ポイント高い。

【性別・年齢別】

- ・男女ともにすべての年齢層で「子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策の推進」が最も高い。
- ・20・30・50 歳代女性は「仕事と子育ての両立支援についての企業への普及・啓発」、男女ともに 30 歳代では「子育てのための経済的支援の充実」がそれぞれ4割を超え高い。

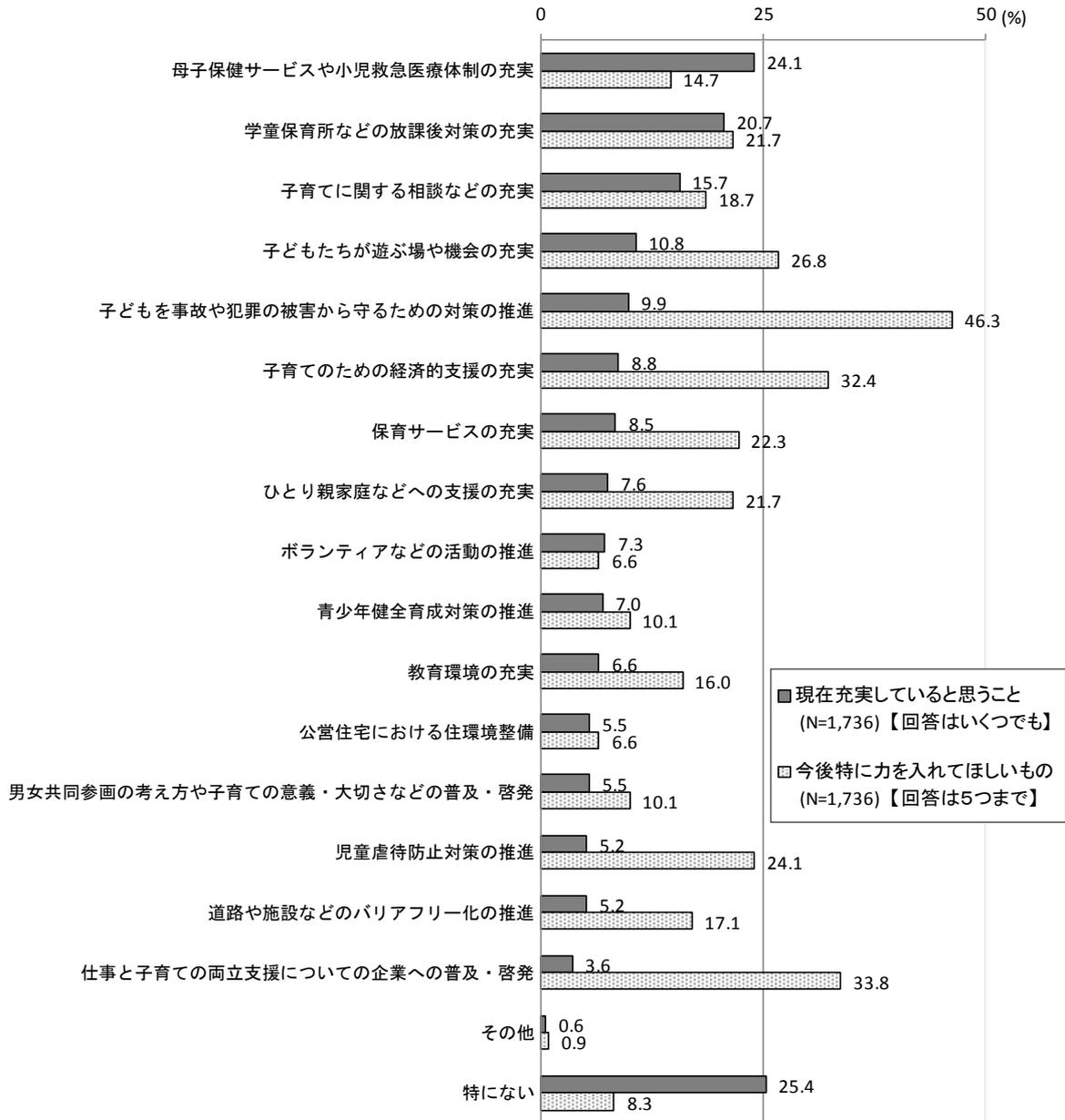
【子どもの状況別】

- ・全ての世帯で「子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策の推進」が最も高く、子どもがいる世帯では5割を超えて高い。
- ・就学前の子どもがいる世帯では「子育てのための経済的支援の充実」「仕事と子育ての両立支援についての企業への普及・啓発」「保育サービスの充実」が他の世帯より高くなっている。
- ・就学前・小学生がいる世帯では「子どもたちが遊ぶ場や機会の充実」が他の世帯より高い。

【久留米市での子育てのしやすさ別】子育てしやすいまちだと思う、思わないにかかわらず、「子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策の推進」「仕事と子育ての両立支援についての企業への普及・啓発」「子育てのための経済的支援の充実」が高くなっている。

	標本数(票)	今後久留米市が取り組むべきこと(%)																			
		子育てに関する相談などの充実	男女共同参画の考え方や子育ての意義・大切さなどの普及・啓発	子育てのための経済的支援の充実	母子保健サービスや小児救急医療体制の充実	児童虐待防止対策の推進	保育サービスの充実	ひとり親家庭などへの支援の充実	ボランティアなどの活動の推進	学童保育所などの放課後対策の充実	子どもたちが遊ぶ場や機会の充実	教育環境の充実	青少年健全育成対策の推進	仕事と子育ての両立支援についての企業への普及・啓発	公営住宅における住環境整備	道路や施設などのバリアフリー化の推進	子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策の推進	その他	特になし	無回答	
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,736)	18.7 (325)	10.1 (175)	32.4 (562)	14.7 (256)	24.1 (418)	22.3 (387)	21.7 (377)	6.6 (115)	21.7 (376)	26.8 (466)	16.0 (277)	10.1 (176)	33.8 (586)	6.6 (115)	17.1 (296)	46.3 (803)	0.9 (16)	8.3 (144)	6.2 (107)	
性別																					
男性	792	16.9	9.8	35.1	14.8	26.0	21.3	23.7	7.1	18.7	25.8	15.8	11.7	29.9	6.4	17.4	45.6	1.0	9.7	5.9	
女性	944	20.2	10.3	30.1	14.7	22.5	23.1	20.0	6.3	24.2	27.8	16.1	8.8	37.0	6.8	16.7	46.8	0.8	7.1	6.4	
性別×年齢別																					
男性:20歳代	103	11.7	10.7	28.2	15.5	17.5	18.4	22.3	5.8	14.6	28.2	19.4	6.8	35.0	5.8	19.4	38.8	1.9	16.5	4.9	
男性:30歳代	145	16.6	9.7	44.8	19.3	26.9	22.8	22.8	4.8	21.4	29.7	15.2	9.0	35.2	6.9	16.6	51.0	0.7	12.4	1.4	
男性:40歳代	126	14.3	6.3	33.3	13.5	21.4	20.6	16.7	7.1	19.0	27.0	19.0	12.7	30.2	5.6	18.3	53.2	2.4	5.6	7.9	
男性:50歳代	151	21.9	6.6	32.5	10.6	28.5	23.2	29.1	7.9	20.5	27.8	13.9	12.6	27.8	7.9	20.5	45.7	1.3	6.6	6.0	
男性:60歳代	179	17.9	15.1	36.3	16.8	29.1	22.3	24.0	7.8	17.9	20.1	15.6	14.5	27.9	6.7	15.6	43.0	-	8.9	6.7	
男性:70歳以上	88	17.0	9.1	31.8	11.4	30.7	18.2	27.3	9.1	17.0	22.7	11.4	13.6	22.7	4.5	13.6	38.6	-	10.2	10.2	
女性:20歳代	103	15.5	4.9	38.8	17.5	22.3	35.0	16.5	5.8	19.4	28.2	12.6	8.7	42.7	5.8	13.6	43.7	1.0	12.6	3.9	
女性:30歳代	134	11.9	6.0	41.0	18.7	13.4	27.6	15.7	2.2	35.8	38.1	14.2	5.2	44.8	8.2	17.2	45.5	0.7	8.2	6.0	
女性:40歳代	172	12.8	9.9	36.6	10.5	20.9	20.3	20.9	5.8	18.6	32.0	23.8	11.0	30.2	7.0	18.6	47.1	1.7	8.7	4.1	
女性:50歳代	180	26.1	11.7	26.1	12.8	24.4	29.4	20.0	5.6	22.8	25.0	17.8	5.6	42.2	6.7	18.9	48.9	1.1	2.8	3.3	
女性:60歳代	220	24.1	12.3	22.7	15.9	24.1	17.7	22.7	8.6	26.8	27.3	12.3	9.5	38.6	6.8	15.9	49.5	-	5.9	8.6	
女性:70歳以上	135	27.4	14.1	21.5	14.8	28.1	13.3	21.5	8.1	20.7	16.3	14.8	12.6	23.7	5.9	14.8	43.0	0.7	7.4	11.9	
子どもの状況別																					
世帯の中に就学前の子どもがいる	212	13.7	8.0	50.0	17.9	16.5	29.2	14.6	4.7	28.3	38.7	17.0	6.6	42.5	6.6	17.9	53.8	0.9	2.8	4.7	
世帯の中に小学生がいる	199	14.1	9.5	41.7	14.6	17.6	22.1	16.1	5.5	28.1	36.2	22.6	10.1	37.2	4.5	17.1	55.8	2.5	3.5	2.5	
世帯の中に中学生がいる	132	16.7	6.1	38.6	12.1	22.0	20.5	22.0	6.8	24.2	30.3	23.5	13.6	27.3	5.3	22.7	50.0	3.0	5.3	3.8	
世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	174	16.1	11.5	40.8	13.8	25.3	24.1	18.4	5.7	20.1	27.0	20.1	12.6	36.8	5.7	23.0	58.0	1.7	5.7	2.3	
上記にあてはまる人はいない	1,192	20.5	10.1	28.3	15.0	26.3	21.2	23.4	6.9	20.1	24.2	14.0	10.1	32.2	6.6	15.9	42.3	0.5	9.9	7.6	
無回答	17	29.4	17.6	29.4	17.6	17.6	35.3	17.6	11.8	5.9	17.6	5.9	17.6	23.5	11.8	17.6	58.8	-	11.8	-	
すの子育	1,367	18.6	11.0	33.4	14.3	24.6	22.2	22.9	6.8	22.1	27.5	16.5	10.5	35.0	6.6	17.6	47.8	0.8	7.0	5.5	
思う	295	19.7	6.4	31.2	16.6	23.7	22.4	18.3	6.1	21.4	25.1	14.6	9.5	29.8	6.8	17.6	42.7	1.4	13.6	5.1	
思わない	74	17.6	6.8	17.6	14.9	16.2	18.9	13.5	5.4	14.9	21.6	12.2	5.4	27.0	6.8	5.4	32.4	1.4	10.8	23.0	
無回答																					

■ 図2-4 充実している子育て施策と今後取り組むべき子育て施策



考察 — 子育てしやすいまちづくり —

本年度の久留米市民意識調査は、「子育てしやすいまちづくり」を主要なテーマとして実施された。ここで調査全体を振り返り、久留米市が目指す「全国トップクラスの子育てしやすいまち」の実現のために何が必要かを考えていきたい。

●重点的に取り組むことが望まれる「子どもの安全対策」「子育て等への企業の理解促進」

「妊娠・出産しやすい環境が整っているか」「子育てしやすいまちだと思うか」「小児医療が充実していると思うか」については、いずれも8割前後が『思う』と回答しており、なかでも現在子育て中の市民からの評価が高い傾向がみられる。

しかし、「充実していると思う子育て施策」と「今後取り組むべき子育て施策」を比較すると、「子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策の推進」「仕事と子育ての両立支援についての企業への普及・啓発」「子育てのための経済的支援の充実」などは、今後「取り組むべき」に比べて「充実している」が低い。つまりは重要だが施策が十分でないと考えられている項目といえる。学校等でのいじめ防止や公園での遊具の整備などを含めた子どもの安全対策、妊娠や出産、子育て、ワーク・ライフ・バランスなどに対する企業の理解の促進は、本調査において複数の設問から市民の関心の高さがうかがえるものであり、今後重点的に取り組むことが望まれる。

●久留米市民全体への子育て支援施策PR

「充実していると思う子育て施策」上位項目の「母子保健サービスや小児救急医療体制の充実」は小学生以下の子どもがいる世帯で、「学童保育所などの放課後対策の充実」は小学生の子どもがいる世帯で、「子育てに関する相談などの充実」は就学前の子どもがいる世帯で評価が高いなど、それぞれの施策の対象となる子どもがいる人の満足度が高い。一方、施策の対象となる子どもがいない人への周知が十分でない状況もみられた。不登校や障害のある子どもへの学校の支援体制に対しては、就学前の子どもがいる世帯の不安が高いことが示唆された (p.88 (学

■子どもの状況別にみた子育てについて充実していること、取り組むべきこと

(96)

		子育てに関する相談などの充実	男女共同参画の考え方や子育ての意義・大切さなどの普及・啓発	子育てのための経済的支援の充実	母子保健サービスや小児救急医療体制の充実	児童虐待防止対策の推進	保育サービスの充実	ひとり親家庭などへの支援の充実	ボランティアなどの活動の推進	学童保育所などの放課後対策の充実	子どもたちが遊ぶ場や機会の充実	教育環境の充実	青少年健全育成対策の推進	仕事と子育ての両立支援についての企業への普及・啓発	公営住宅における住環境整備	道路や施設などのバリアフリー化の推進	子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策の推進	その他	特になし	無回答	
全体	充実していること	15.7	5.5	8.8	24.1	5.2	8.5	7.6	7.3	20.7	10.8	6.6	7.0	3.6	5.5	5.2	9.9	0.6	25.4	18.8	
	取り組むべきこと	18.7	10.1	32.4	14.7	24.1	22.3	21.7	6.6	21.7	26.8	16.0	10.1	33.8	6.6	17.1	46.3	0.9	8.3	6.2	
子どもの状況別	世帯の中に就学前の子どもがいる	充実していること	33.5	4.2	9.4	42.0	3.3	15.1	8.0	14.2	17.0	7.5	3.3	2.4	6.6	5.2	5.7	-	18.4	12.7	
		取り組むべきこと	13.7	8.0	50.0	17.9	16.5	29.2	14.6	4.7	28.3	38.7	17.0	6.6	42.5	6.6	17.9	53.8	0.9	2.8	4.7
	世帯の中に小学生がいる	充実していること	20.6	3.5	12.6	39.7	4.5	12.1	9.5	7.0	30.2	14.6	6.5	6.5	3.5	4.5	2.5	9.0	0.5	16.1	12.1
		取り組むべきこと	14.1	9.5	41.7	14.6	17.6	22.1	16.1	5.5	28.1	36.2	22.6	10.1	37.2	4.5	17.1	55.8	2.5	3.5	2.5
	世帯の中に中学生がいる	充実していること	18.9	6.1	9.8	28.8	6.1	9.1	11.4	7.6	25.0	11.4	6.8	11.4	3.0	6.8	6.1	10.6	1.5	18.2	17.4
		取り組むべきこと	16.7	6.1	38.6	12.1	22.0	20.5	22.0	6.8	24.2	30.3	23.5	13.6	27.3	5.3	22.7	50.0	3.0	5.3	3.8
世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	充実していること	20.1	2.9	10.9	30.5	2.3	11.5	11.5	10.9	27.0	14.4	9.8	9.2	2.9	8.0	4.6	7.5	0.6	20.7	10.3	
	取り組むべきこと	16.1	11.5	40.8	13.8	25.3	24.1	18.4	5.7	20.1	27.0	20.1	12.6	36.8	5.7	23.0	58.0	1.7	5.7	2.3	
上記にあてはまる人はいない	充実していること	11.6	5.9	7.7	19.0	5.7	6.6	6.8	7.0	19.3	8.6	6.1	7.0	3.9	5.4	5.6	10.5	0.7	28.4	21.6	
	取り組むべきこと	20.5	10.1	28.3	15.0	26.3	21.2	23.4	6.9	20.1	24.2	14.0	10.1	32.2	6.6	15.9	42.3	0.5	9.9	7.6	

校教育の考察)参照)。また、「充実していると思う子育て施策」と「今後取り組むべき子育て施策」を子どもの状況別で比較すると、「学童保育所などの放課後対策の充実」は小学生の子どもがいる世帯では「充実している」「取り組むべき」ともに約3割となっているが、就学前の子どもがいる世帯では「取り組むべき」が約3割に対して「充実している」は1割台半ばとほぼ半分の数値となっている。また、「母子保健サービスや小児救急医療体制の充実」「子育てに関する相談などの充実」は、小学生以下の子どもがいる世帯では「充実している」が「取り組むべき」を大きく上回るが、18歳未満の子どもがいない世帯では差が小さいか、「取り組むべき」が「充実している」を上回る。

これらの結果は、現時点で施策の対象となる人以外に久留米市の取り組みに関する情報が伝わっていないことに起因するものと考えられる。施策の対象となる人への情報提供はもちろん、それ以外の市民に対しても久留米市の子育て施策について積極的にPRし、久留米市の子育てしやすさについての認知とイメージの向上を図っていくことが必要だろう。

●子どもの状況によって大きく変化する当事者ニーズと社会的課題への対応

子育てや教育に関する認識やニーズは、子どもの有無や子どもの年齢によって傾向が大きく異なる。例えば、「子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策の推進」は18歳未満の子どもがいる世帯で、「子育てのための経済的支援の充実」も18歳未満の子どもがいる世帯、特に就学前の子どもがいる人で高くなっている。「子どもたちが遊ぶ場や機会の充実」は中学生以下の、「学童保育所などの放課後対策の充実」は小学生以下の、「保育サービスの充実」「仕事と子育ての両立支援についての企業への普及・啓発」は就学前の子どもがいる世帯でそれぞれ高いなど、施策の対象となる子どもがいる人からのニーズとなっている。

1市4町が合併し、県内第5位の面積と第3位の人口をもつ久留米市においては、医療機関へのアクセス、保育・教育施設や公園などの状況、地域での子ども・子育てに関する活動への参加状況など、子育て環境も地域によって異なると考えられる。また、学校教育への要望も、小学校と中学校で異なることが示唆された(p.86(学校教育の考察)参照)。地域や子どもの年齢の状況に応じたニーズを的確に把握し、きめの細かい子育て支援につなげることが期待される。

一方、「児童虐待防止対策の推進」「ひとり親家庭などへの支援の充実」「子育てに関する相談の充実」などは、18歳未満の子どもがいない世帯の方が「取り組むべき」が高くなる傾向がみられる。このような困難を抱える家庭への支援は、子育て当事者からのニーズとしての優先順位は低くなるかもしれないが、社会全体の課題として取り組んでいく必要がある。

●子育てしやすいまち久留米に向けて

本調査では49問の質問を設けているが、このうち順序付けが可能な選択肢が設定された25問(33項目)それぞれについて相関係数を算出し、「子育てしやすいまちか」との関連をみた。その結果、「安心して妊娠・出産できるまちか」「住みやすさ」「安全で安心して暮らせるか」「心豊かに生活できるか」「小児医療が充実しているか」「外で活動しや

■「子育てしやすいまち」との相関が確認された設問項目

	相関係数
安心して妊娠・出産できるまちか	0.537
住みやすさ	0.407
安全安心して暮らせるか	0.354
心豊かに生活できるか	0.350
小児医療が充実しているか	0.334
外で活動しやすいか	0.323
久留米市への愛着	0.318
季節感にあふれているか	0.307

すいか」「久留米市への愛着」「季節感にあふれているか」と多くの項目で 0.3 を超えており、ゆるやかであるが相関が確認できた。このことは、「子育てしやすいまち」という認識が、多面的な要素から構成されていることを示していると考えられる。

今回の調査では久留米市を「住みやすい」と積極的に評価する人が増加しており、特に小学生の子どもがいる世帯で 10 ポイント以上の増加をみせている (p.29 (行政施策の考察) 参照)。そして、久留米市を「子育てしやすい」とする割合は小学生の子どもがいる世帯で最も高く、また、前回調査から倍増している。久留米市の総合的なまちづくりへの取り組みが、世帯の中にこの年代の子どもがいる市民に特に評価されていることがうかがえる。p.88 (学校教育の考察) で指摘されているように、子どものいる人は子どもの就学を視野に入れて定住地域や時期を決定することが多い

とされる。安心して妊娠・出産できる環境づくりや小児医療の充実など子育てに直接関連する施策の充実に加えて、誰もが住みやすく安全な住環境を整備し、企業や地域も巻き込みながら仕事と子育てや家庭生活との両立を支援する意識を醸成するなど、総合的な「住みやすさ」「環境の良さ」を整えていくことが「子育てしやすいまち」づくりにつながり、また子育て世代の定住を促すことにもなるのではないだろうか。

■子どもの状況別にみた「子育てしやすいまち」への評価

			そう思う	えどばち そら うか とう い	なえど いばち そら うか とう い	そう 思 わ な い	無 回 答	『 思 う 』	『 思 わ な い 』
全 体		H27 (N=1,736)	16.2	62.5	12.9	4.1	4.3	78.7	17.0
		H25 (N=1,748)	15.7	55.7	16.9	5.4	6.2	71.4	22.3
子 ど も の 状 況 別	世帯の中に就学前の 子どもがいる	H27 (n=212)	20.3	58.0	13.7	5.7	2.4	78.3	19.4
		H25 (n=251)	17.5	57.4	17.5	6.0	1.6	74.9	23.5
	世帯の中に小学生がいる	H27 (n=199)	24.1	58.8	9.0	5.5	2.5	82.9	14.5
		H25 (n=215)	12.6	59.1	18.6	7.0	2.8	71.7	25.6
	世帯の中に中学生がいる	H27 (n=132)	17.4	63.6	11.4	6.8	0.8	81.0	18.2
		H25 (n=171)	15.8	55.6	22.2	5.3	1.2	71.4	27.5
	世帯の中に上記以外の 18歳未満の子どもがいる	H27 (n=174)	19.0	63.2	12.1	2.9	2.9	82.2	15.0
		H25 (n=176)	21.0	50.6	21.0	6.8	0.6	71.6	27.8
上記にあてはまる人は いない	H27 (n=1,192)	14.3	63.0	13.6	3.9	5.1	77.3	17.5	
	H25 (n=1,159)	14.8	56.1	15.6	4.9	8.5	70.9	20.5	

今後は、子育ての当事者から高く評価されている久留米市の子育て施策や充実した教育環境について、市の内外に向けて積極的にアピールするとともに、子育て世代以外の地域住民や市内の企業、大学等との連携を深めながら、総合的な施策の推進を期待したい。

(分析者 武藤桐子)